

さの音がしゃに発音される さかん、左官 しゃかん
 さぼてん しゃぼてん さね しゃね さび しゃ
 び [会話] さの発音、和具の人ら (は) まとも
 (正確)に よお (よく) 発音せん (出来ない) 人
 ら だいぶ (だいぶん、多く) おんのなあ (居るの
 です)。左官を シャカン言うて (言っ)て 見たり。
 鮭とシャケ、サボテン言うのをシャボテン言うねん
なあ (言うのです)。鯖をシャビ言うてみたり カ
ナシャビ言うてかなさび (金鱗)を。さ、と、しゃ
 の発音が そいな (そんな) 癖になつとんね (なっ
 て居るのです)。今し (今) のもん (者) ら (は)
そおや (そうで) ねえんけど (ないが) 昔のにげ
 (人、人間) な (が) その発音な (が) こびついと
んねなあ (こびり付いて居るのです)。

さあ (竿) 【名詞】 竿 さをがさわになり更にWが消
 えた語 (志 (御座)、鳥 (答志)、北)

さあ そうだろうか。それは。(南)

ざあ (座) 【名詞】 1) 会合などで座つたり腰掛けた
 りする場所。集会や宴会などの雰囲気。(三、鈴市、
 阿、張、名、伊) 2) 腫瘍 (出き物) の回りのはれ
 て赤くなった所 [会話] 1) こんなして (こんな
 にして) 座とる (て居る) ザア 言うて (言いま
 す)。芝居見に行く おんな (俺の) ザア取つと
いて呉れよお (取っ)ておいて下さい) 言うて、そげ
な (そんな) のおも (のもの) 有るし、なんか (なに
 か) ちよいと (少し) しても はよ (早く) ザアに
着かな (つかなければ) はざんわれ (いけない) と
 か、ごつつお (御馳走) になつても 早よ (早く)
 座つて呉れえ (下さい) 言うの (のを) ザアへ着い
 て呉れえ 言う人な (が) 有るなあ (有ります)。
 2) 出来もん (物) の周り赤味持つて、ふち (縁、
 周囲) な (が) あっこ (赤く) なつて来ると、こや
まあ (此れは) だいぶ (大変) たち (性格、性質)
な (が) わり (悪い) のかして (のと思えて、見え
 て) ザアとつとられ (取つて居る) 言うて、ザア持
 つ言わんと (言わずに) ザア取る言う。

さあぐ【自ガ五】 騒ぐ。さわぐのわの子音の消失。
 (鳥、北) [会話] よけ (あまり) まあ騒ぐな。サ
 アグなまあ言うね (言うのです)。喋べるとなあ
よけ サアグなまあ、喧しん (のに) 言うてな、
サアギヤアルイテ (騒いで) まあ言う時なあんね

(が有るのです)。子ららな (子供達が) よけ 寄
 っ)て来てサアガシテ (騒がしくて) まあ おぞげや
れ (腹が立つ) 言うて、そして あんな (彼が) 来
 ると、よけ サアンで (騒いで) 喧して (喧しく
 て) 言うてな、よけ 喋るにげや (人は)。

さあこそ 一大事だ。

ざあざあ【名詞】 夕立。俄雨。(志) [用例] 盆のザ
 アザア 俄雨のこと。

ざあざあぶり【名詞】 大雨、大雨の降るさま、さざぶ
 り、じゃじゃ降り。[会話] 盆の前のザアザアブ
 リ

ざあつく【自カ五】 ざわつく 騒がしくしている。さ
 わぐのわの子音の消失。(志 (布施田))

ざあとる 1) 腫瘍の周囲が赤く硬くなった状態 ザ
 は座金の形に見たてて言う (大言海) 2) 席を獲保
 する。[会話] 1) 出来もん (物) の時は こやま
あ (これは) たちな (性質が) わりもんやなあ (悪
 い物だ) 言いおったなあ (言いました) ザアトルと。

さあまにあわん 急の役に立たない [用例] 愚
 図々々しとて (して居て) サアノマニアワン奴や
 (だ)。

ざあもつ 1) 座を取り持つ、同座の人々の気分をな
 ごやかにするよう対応する 2) 出来物が赤く腫れ
 る

さあゆうたら 1) 何かと言えば (志 (布施田))
 2) 何か之急に起つたら [用例] 2) サアユウタ
 ラ夜中でも起きて 行かな はざんわい (駄目で
 す)。

ざある (笊) 【名詞】 笊 薄く、細く削つた竹で編
 んだ円形の容れ物 さの音の二拍化 (志 (志島、甲
 賀、布施田、安乗)、鳥 (国崎)) [会話] てぐさ
 (天草) 炊いて、ザアルで漉したのを 袋い (へ)
 入れて、絞つて、すう (酢) 入れて冷やすと とこ
ろてん。

さあわり【形容詞】 さらつとして居る。口あたりがよ
 い。手ざわりがよい。[会話] サアワリと 渋な
 (が) 抜けて、美味いのおを (のを) あもおしとん
のおを (甘くして居るのを) さわし柿

さい (菜) 【名詞】 食事の副食物。おかず。(志 (布施
 田、片田、船越、志島、御座、鶴方、神明、立神、
 甲賀、国府、安乗、浜島)、鳥、(相差、坂手、国崎、

答志) 桑郡、桑市、員、鈴市、津、安、一、松、阿、張、名、伊、北、南、熊) [会話] おかずの事なあ(です)。サイ無しで 喰うた。サイな(が) なんも(なんにも) のおて(無くて) 言うて、味噌ザイで喰うた時や(時は) 今日はサイな(が) なんもないどお(ぞ) 味噌ザイやどお(だぞ) 言うて、なんでも(何でも) ええない(よろしい) ぱっと はりこで(張り込んで) なめみそ言うて、なめみそな(が) 一番ごっつお(御馳走) やったの(でした)。金持でも 醤油を小皿へ ちょいちょい(少し) 落としといて(ておいて) ほいて(そうして) 寝やすと(箸を横にして付けると) 醤油な(が) よけ(多く) 付くよってん(から) 立てといて(箸を立てておいて) ねぶれ言いおったの(言いました)。横に寝やすと よけ 付いて来るやんない(でしょう)、立てると 先だけで ええもんで(よいので) 立てといて ねぶれ言いおったんてわい(言ったそうです)。

さい(隅、際) 【名詞】 或る事柄が行われる その時機 時節 おり とき 場合 [会話] このサイ言うとかな(言っておかなければ) はざん(いけない) 言うて、此の時に 言うとかな 言うの(のを)、このサイ えごと(完全に) かた(決着) つけとかな 言うて、此の時 言う事やなあ(です)。此の時に、えごと決めとかな 言うのを、このサイにえごと まあ、かたつけとかな言うてな、けじめつけとかな 言う時や(です)。

さい(才) 【名詞】 才能。知能。学職。[会話] 頭な(が) 冴えとんな(ているのは)、サイな(が) 有るなあ言うのな(です)。ひねこし(大人のような) のおでも(のでも)、あのかあ(子は) どいらい(大変) さえとんなあ(賢い) 言うて、サイが有る言うのを冴えとる(ている) 言うのなあ。さいち(才知) や(です)。さいちもん(才知者) や。あや(彼は) まあ さいちもんやよってんなれ(だから) 言うて、さいちな(が) ええねよって(よいのだから)、ちょいと(少し) 言うと まあ ちゃんと考えてすられ(します) 言うて。賢い言うこた(事は) 頭に知恵な(が) 有る 言う事やわい(です)

さい さえ [用例] あんでサイ(彼でさえ) (志、鳥、員、鈴市、松、多、張、伊)

さい。ざい(采) 【名詞】 指図。指導。ざいふる参照

ざい(在) 【名詞】 田舎 在郷 在所 農村地帯 ザ

イショ(在所)の下略(大言海)(志(布施田)、鳥、阿、張、伊、熊) [会話] ザイ言うと田舎の事なあ(です)、あや(あれば) ザイのらやなあ(人たちだ) 言うて(言って) 百姓どこ(農村)を ザイヤ(だ) 言うなあ(言います)。百姓どこを、津ザイヤとか(だとか) 松阪ザイヤとか 言うて、秋(秋の収穫の手伝) 行くと、ザイヤ(だ) 言いおったわい(言っていました)、津ザイヤへ いたね(行った) てが(そうだ)、松阪ザイヤへ ことしや(今年)は いた(行った) とか、四日市ザイヤへ いたとか。

ざい(際) 【名詞】 手際の略。身分、身の程、普通身分をわきまえない行為をする者に言う おなごザイ。

ざい(菜) 【名詞】 上に名詞がついてそのものを副食とする事を表す みそザイ さい 菜に同じ

さいいれ 【名詞】 おかず入れ、副食を入れる容器(志、鳥) [会話] おかず入れの事 サイレな(が) 無いわれ(有りません) 言うて、さいばこ言うてな、味噌ばつか(ばかり) 入れよおったの(入れたのです)。味噌ばこや(だ) 言うて。

さいか 【助動詞】 でも、さえも、すら、子供サイカ出来る。

さいが 最後は、終りには、そうすると、最後、最後はの訛り さいご参照(志、鳥、員、三、鈴市、上、阿)

さいかく(才覚) 【名詞】 苦心。苦勞して金品を求める事。くめんする事。やりくり算段。[会話] 仕事の事 考へたり、いろんな(いろいろな) 事 準備する事をなあ、サイカクせな(しなければ) 言うて、あのひた(人は) サイカクな(が) よおて(よくて) 言うやんかい(言います)。

さいかく(犀角) 【名詞】 インド犀の鼻角を粉にしたもの。解熱剤として用い、白色、黒色、白黒混合とがあるが、黒色のものを最上品とし、うざいかく(鳥犀角) と言う [会話] サイカク飲ませ言うて、熱な(が) 有るとなあ。〇〇小父な言うてきよおった(来ました) “ちんぼ 大熱はよ(早く) かか(妻) 貰らへ、おめか(女陰は) サイカク熱さまし” 言うてな。昔や(は) 風邪引いた サイカク飲ませ言うてな 牛の角をなあ。医者い(へ) 行くね(のだ) 言うて、死んだり生きたりやなけな(でなければ) 行かせん(行きません)。牛の角をこおて(買って) 持っどて(ていて) 熱な(が) して来ると かい(削って) 飲しよおったの(飲ませて居

ました。

ざいかた (在方) **【名詞】** 田舎。ざい (在) に同じ町方に対して言う (桑市) [会話] ざいの方い (へ) いてこおや (行って来ましょう) 言うて、ざいの方はこおやれ (こおです) 言うて、田舎の山の方を、ザイカタや (だ) 言うて。

さいかて、**さいか**と でも、あんでサイカテ (サイカト) (彼でも)。

さいぎ **【名詞】** 薪 割木 細木の意か 細く割った木 [会話] サイギ、割り木 (薪) かい (ですか)。サイギで、どづいたんどお (叩いてやるぞ) 言うて、よお (よく) わるよ おったやんかい (叱ってました)。割り木 (薪) の事を、サイギや (だ) 言うて。

さいぎではなこする そっぽむく、相手にしない [会話] サイギデ、ハナコスツヤん (様に) しとる (している) 言うてな、あいそ (愛想) な (が) 無いとなあ。どおでな言うても、知らん顔して、ほんえ (本当か) ふん言うるとと (言うて居ると) サイギデハナコスツヤん (様に) 言うて、人な (が) 話、言うてもな がいん (あまり) それい (へ) つち打たせんとなあ (相槌しないと、返答しないと)、サイギデハナコスツヤん しとんね (しているのだ) 言うてなあ。

さいぎる (遮) **【他ラ五】** 1) へだてをして見えないようにする 2) 邪魔しさまたげる。さききる (先切) の変化したもの。さえぎるの古形 3) 先頭に立って事を行なう。[会話] ³⁾ なんでも (何でも) 一人 先い (へ) サイギッテ 言うて、先い するとなあ。なんでも あげん (あんなに) 一人 サイギットンネ (ているのだ)、先い 先い する事をなあ サイギル。さいそしね (出しゃばり) よってん (だから) サイギッテ、わがと (自分) 一番に あやれ (あれ) 言うてな。先き走って いなん (要らない) 事、先い (へ) まあ 喋る人な (が) 有るわい (有ります)。そすと (すると) あや (彼は) なんでも、あげん サイギッテ 一人言うてな

さいく (細工) **【名詞】** 1) 計り事、奸計、たくらむ事 2) 小さな仕掛け (志 (布施田)) [会話] ¹⁾ サイク。なんやかや (色々) こしらえる事なあ (を) サイクする言うて。なんか (なにか) 話しても あやまあ (あれは) あんな (彼の) サイクや (だ) 言うて、話をあんで (あれで) 作る言う事やろなあ (でしょう)。わがとな (自分が) 作り話しとか言う意味やかなあ (でしょうか)。あんな サイクや

なあ (だ) 言う事な (が) 有るわい (有ります)。あんな 計画した事やなあ (だ) 言うのなあ (言うのも) あんな (彼の) サイクやなあ (だ) 言う時も有るなあ (有ります)。²⁾ 釣の道具やなんや (とか) 仕掛けを ちよいとした (少しの) サイク 言うなあ (言います)。あや (彼は) サイクな (が) 上手なもんで (ので) いかり (いかり釣り道具) 作っても 鳥賊な (が) よおつく (よく付く、よく釣れる) 言うなあ。じょおし (漁師) の人ら (は) サイクなええ 言うて (よいと言います)。

さいぐい **【名詞】** 副食にする魚を釣りに行くこと [会話] サイグイに連れてて (ていって) くれえ (下さい) 言うて、沖い (へ) 連れてて 貰らうと、びんしょ (便乗) かう (願う) 時やなあ (は)。おらも (俺も) サイグイん (に) 連れててくれえ 言うて、おかずするだけより よお釣らんもんで (ので)、さいつりん (に) 連れてて もろたや (貰ったら) 大漁やったよお (だった) 言うてな

さいくいびんぼ 美食すると貧乏になるの意 (南) [会話] さい (副食) よけ (多く) 喰うと、サイクイビンボで言うて。皿 一杯も喰うたてや (食べたら) 味噌汁三杯 喰うと サイクイビンボ 言うて。さい (副食) よけ 喰うと びんぼ (貧乏) する言うて、サイクイビンボ 言うて。

さいくする 細工する 裏から工作する、奸計をめぐらす

さいくなつかん 始末がつかない。手に負えない。(志 (布施田))

さいげんむすぶ 宴席の最後に主席から左右に流れた盃を末席にて二つとも受け取り、両者を合せて酒を飲み干し席を終わりとする。際限結ぶか 際限 時間、空間、程度などで 此れ以上ないと言う限界、かぎり、きり、はて。[会話] さいげん 言うのは、いっち (一番) しまい (終り) 座敷のとり (終り) で、じょおほお (両方) から、酒 つんで (注いで) 来て 真ん中で でよたのおを (出会ったのを) 亭主役 (主人役) な (が) もてくんねてや (持ってくるのです)、サイゲムスブ 人の とこ (所) へ。そんで (それで) しめて (終って) うっておけ しゃんしゃん (拍手) めえでとござる (目出度う御座る) しゃんしゃん 言うて

さいご (最後) **【名詞】** 1) 物事の一つのしまい、一番あと、最終 2) そうすると、そうする時には すれば したら (志 (布施田、甲賀)、鳥 (鳥羽)、

度) [会話] 1) こんな (これが) サイゴヤどお (だ) 言うのかい (ですか)。終りの事を こんな (これが) サイゴヤどお 言うて (言って)、こんで (これで) 仕舞いやどお 言うのを、こんで サイゴヤどお。言うのと、2) こいな (こんな事) 事して見よ (見なさい) したら サイゴヤどお 言う。それこそ サイゴヤれ (だ) 言うなあ (言います)。そいな事 (そんな事) したら、それこそ 見やれたら (見られたら) サイゴヤれ (だ) 言うてなあ (言って)、怒られる言う事を言うんやろなあ (言うのでしょう) この場合 (時) は、サイゴヤ 言うなあ (言います) それこそサイゴヤれ (だ) 言うねよつてんなあ (言うのだから)。そいな (そんな) ことして、それ見やれたり、聞かれたりしたや (ら) サイゴヤれ 言うて まあそや (それは) 仕舞いやれ (だ) 言う事やなあ (です)。おこられんど (怒られるぞ) 言う事を あや (あれは) 言うんやろ (言うのでしょう)。

さいごしゃえ (さいごしゃへ) 【菜拵】 【名詞】 御飯の副食を作る事 [会話] おかず こさえんの (作るのを) サイゴシャエも せな (しなければ) はざんし (いけない) 言うてな、おかずこさえ (作る)をなあ、さい (副食)を、こさえな (作らなければ) はざん 飯のさい や (です)。

さいごべ 【名詞】 1) いたちの尻。臭い尻 (志 (甲賀)、鳥) 2) 最後にする報復。

さいころ (骰子) 【名詞】 立方体 六面体をしたもの [会話] さいころ 言うて普通のめえ (目) の 付いとる (ている) のやなしん (のでなくて)、芋でも碁盤に切るとなあ サイコロん (に) 切って 賽の目ん (に) 切って言うて、豆腐切んの (切るの) でも、手のひらで切ると 手のひらで 賽の目ん (に) 切って入れとけ (ておけ) 言うてなあ、四角ん (に) 切ったの (のを) サイコロ。

さいさい (再々) 【名詞】 たびたび 何度も (志 (片田、浜島、布施田、鶴方、甲賀)、桑市、上、阿、北、尾) [会話] サイサイ 言うのは 度々の事をサイサイ。サイサイ 言うのはくどいけど (けれど) 言うねよつて (言うのだから) 度々繰り返して言う事を サイサイ 言うてなあ (言います)。

さいさんわけ 【名詞】 戸主の財産を子供に分配する事。遺産分配。(熊)

さいしえん 【名詞】 賽銭 神佛に参詣して奉る金銭 (北)

さいしや 1) さえずれば 2) 最初は、初めは [会話] 1) 表は踏み サイシヤ 枝な (が) 張つてくんねやんかい (来るのです)

さいしゅう (さいしふ) 【採集】 【名詞】 真珠母貝から真珠を取り出す作業。

ざいしよ (在所) 「(だいしよ)」 【名詞】 1) 生れた土地 2) 自分の住む部落 住所 (志、鳥、熊) 3) 嫁の生まれた家 (桑郡、桑市、員、鈴市、安、張、度) [会話] 1) ザイシヨ 言うのは 村の事 なあ (です)、生れたとこ (所) をザイシヨ。あの人 な (の) 生れたザイシヨ、和具 やてわい (だそうだ) 言うて、ザイシヨ やよつて (だから) 故郷の事を。

ざいしゅうち 【名詞】 村中 村の中

ざいしよどおしてはまらせん 在所の中だけでは結婚相手が足りない。

さいずる (さひづる) 【自カ五】 喋る さえずるの古形 (広辞苑)

さいぜん (最前) 【名詞】 先刻 先程 つい前 [会話] サイゼン 断つた のにお (のに) 言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います) 前に言うの (のを) サイゼン や (だ) 言うてな。此の間とか、先日とかなあ この前 言うたばかやのん (ばかりだのに) 言うのをな。サイゼンの事 やのん (だのに) まあ (もお) 忘れたたの かい (忘れてしまったのですか) 言うたりな。

さいそし 【形容詞】 出しやばり。差し出口する。(志 (片田、浜島、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、安乘)) [会話] サイソシ 事 すんなまあ (するな) 言うやんかい (言います)。よけ (多く) なんやかや なぶつたり (さわつたり)、人のしとる (して居る) 事をしん 行くと (しに行く)と サイソシ 事 すんな よけ 言うて わる われる (叱られる) の なあ (のです)。大人の人の おを (のを) 子供 らな (が) なぶりん (なぶりに) 行くと、サイソシ 事 しに くんな (来るな) 言うてわる われる の をなあ。サイソシ のは 人のしとる 事を わがと (自分) も、しん (しに) 行たり せえ (しなさい) 言わせん (言わない) のを しん 行たり、なんやかや なぶつたり すると サイソシ 言うて、サイソシ 事 ばっか (ばかり) してまあ 言うて。

さいた 【動詞】 1) さした 射した (日がサイタ) さした (傘サイタ) 2) 裂いた 3) 刺した 突き刺した 4) 差した (志、度、伊、尾) [会話] 1) ごこお (後光) な (が) サイタ、あ の ひた (人は)

ごこなサイタなあ言うて えろお (えらく) なった事を

さいだい (菜代) 【名詞】 おかずの代金、少しの金額
[会話] めしだい (食事代) やたら (だとか)、サイダイやたら 言うて、サイダイも出さんと (出さずに) 言うて、サイダイもしょおしょ (少しで) ないわれ (ない) 今しゃ (今は) たっこおて (高く) 言うてな。おかずだい いや (言えば) ええんけどな (よいのだが) サイダイも貰らわんと (わずかに) 言うてな、サイダイも出せえまあ (出しなさい) のも (お前も) 言うてな。

さいだけ 不漁 少しの漁で自家のおかずだけの意。収入が無い。[会話] 沖へ漁師な (が) いて (行って) おかずだけ言うて、一匹か二匹なあ 釣って 来ると まあ 家のおかずだけやもんで (だので)、今日はサイダケ やったよお (だった) 言うて、よけ (沢山) とて (獲って) 来ると、大漁やけど (だけれど) まあ 三四匹か五匹して来ると、家い (で) 食うぐらいより無いもんで (ので) 今日は まあ、おかずつりやった サイダケやったよお (だった) 言うてな

さいだんと 【名詞】 破れ籠に渋紙を張ったもの。粒物を入れるのに用いる。さいと、せんまいばり参照
[会話] 頭をはって サイダント 言うて。

さいち (才知) 【名詞】 才能と知恵、心の働き、かしいこと、頭の働きぐあいの鋭い事 [会話] サイチな (が) ええねよってん (よいのだから) ちよいと (少し) 言うて、ちゃんと考へてすられ (します) あや (彼は)

さいちなにげ 【名詞】 才智な人間、何事によらず優れて居る人 [会話] サイチナニゲ 言うて 発明な、なん (何) さしても (させても) 利口なにげ (人間) をなあ、さいちななあ (だ) あや (彼は) 言うて。はつめえ言うのも、利口や (だ) 言うのも一緒 や (です) 賢い 言うの (のです) 利口、賢い、智恵 深い、言うやんかい

さいちもん 【名詞】 才知者。頭の働きが鋭い人。賢い人。(志 (布施田)) [会話] あや (彼は) まあ サイチモンよって (だから) 才知な (が) ええねよって (よいのだから) ちよいと (少し) 言や (言えば) ちゃんと考へてすられ (します) 言うて。

さいづち (才槌) 【名詞】 小型の木の槌。竹の釘、柄、工具等、木の部分を打つのに用いる。打つ部分が大きく柄が小さい。(志 (鶴方、布施田、浜島、甲賀)、

鳥 (長岡、国崎)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、安、津、上、阿、張、名)

さいづちあたま (才槌頭) 【名詞】 前頭、後頭の突き出て槌のような頭 [会話] サイヅチアタマ 言うのは、前と後ろが出とる人 (出て居る人)。うしろこんぶ (後頭部) も、前も出とんのおをな さいずち。ええ (柄) 真ん中に付いとる (て居る) よってなあ (から) 住復出とる (出て居る) もんで (ので) サイヅチアタマ。

さいて させて下さい [会話] さして (させて) くれえ (下さい) わしも (私も) 言うてな。お前家で仕事しとんのかい (しているのですか) わしも さしてくれえ 言う時な (が) 有るんなあ (有ります)。あぜこぜの人 (なまりのある人) な (が) 言うねやわい (言うのです) サイテ 言うな (のは)、はんなかだ (なまりのある人) みたいな (のような) のおなあ (のが) たいがいの (大体の) にげや (人間は) さして (させて) くれえ 言うけどな (言います)。

さいて 1) 射して 2) 裂いて 3) 刺して、突き刺して、差して 4) 指して。方向などを示す。
(志、鳥、桑郡、桑市、員、鈴市、津、松、張、伊、尾) [会話] せだ (布施田) の若い衆や (は) モス の巾広 (帯) しりこけん (しりの所で) 結うて (結んで)、尻いちよっかけて (少しかけて)、煙草入れ サイテ ひよっこひよっこ と歩いて来いおたたの (来たのです)。

さいてくれ 指して下さい 差して下さい

…**さいてくれ** させて下さい

さいと 【名詞】 張り子。張り籠。(志 (片田)) [会話] サイト 言うななあ (のは) なんやかや 張りぼてん (に) したると (してやると) サイト みたいななあ (ようだ) 言うて、籠が有ると、それい (へ) 紙を張って、しぶ (洪一柿洪) ふいて (塗って) しれもん (入れ物、容器) の代りみたいに (のよように) しおたたわい (して居ました)。サイトや (だ) 言うて、籠や (とか) なんやかや の ボール紙みたいな のおの (のよようなの) うちやれん (壊れた物へ) 紙貼ると、サイトや (だ) 言うて サイト はつたよおななあ (ようだ) 言うて、紙を糊で 張りぼてん (に) すんの (するのを) サイト 言うて、なんやかや よけ (沢山) 障子やどけも (なども) そそくつて (つくろって) 有ると サイト みたいななあ 言うて、紙を重ねて張るもんで (ので) サイト みた

いななあ。昔や (は) そいな (そんなのを) いれもん (入れ物) にしよったね (して居たのです)。籠いは (へは) つぶもん (粒物、殻類) 入るとももってく (漏れて行く) やがな (でしよう)、紙張ったると (てやると) もらせんもんで (漏れないので) そいなのおに (そんなのに) つぶもん 入れたり、こおのもん (粉の物) 入れたりしとりおったの (して居たのです)。竹の籠はめえ (目) な粗いめえな (が) 無いよおに張りつぶしたんの (潰してやります)。籠でもちよいと (少し) 破れて来て、底な (の) 竹な (が) へしよれてて (折れてしまつて) 破れるとこ (所) な (が) 有ったりすると それ使うの (のが) あれやもんで (出来ないの) サイト 張ったりおったんやろなあ (張って居たのでしよう)。そしといて (そうしておいて) なんやかや つぶもん 入れたり、渋ふいたると (塗ると) すべ (滑り) な (が) ええもんで (よいので) こおのもん 入れたりしよおったわい (して居ました)。サイトバリ、紙をなん枚も重ねると、サイトみたいな なあ 言うた (言いました)。そして サイト張んな (張るのは) 一枚やどき (など) で はざんよつてん (駄目だから) 何枚でも、糊で張りおったわい (ました)。

さいといて 1) 刺しておいて 2) させて置いて下さい

…さいといて しながら、途中で有る事 (志 (布施田)) [用例] 食いサイトイテ 出てたない (出て行った)。

さいとけ 1) 刺しておけ、差しておけ (志) 2) 裂いておきなさい。

さいとり (菜獲) 【名詞】 副食にする魚を獲りに行く事。商売にせず自家の消費する魚を獲る事 [会話] サイトりん (に) いこや (行きましょう) 言うて。そすと まあ、いても (行っても) よけ (沢山) 釣って来る、サイトりん (に) いた (行った) 言うても、ええとこい (よい所へ) 行くとなあ、よけ 釣って来る時な (が) 有るやんかい (有ります)

さいとる 1) 咲いて居る 2) 差して居る。指す。刺す。射す。

さいとるのみ 不漁。自家の副食にするだけより釣れなかった。[会話] サイトルノミ。なんも (少しも) 獲らんと (獲らないと) まあ サイトルノミや (だ) 言うてだ。サイトルバカヤ (ばかりだ) 言う事をなあ さいとるだけやつた (だった) 言うのを

なあ、サイトルノミ言うんやわいなあ (言うのです)。

さいなら 【感動詞】 別れる時の挨拶 さよなら、さようなら シカラバ (然) と同意。然様ならばの意。さよならは約、さいならは、さよならの音転。(員、鈴市、鈴郡、久、一、松、多、上、阿、張、名、伊、尾、南)

さいなんごと (災難事) 【名詞】 突然 身にふりかかるわざわい。特に家人の怪我、死亡。[会話] あんごし (馬鹿) こお (子) な (が) 出来たり、かたわし (不具) のおな (のが) 出来たり、サイナンゴトな (が) 有ると、不幸事な (が) 来ると、まあなさす (魔がさす、邪魔が入る) 言うて

さいぬか 【名詞】 靱穀 (志、鳥、四、鈴市、一、松、多、度、伊)

さいはい (采配) 【名詞】 采配は元来指揮用具の一つ、指図計画するの意に用いられる。[会話] サイハイ振って言うて、なんもかも (すべて) わがと (自分で) 指揮する事を サイハイ。サイハイ振って言うて。ざいふるも よお (よく) 似た言葉やなあ (です)。ざいふる言うな (のは) 自分が大将になって、なんでも (何でも) あれしたれ (してやれ、これしたれ) 言うて、ざいふんのなあ (振るのです)。サイハイ言うて、こげん (こんなに) して、あげん (あんなに) して言うて、だんどり (計画) して、こげん しょおや (しましよう) あげん しょおや 言うの (のを) サイハイ振る。

さいはいふる 指図する。偉ぶって指図する。さいはい参照

さいばこ (菜箱) 【名詞】 おかず入れ (志、鳥 (石鏡)) [会話] サイバコ 味噌箱言うて、弁当のおかず入れんの (入れるのを) サイバコ。家でも 蠅な (が) たかったり するもな (物は) サイバコ入れるけど (が)、弁当持って行く時に 入れんのを (入れるのを) サイバコ。昔や (は) 味噌箱言うて (言つて) こいな (こんな) まるくたあい (丸い) のおに (のに) 漆な (が) 塗って有って、それい (へ) 味噌入れるもんで (ので) 味噌箱言よおったの なあ (言つて居たのです)。味噌入れて山や、畑へ行くのん (行くのに) もてきおったの (持つて行ったのです) 味噌箱や (だ) 言うて。うちおい (打覆い蓋が覆って居る) になって、漆な (が) 塗つて あんの (有ります)。うちおい言うのは、蓋ん (に) なつとる (なつて居る) 上と下と重なるの な

(のが) うちおい、うちおいぶた言うやんかい (言います)。サイバコ言うと 漁 いも (にも) 持てて (持って行って) しいも 持てて 畑へ行くのも何処へ行くのも 味噌箱はなあ (です)。家ではそいなもん (そのような物) 使わへんけど (ないが)、外へ出てく (出て行く) 時に 弁当持って行く時に。それい (それに) すると 埃な (が) 入らせんし (ないので) こぼれやせんもんで (ないので) ぴしやつと、こぼんとなつとりおったのんなあ (なつて居ました)。ごぼつと うちおいに上と下と 同じよおにして ちよいと (少し) 大つきいちっさあ (大小を) して (つけて) 重なるよおにして 曲げもん (桧の薄板を曲げて作った容器、御飯入れ) と味噌箱と。嫁入り道具やつたんなあ (でした)。嫁入り道具もてくの (持って行きます) 二重かがり (籠) と 磯桶と浜桶と。貧乏やもんで (なので) 箆笥やなんも (他の物も) こおて (買って) 貰われやへんし (貰えないので)、磯桶と二重かがりと味噌箱と 曲げもんと それは わがとな (自分の) 道具やもんで (だから) 持てきおったの (持って行きました)。それさえ (それだけ) 持てきさいしや (持って来れば) 箆笥や長持のおてもなあ (無くても) 磯 (海女作業) 行て 一生けんめ (懸命) すや (すれば) よかったの (のです)。“箆笥長持や (は) 置いて来い、親からゆずりのひげぼぼ 持てこい (持って来い)” 言うてなあ。昔や (は) 箆笥や長持や そいな (そんな) 気の利いたもな (物は) よお そろえよかな (揃えられない) どいらい (大変な) 金持や (は) 買おて (買って) 貰うやろけど (だろうが) 普通のびんぼや (貧乏な家) は そいな もん (物) も あろかい (有りません)。磯桶と浜桶と、そいて 二重籠と 曲げもんと 味噌箱、嫁入り道具 なんやら (なにか) 歌に有るやんか (有ります)。“志摩の娘に 箆笥は要らん、のみに 榎の桶一つ” 榎の桶い (へ) 二重かがり入れて、いそじよつき (磯着) を入れて それでよかった。そんで (それで) なんも (なんにも) 文句言われざつた (なかった)。そんだけあや (それだけ有れば) 商売 (仕事) 出来んね (出来るのです)。百姓の家や (は) たご (たんご、肥を運ぶ にない) 持てきよつたなあ (持って行きました)。たご、こえ (下肥) ん (に) 持つ、たごと、おく (担い棒) と。そんで 磯桶は持てかせんわい (持って行きません) 百姓の家は、わしら (私は) 磯行くもんで

(ので) 磯桶と浜桶と どいらい (大きい) ちよおせん桶 (朝鮮桶) ゆうて (作って) もろてなあ (貰って) それは 朝鮮行く時 使うだけやけど (だが) 家で めえ (若布) かずき (する時) ん (に) 浜桶や (で) なけなあ (なければ) ちっちゃいのお (は (小さいの) わ) よけ (多く) もられやせん (入れられない) 大きな浜桶え、めえ (若布) を一杯上手にもつてなあ (入れて) 上から十文字すると底い (へ) 迄 水な (が) 乗つても (て居ても) とごつてかへんの (沈んで行かないのです) めえ (若布) を ふち (縁) から、ふちから 掛けて、ぼんと、蛸 広げたよおん (に) めえ (若布) で 浮いとんのなあ (浮いて居ます) めえ (若布) で、ささえとてなあ (て居て) そいてまあ (そうして) 上手ん (に) つめて 有るもんで (ので) 水が入ってかせん (入って行かない)。ぼんと 上へ浮いとんね (浮いて居ます)。一杯つ入れて 揚げると、かんこ (生箕) 一杯つ 有りおつた (ました)。こやこやあま (下手な海女) は 底 入つても (潜つて行つても) めえ (若布) しても 息な無いもんで (息がない底に長くおれない) 風呂屋の戻り (帰り) や (だ) 言うて ゆうて (湯手拭い) さげたよおにして、めえ (若布) いっほおつ (一本宛) さげて出て来ると あやあれ (あれ) 風呂屋の戻りで、めえ (若布) いっほ (一本) さげて出てくられ (出て来る) 言うてなあ。よお (よく上手に) かずかんもな (採らない者は) 息な (が) 短かい (息が続かない。潜水時間が少ない) と よお取らんやんない (獲れないでしょう)。そやもんで (それで) いっほ 取つて ふんと 出て来るとだ 風呂屋の戻りで ゆうて (手拭) さげたよおんして (ようにして) 出て来られ 言うて、上で覗いとて (て居て) 笑いおつたわい (笑いました)。おか (陸) で 二人前する (働く) にぎや (人間は) そげん (そんなに) よけ (多く) 無いけど (無いが)、海女の仕事やつたら (だったら) 五人前でも十人前でも 出来んの (出来るのです) 海女だきや (だけわ)。陸の仕事は いくら仕事なえらい (よく働く) 言うても 一人で二人前もする にぎや (人は) そげん (そんなに) よけ (沢山) 無い。たあ植え (田植え) と 磯人は 何人前でも 出来んな (出来ます)。そやよつて (だから) 風呂屋の戻り 入つて来んのと (潜ると) 腕一杯 抱いて 来んのと やんない (でしょう、比較すると) そんだけ (それだけ) 違うの

なあ (違うのです)。たあ植えんのは (るのは) かなり (随分) いきおったけど (行ったが) 磯人は ほんとの (本当の) こやこや やったなあ (でした)。その代り 浦、行くとなあ 養殖かずき (真珠貝の採取) になると よかったの (のです)。浦 ばっか (ばかり) 行とりおったもんで (行って居たので)。そのにげ (人) によって 前 (太平洋側) 行くと よおかずかん (沢山採れません) 職場によって そのにげ (人) の 持ち分 (得手、不得手) で上手、下手な (が) 有って なんでも。わしら、浦え (へ) ばっか 行きおったもんで (行って居たので) 前いたら (行ったら) 散々や (です)。ゆうて 言うな (のは) 手拭、風呂屋いて (行って) 手拭を、ゆうて。

さいばし (菜箸) 【名詞】 副食を作ったり、取り分けたりする長い箸。

さいばしる (才走) 【自ラ五】 才気が勝っている 才気がありありと表れる。

さいばたけ 【名詞】 家の周りに有る自家用の野菜を作る畑。

さいはらい (さいはらひ) (棧祓) (采拂) 【名詞】 ちり拂い はたき さんばらい サイ (棧) ハライ (拂) の意 (方言俗語語源辞典) (志 (浜島、布施田、志島、片田、磯部、船越、御座)、鳥 (答志)、桑郡、桑市、員、三、四、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾) [会話] ばち ばち 叩くのなあ (を) サイハライ。はたき なあ (を) サイハライ。

さいふ (財布) 【名詞】 1) 財産 2) 家計 (志、松)

ざいふり (采振) 【名詞】 指揮者 ざいふり 采振り 采配を振る人 指示する人 さいはい 参照

ざいふる (采振) 【動詞】 我がもの顔をする。権勢を振り廻す。さいはい 参照 (志 (布施田)) [会話] ザイフル なんもかも (総て) わがと (自分で) ザイフル言うて。沖行くと、さいら舟 (秋刀魚を獲る舟) な (が) ザイフリや (だ) 言うて (言って) 指揮すんのを (するのを) ザイフリや (だ) 言うよってん (言うから) なんやかや あれせえ (しなさい) これせえ (しなさい) 言うて、ザイフル。

さいふをもつ 家長になる。家の経済の責任を持つ。(四) [会話] あの家や (は) かか (妻) な (が) サイフ モットテ (ていて)、とた (夫は) かかん (妻に) もろとんね (貰っているのだ) 言うて。

かかな (妻が) 遣り繰り すんのなあ (するので) す。かかな (妻が) おらぎや (俺の家は) 財布 握とって (ていて) 煙草代 貰らうのん (の) にい っしょけんめ (一生懸命) や (だ) 言うてなあ。しんしょ (身上) 遣り繰り する。しんしょもち (身上持ち) するとなあ サイフモットラナ (ていなければ) しゃあないしなあ (仕方ありません)。

さいふをもらう 家長として親から責任を引き継ぐ。一家の経済の責任をまかせられる。(四) [会話] サイフ モラヤ (貰えば) しんしょ (身上) もおた (貰った) よおな もんやし (もの) です、おらぎや (俺の家は) まあ かかな (妻が) 財布 持ととんねよってん (持っているのだから) 言うて、男の人ら逃げ口 (逃げ口上) ん (に) 言うわい (言います)。ぜん (銭) 出さんでええし (よいし)、かかん (妻に) かづけときやええし (かこつけておけばよいし) 一杯飲みん (に) いこやんかれ (行きましよう) 言うて、おら (俺は) まあ かかん (妻に) 財布 握ざられとて (ていて) はざんよお (駄目だ) 言うて、逃げときや (ておけば) ええ (よい)。

さいふをわたす (財布) 財産を引き渡す。家長権を譲る。(松) [会話] サイフワタス言うし。しんしょもち (身代持ち、家の財を支配する人)。主人な (が) しんしょ (財産) 渡す (次代に譲る) 時 サイフワタシタ。しんしょ持ちな (が)、兄貴にしんしょ 移る時に 兄貴にサイフワタシタ言うてなあ。しんしょもおて (貰って) 入ったら、うちや (家は) がったらばこ (目茶苦茶) 御飯食べて おったや (居たら) 柱な やつからかえって来て (倒れて来て)、がったらばこやった (でした)。やつからかえってたれ (しまった)。ひっくり返ってく (返って行く) 言うのを やつからかえってたれ。

さいほ 【名詞】 裁縫 末尾うの消失 [会話] 裁縫習いん (に) 行くと、針子や (だ) 言うて。サイホ習いん (に) 行くと、あしこの (あすこの) 針子や (だ) 言うてなあ。

さいぼお (さいぼう さいぼう) (細胞) 【名詞】 真珠核入れ作業時に 核と共に挿入する 外套膜の小片 [会話] 真珠のなかい (内へ) 入れるのを サイボオ切って入れる言うの (のです)。核と一緒に入れんのなあ (入れるのを) サイボオ。

さいみそ (菜味噌) 【名詞】 副食にするため大豆を蒸し、糘をつけたものに、醤油を入れたもの (度、

南) [会話] サイミソ言うな (のは、しょい (醤油) で仕込むの (のを) サイミソはなあ (です)。豆 蒸しといて (ておいて) 味噌ん (に) すんのん (するの)に サイミソん (に) すんのん 一升か二升残しとけ (ておけ) 言うて、残しといて (ておいて)。そして こんだ (今度は) 豆 一升い (へ) しょい 一升ぐらい入れてな、すると そんな (それが) ほとべて (水をふくんで大きくなって) 来て どいろお (大きく) なってなあ そして はな (糶) 臭いうちななあ (間が) うまいんてわい (美味しいそうです)。ほとべて 来ると 豆 そのままん (に) なってなあ、そして しょい やもんでなあ (なので) じつきん (すぐに) 食われんねやんかい (食べられるのです)。サイミソを それをなあ酒の肴にする人な (が) 有るんなあ (有ります)、サイミソな (が) 好きな家やなあ (は) 五升ぐらいつする家な (が) あんね (有ります)。酒飲みで酒の肴ん (に) すんね (するのだ) 言うてなあ、おらげや (俺の家は) 五升も サイミソん (に) すんのん (するので) 置いといた (ておいた) 言う家な (が) あよおったなあ (有りました)。

さいめん (際目) 【名詞】 土地の境界 サカイメ (境目) の訛。サカイメ、サイメ、サイメン (方言俗語源辞典) (志 (布施田、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥、阿、張、南、熊)

さいめんせせり 【名詞】 境界を自分の方に取り込むこと、又その人。少しでも多い物を自分の物にする人。さいめんせせる参照 (志 (甲賀、国府、安乗)、南、熊)

さいめんせせる 1) 土地などの境界を自分の方に取り込む 2) 分配する物の多少を言いつのる [会話] 1) サイメン セセル言うて、境をさいめん。サイメン セセル言うな (のは) こつきん (つつきに) いたり (行ったり)、此の家の さいめん 此処やのん (だのに) わがと (自分) こつきのを サイメンセセル言うて (言います)。あのひた (人は) サイメンセセリや (だ) 言うて、畑でも、家のやしき (庭) でも。さかい (境界) を、此処ら出て来た言うて ちよいと (少し) こつき、草な はえて来た 言うてな (言っでは) こつきすると サイメンセセリで 言うて。隣でなかつがい (仲違い、不仲になる) すんのなあ (します) 殺しやい (殺しあい) したのおも (のも) さいめんの事で、サイメンセセリで、どっちゃ (どちら) な (が) せせった

ねやら (のか) 知らんけど (知りませんが)。

さいめんなわからせん 細かい事が判からない 区別がつかない。[会話] なんやら (何か) かんやら (彼か) サイメンナ (が) ワカロカレ (判からない) 言うてなあ。ええねやら (よいか) わりねやら (悪るいか) 判らん言う事をなあ、あげん (あんなに) 言うねやろなあ (言うのでしょうか)。さいめん言うな (のは) 地盤を言うねけど (言うのだが) おかつでも なんでも 旨いねやら (のか) 味ないねやら 判らんと こやなあ (これは) 旨いねやら (のか) 味ないねやら サイメンナ (が) ワカラセンナイ 言う時な (が) あるんなあ (有ります)。区別がつかん わけな (が) 判らせん (ない) 言う事を、サイメンナ ワカラセンやんか (ではないか) 言う時な (が) 有るんなあ。

さいめんなわからせんだなおんねやら 多数の人が集まって居て誰が居るのか判らない。[会話] にげな (人間が) おおぜ (大勢) おると (居ると)、だな (誰の) 顔やら (か) 判らへんね (判らないのです)。だな おったねやら (居たのか) かな (彼が) おったねやら おら (俺は) 判らせんなあ (ない)、一杯 (沢山) おって (居て) サイメンナワカラセン ダナオンネヤラ 言うて。顔 見分けん (見分けずに) と、そんなり (そのまま) 来ると おおた (ああ) ダナ オッタネヤラ おら (俺は) サイメンナ (が) ワカララッタヨオ (判らなかつた) 言うて、なんやら (何か) よけ (沢山) ごちゃごちゃ おって (居て) さいめんな (が) 判ろかれ (判るものか) 言うてな。

さいもらい。さいもらう (菜貰) 【名詞】 漁獲物を市場に揚げる手伝いをして 副食にする程度の魚を貰う事 (尾) [会話] サイモライん (に) いかな (行かなければ) はざん (いけない) 貰いん いこやんか (行きましょう) 言うて。なんぼく (網船) な (が) 来たり、さいら (さんま) 舟な (が) 来たりすると、おかつ貰いん (に) いて おこやんか (行きましょう) 言うて、よお (よく) 行きおったわい (行きました)。ゆお舟 (漁舟) な (が) 入れて (帰港して) 来ると 浜のすそい (波打際へ) いて (行って) くれえ (下さい) 言うて たま (網) で、掬って くれんねてや (呉れるのです)。おかつ貰いん (に) いて おこや (行きましょう) 言うて、知った人な (が) おるとなあ (居ると) たま (網) ん (に) 一杯つ 呉れる時な (が) 有るしなあ。はか

つたらんうちん (計量しないうちに)、はかったると (計量してしまうと) まあなあ くれやせんねやんかい (呉れないのです)。市場い (へ) 渡すのん (に) 桶い (へ) 入れて はかんねやんかい (計量するのです)、それ迄ん (に) 行くと おかず くれえ (下さい) 言うと たま (綱) で、掬ってくれよおったけどなあ (くれたのです)。

さいら。さえら【名詞】 さんま。秋刀魚。サヨリ。
(鱈) の転 (大言海) サヨリをさんまと言う地方も有る。さんま科の刀状の硬骨魚 背部は青黒色 腹部は銀白色 背びれは体の後部に有り、背びれ 尻びれの後方には それぞれ 数ケの離れびれを持つ。下顎が上顎より少し長い。表層性の回遊魚 体長40cm になる。(志 (畔名、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、多、飯、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] さんまの事 なあ (です)。“サイラ 取らんでも (取らなくても) ほお (帆) まきや (捲けば) 嬉しうち (家) のかから (嫁) ん (に) 逢お (逢おお) おもて (思つて)” 言うて (言う) 歌な (が) 有りよおったわい (有りました)。若い もんら (者) の事 やろなあ (でしょう)。

さいらあみ【名詞】 秋刀魚を獲る網 (北)

さいらざし【名詞】 秋刀魚の鮓。さんまを飯の上に乗せて作る。

さいらのぜんぎり【名詞】 秋刀魚の輪切り。切口が丸く銭に似て居る所から。

さいらぶね (秋刀魚舟)【名詞】 秋刀魚を獲る船 (志 (布施田)) [会話] さいら (秋刀魚) 獲りん (に) 行く舟。サイラブネ な (です)。サイラブネ な (が) 今日は 出てたよお (出て行きました) 凧な (が) ええもんで (よいので) 言うてな。

さいりょう (さいりょう)【名詞】 自分の判断で物事を取り扱い処理する事。指図。

さいりん (細厘)【名詞】 三耗 (一厘) 以下の径を持つ真珠 [会話] 珠入れ (真珠の核入れ) しても一年で 剥いたんのを (てやるのを) いちねんもん (一年物) 言うし、サイリン やどけや (など) 半年で 剥いたると (てやると) 半年もん (半年物) 言うて、サイリン言うたら まあ、粟粒みたよなの (のような)、ちっちゃあいの (小さいのを) そして一年で あや (あれは) 剥かれるしなあ (採取出来ます) あやまあ すぐんと (すぐに) 剥かれる (採取出来る)。

さいろくづうきん。さくろくぼおし【名詞】 大黒様の被っている様な円形の頭布。萬才の才六が被っているところから。才六は、毛二才を上略して擬人化した語。未熟者の意、人を卑しめて言う語 (大言海) サイコロの六から。(広辞苑) [会話] サイロクズキン 言うな (のは) 丸くたいのおを (丸いのを)。絞って 被んの (るのを) サイロクズウキン。米寿の時 ん (に) 被るやんかな (です)。サイロクボオシ やてやら (だとか)、ズウキン やてやら 言うてな、昔 や (は) ぜん (銭) 出して 買わんとあ (買わずに) あつかい (赤い) きれ (布) で、へり (縁) 取って、どんびごん (赤ん坊に) 被せよおったの (被せたのです) 最初は可愛らし かよおったんなあ (かったのです)。

さいわら【名詞】 打つて、やわらかくしてない藁 素藁 (度) [会話] サイワラで のおとけ (編んでおけ) 言うて、打たんと (打たずに) 有る藁で

さうち【名詞】 親類一統 さうちのさは総の意か。総家の意か。[会話] ヤウチ サウチ な (が) 言う (言います)。ごつお (御馳走) するとなあ 子ららも (子供達も) 皆 連れてよばれて来る やんかい (来ます)。まあ ヤウチ サウチ な (が) よばれて 来たよお (来ました) 言うて。みんな (皆) な (が) よばれた言うのを ヤウチサウチを 呼んで 呉れてなあ 言うて。すすとり (大掃除) や (だ) 言うて、ほん (本当に) ヤウチサウチ な (が) 来い言うて、重箱上げて。箸 な (が) がちやんと いごと (と) なあ (働くと) やうち な (が) 来い よお (来なさい) 言うて そのうれしのおな (嬉しいのが) やうち な (が) 呼ばれて くのなあ (行くのです)。爺も婆も 子らら (子供達) も 皆 連れて来い よお 言うて、ヤウチサウチ な (が) 行きおったのなあ (行って居たのです)。ヤウチサウチ な (が) 行く時 や (は) 爺も婆も 家内中 ななあ (が) 行くのをなあ ヤウチサウチ言う の (のです)。

さえぎ【名詞】 ながこぼん コバンザメ科 体は太短い、吸盤も比較的大きく、その後端は胸鰭の中央又はそれより後方に達す。吸盤の板状体17~19対で、3~4列の歯列をそなえる。下顎の前端と胸鰭の後にはまるい。背鰭起部は、臀起部より僅かに前位。尾鰭後縁は深く二叉する。体は一様に灰白色または暗灰色。体長40cm。

にせくろこぼん 体は太短い。吸盤は幅広く、胸

鰭の後ろ1/3に達し、17対の板状体をそなえる。体長11cm。さへじ参照

さえずる (嘩) 【**自ラ五**】よく喋べる。(北) [会話] よけ (多く) 喋んのを (るのを) サエズル。あやま あ (彼は) おしゃべ (よく喋る人) やもんで (なので) よお (よく) サエズル言うて。雲雀か、鶯みた いよおに (のように) よお (よく) サエズル言うて、ちっちゃ ちっちゃ言うて、よお (よく) サエズル 目白やなあ (だ) 言いおったの (言いました)。

さえとる 成長している。成長し過ぎて居る。とるは、ているの略。[会話] 子供らが、ひねこし (大人びた) 事言うて あや (彼は) たけて来たれ (成長して来た)、たけとるなあ (成長した) 言う事もある なあ (有ります)。サエトル言うけど (が)

さえとる 賢しい 利発で有る (志 (布施田)) [会話] サエトルなあ 言うのは、頭な (が) 発達しとる (している) 事をなあ。あのあ (子は) どいらい (大変) 頭な (が) サエトナア (ている) 言うやんかい (言います)、はっきりしとるとなあ、サエトル言うて。ひねこし事 (大人びた事) 言うたり、小癪な (生意気な) 事 言うたりすると あや (彼は) サエトナア 言うて こましゃくれ (老成) とんね (している) とかなあ。

さえら 【**名詞**】秋刀魚 さいら参照 (志、熊)

さえる (訝) 【**自ア下一**】1) 才が有る。賢い。2) 感受性が鋭い (かんがサエル) 3) 上手だ。

さえん 1) はっきりしない。どこか物足りない。今一息面白くない。さえない。さえとるの逆。2) 体の具合が悪い。よくない。つまらない。役に立たない。さえるに打ち消しの助動詞の付いたもの。(鳥) [会話] 1) 頭な 訝えとるなあ (て居る) とか、頭な (が) サエンとか、頭な (が) ええ (よい) 人、頭な (が) 訝えとる 言うて、よお (よく) 言うなあ (言います)。と**ぼんとしとんな** (して居るのは) サエトラセンネよって**まあ** (て居ないので) 2) 今日 なんやら (何か) 頭な (が) サエンで、言うて。気分なわり (悪い) 時、頭な (が) サエンで 言うて。なんやかや (色々) はきはき**すんと** (すると) 今日 がいに (大変) さえとるやんか (て居ます) 言うて。

さおがし (騒) 【**形容詞**】さわがしい 1) 声が、物音が大きくてうるさい。やかましい。2) 人の出入りが多く賑がわっている。[会話] 1) あっちゃい (あちらへ) いてな (行つては) もしもしよ、こ

っちゃい (こちらへ) いてな もしもしよする にげ (人) な (が) 有ると、べつんも (特に) サオガシなあ言うて。

さおぎ 【**名詞**】1) 騒ぎ。賑わい。騒動。2) 魚群が現れ大漁をして浜に活気が溢れるさま。

さおぎ 【**名詞**】賑がやかにさわぐ人 [会話] よお (よく) さおぐ (騒ぐ) のおをなあ。サオギ やよ ってんなあ (だから)、あんな (彼が) さおがして (騒がしくて) 言うてなあ。よお 騒ぐ人 面白い事言うて 笑ろたりなあ (笑ったり)。人 笑らわ したり (笑わせたり) して わがとも (自分も) 喋って しとんの (しているのを) サオギや (だ) 言うの (のです)。よお さおぐなあ (騒ぐ) 言うし、サオギや (だ) 言うてなあ 言う時によって**なあ** (です)。

さおぐ (騒) 【**自ガ五**】さわぐ やかましい音を立てる。(鈴市、鈴郡、津、久、一、多、度、伊、南) [会話] ばちくた ばちくた サオンで言う (言います)。喋って、サオンデ 言うて、賑やう (あう) 事**なあ** (を)。サオンデ言うの (言います)。ばちくた ばちくた はちちよおみたよおん (お喋りのように) よお (よく) 喋って 大声で 賑がやう と、あや (彼は) まあ さおぎ (よくさわぐ人) や (だ) よってん (から) よお (よく) サオグ言うて。いろんな事 しゃべんのを (喋べるのを) ばちくた ばちくた 言うわい (言います) わり (悪い) 言葉や (だ) わい (です)。

さおす 【**他サ五**】少し日に当てたり、風に吹かしたりして乾燥させる。さぼす (曝) [会話] さぼすとかサオスとか言うて、ちよいと (少し) 広げとけ (ておけ) 言うて、ひい (日) 見せんのを (当てるのを) 広げて干さんと (ずに) ちよいと 広げんのを (るのを) サオス 言うてな。

さおだけ (さをだけ) (竿竹) 【**名詞**】竹製の物干竿 細い竹の幹を種々の用とする物。(名、南) [会話] サオダケ、竹のさわ (竿) をなあ、さわだけや (だ) 言うて。物干しも、サオダケ。突きての持つ なあがい (長い) さわ (竿) をなあ つきてざわ ひしざわ言うて、ひし (鉤) な (が) 付いとんのを (ているのを)、舟の はりざわも有るし。なあがい (長い) のおを (のを) いがんどののは (歪んでいるのは) ひい (火) で 焼いといて (ておいて) 延ばしといて 水でしたると (してやると) 真っ直ぐ**ん** (に) なる**もんで** (ので) 突きての人ら よお

(よく) ひい (火) 入れとりおったわい (ておりました)、さわ (竿) い (へ)。

さおづり (さをづり) (竿釣) 【名詞】 釣竿を用いて魚を釣る方法。

さおとり (さをとり) (棹取) 【名詞】 舟の棹をあやつる人 [会話] 舟が 着ける時に 竿、張って てざわはりを言うんかい (言うのですか) サオトリ言うな (のは)。竹はなあ 浮いて来て はざんね (いけません)、きい (木) や (で) なけな (なければ)。杉のほっそいのおや、桧の ほっそいのおや (細いのか) ええんけど (よいが) 竹はなあ 浮いて来て 思うとこい (所へ) 行かせんの (行きません)。舟まあすよん (ように) なる おとしねんなあ (怖いのです)。ともろな おさえた時はこっちゃ (こちら) うけ (受け)、ひかえた おや (時は) こっちゃ うけえなあ、風の向きん (に) よって さわ (竿) を受けんのな (るのが) 違うやんない (でしょう)、そやもんで (それで) 頭の無いもん (者) 出来やせん (出来ません)。そやよって サオトリ 早よ (早く) 来てくれ (下さい) 言うて 年寄りの人らをなあ サオトリん (に) 頼みおった (頼みました)。はやじゃらくな (手早い) きく、才の有るにげ (人間) やなけな (でなければ) うとんぼ (馬鹿) みたよな (のような) にぎや (人間は) 出来やせん。舟、横倒しん (に) したんね (してしまいます)。里の浜は 波な (が) 荒い もんでなあ (ので) ないざ (波打ちぎわ) い (へ) 来て 横倒しん (に) したる (してしまう) 時な (が) あんね (有るのです) ないざ。杉のずうきん (頭巾) 被ったよお 言うてなあ、舟は杉やんない (でしょう) そやもんでなあ (それで) ないざい 来て 舟 まけて (転覆させて) 杉のずうきん 被ったよお 言う事な (が) あんねてや (有るのです)。

さおんで 騒いで

さおんできた 1) 騒いで来た 2) 波が高くなった
り風が強くなったりする 3) 魚が出来て来た

さおんどた 騒いでいた。[用例] よんべや (昨夜は) 夜中までサオンドタ。

さか (坂) 【名詞】 傾斜 [会話] ダンダンザカ。ダラダラザカとか ズベリサカとか言うて だんだん (段々) になつとるとこ (なつて居る所) ダンダンザカ。きつさ (きり立って居る) になつとも (なつて居ても) サカナ (が) きつつい (きつい、急

だ) 言うし、斜になつとんな (なつて居るのは) キツサカ や (だ) 言うてなあ (言う)。ダラダラザカ なあがい (長い) もんで (ので) ダラダラサカ や (だ) 言うて (言います)。

さか (逆) 【名詞】 反対。逆。ぎやくであること。さかさま。さかさま 逆様 物事の位置 順序、表裏などが正常な有り方と反対になって居る事 又そのさま (志 (布施田)、鳥、尾) [会話] 人の言う事を どげや (どんなんだ) 言うて、そや (それは) 違うわい (違います)、こおやわい (こうです) 言うのなあ (言うのです)。サカバリ言うの、人の言う事を さからう (逆う) の (のを) サカバリ。あや (彼は) サカバリや (だ) よつてん (から) 何でも、サカばつて言う。あやまあ (彼は) サカバリや よつてん 人の言う事 皆 もぎつて 言うて もぎる事 サカ言う。もぎる言うの (のは) 人の言う事 あげやてや (あれだと言へば) こげ (こな) や (だ) 言うのを もぎる。人が こおや (こうだ) 言うるとと (て居ると) 此は そおやない (そうでない) こおや 言うのを サカバリ。もぎるとかサカバリとかなあ。もぎるのを サカバリ、西や (だ) 言うて、そや (それは) 東やわい (です) 言うのを サカバリ。

さかあみ (逆網) 【名詞】 打網漁で親船 (まあみ。網を積んで居る船) の相手をする船 さかあみ船 (度、北) [会話] まあみと、サカアミ言うのは、網積む船な (が)、まあみ言うのやし (ですし)、サカアミ言うのは、網 積まんと (積まずに)、もよて (もやう、仲間になる、繋いで居る)、網やるときや (網入れる時は)、まあみな (が) やつて、引くときや (時は) まあみも、サカアミもいっしょん引くねけど (一緒にひくのだが)、積むのはまあみん (に) 積むの (のです) 網を。うちい (家へ) 来る時でも、まあみい (に) 網積んで、行く時でも、まあみい 積んどいて (積んで置いて)、沖行てから (行つてから) やつて (網を張つて) 引く時だけ、サカアミと二はいで引くね (引くのです)。そして、なか舟言うて、おた (魚追う棒)、つくのん (のに)、魚を追のな (のが)、一ぱい有つて、それへ 魚、見る人な (が) 乗つとて (て居て)、おたつて、乗つたよつて、引け (魚が網に入ったから網上げよ) 言うて引くの (のです)。おたつく言うのは、魚 追うので、石に網付けといて (ておいて)、おもて (舟の先の部分、舳先) からパーとほんの

(放るのも) 有るし、桐のきい (木) この位 (一米) にしといて (しておいて)、つくな (突きます)。
さかあらし【**名詞**】逆風 進行方向から吹く風 [会話] 風でも 西い (へ) いこ (行こう) おもとんのん (思っているのに)、西の風な (が) 吹いて来ると、サカアラシ ん (に) になると、かざむき (風向き) な (が) わりよってん (悪いから) 言うて。むこおかぜ (向風) ん (に) なって来るわけや (です)。そいなの (そんなのを) かざむきな (が) わり (悪るい) 言うて、行こ思うと 風な (が) こつち (こちら) 向いて来て 目も開いておられやへん よお (おれない) 沖から家こお (帰えろう) 思うと、西の風な (が) 出してくる (吹いてくる) やんない (でしょう)。そすと まかれやせん (帆をあげられない) やんない、家から出よ (出よう) 思うと、まぜ (南風) な (が) 吹いて来ると かざむきな (が) わりやんない (悪いでしょう)、そいな (そんな) のを かざむきな (が) わり 言う。サカアラシと、おいてとは逆や (です)。おいて言うな (のは) 沖、行こ (行こう) 思うと 西の風な (が) 吹いて来ると、西の風乗って ふうと沖い (に) 行かれるし、家い行こ思うと、まぜ (南風) な (が) 吹いて来て 帆巻いてとーんと来んのなあ (来るのです)、おいてな (追風が) よおて (よくて) 言うてな

さかい【**接続助詞**】だから ので 活用語の連体形について原因、理故を示す。(志、桑市、員、四、鈴市、亀、安、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊、) [会話] それや (それだ) サカイ言うね (言うのです)。それや サカイのらな (お前達が) すると はざん (駄目だ) 言うねやれ (言うのだ) 言うてなあ。そげん (そんなに) するよってんだ (からだ) てやら (とか)、それや (だ) よってんだてやら 言うてな。そげな (そんな) 事するよってんだ 言うたり、そやよってん (それだから)、それやサカイ (それだから) 言うて 有るやんない (有るだろう) 言うて。そや みたけんの (それ見たか) 言うて、どんな (下手な) 事したると (してやると)。すんな言う事 して来ると そやみたけんの 言うて、おんな (俺が) あげん (あんなに) 言うてあんのん (有るのに) あげん 言うても聞かせんもんで (ないので) そやみたけな (それ見たことか) 言うて。

さかいに【**助詞**】だから (志、員、三、鈴市、安、久、

一、松、多、上、阿、張、名、度会郡、伊、北、尾、南)

さかいいめ (さかひめ) (境目)【**名詞**】1) 境界。境の所。2) 事の別れ目、際。

さかうらみ (逆恨)【**名詞**】人の好意を悪くって逆恨むこと

さかえ【**名詞**】境 土地と土地との区切、時間と時間、物と物との区切 (阿) [会話] 地先 言うな (のは) サカエの事

さかえ【**助詞**】だから さかい参照 (志、桑市、鈴市、阿、張、伊)

さかえに【**接続助詞**】だから さかいに、に同じ (上、阿)

さかえめ【**名詞**】境界、さかいいめに同じ

さかおい (逆追)【**名詞**】向い風 [会話] まぜ (南風) や (だ) 言うて 海の方から吹いて来て サカ オイやけど (だが) ぢあらし (西風) や (だ) 言うて、ほお (帆) まいて (あげて) 行かれんねやんか い (行けるのです)

さかおえぎ【**名詞**】背泳 [会話] あおぬい (あおむいて) とて (て居て) おえぐ (泳ぐ) の サカオエギ。

さかご (逆子)【**名詞**】胎児の産まれる時。頭から出ず手足臀などから先に生れる事。

さかさま (逆) (倒) 1) 子供が父母より先に死ぬこと サカサマ (逆方) の義 (大言海) さかさまごと参照 (南) 2) 順序が逆で有る事。

さかさまごと (逆様事)【**名詞**】親が子などの葬儀、追善を行なう事。又物の道理にあわない事 [会話] サカサマゴト言うて、親よりこおな (子が) はよ (早く) 死んだりすると、サカサマゴト見て 長生きすると はざんなあ (駄目だ) 言うて、親な (が) 先い (へ) いて (死んで) こお (子) な (が) 後い (に) 残んな (残るのは) ええんけど (よいのだが)、こおな 先い いて 親な 長生きしとると (していると) サカサマゴト よけ (沢山) みんねてや (見るのです)。あまり長生きや (は) 子の毒よ言うて。

さかさまつげ (倒睫)【**名詞**】逆まつげ 睫が内に向かって生え眼球を刺すようになったもの。[会話] サカサマツゲ、さかまつげや (です)。サカサマツゲな (が) 生えて言うて。なんせんでも (なにもしなくても) ひとり (自然に) 出てくんねやかなあ (来るのでしょうか)。サカサマツゲは、ふつとい

(太い) もんで (ので) 痛いのなあ (です)。どいらい (大変) ふつといんてや (太いのです) そやもんで (それで) サカサマツゲな (が) 生えるとなあめえ (目)のふちな (縁が) あまめ (油虫) な (が) 吸うたよん (ように) して来るわい (来ます)。サカサマツゲで 突き突きしてなあめえ (目) な (が) ひっちゃかったよん (開いたように) なって来るやんかい (来ます)。

さかさまに 逆に、かえって (志 (浜島))

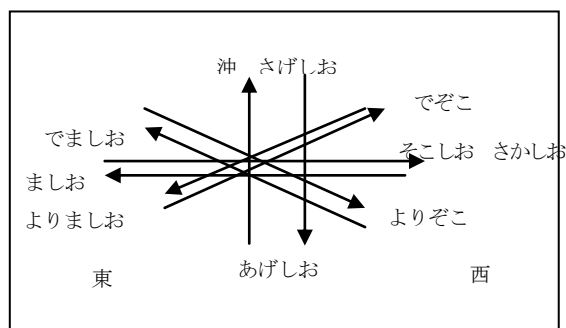
さかし (賢) 【形容詞】 才智分別があつてしっかりしている。判断力がしっかりしている。機敏で抜け目がない。

…**さがし** 途中で止めること。最後までやりとげない状態。(上、阿、張、名)

さがしあてた 見付けた 見つけ出した [会話] 何処やかやい (に) 逃げてたの (ていったのを) 探して来たれ (来しました)。東京い (へ) 迄いとて (行っていて) たら (とか) 言うてな、サガシアテタ言うのな (です)。

さがしあてる (探当) 【他タ下一】 方々を探しまわって見つけ出す。[会話] なんやかや (いろいろ) うしのたて (失なってしまう) そんでも (それでも) とおとお サガシアテたれ (しました) 言うて、何処やかやい (へ) 逃げてたの (ていったのを) サガシテキタれ (来しました) まあ 東京迄 いとて (行っていて) たら (とか) 言うて。サガシアテル言うのなあ。見付ける、見付かった言うてな。昔や (は) とんでた 言うてなあ 今しゃ (今は) 蒸発言うやんない (言うでしょう)、昔や (は) なつとも (なんとも) 言わんと (言わずに) 行くと、まあ あんな (彼が) とんでて 何処やらい (へ) 行くえな (が) 判らせんね (ないのだ) 言うて とんだ思うな そろそろ 行くに こんと思うな 又、来るに 言うて 書置しといて (しておいて) いた (行った)、そげな (そんな) 書置しときや (しておけば) ええけど、(よいが) なつとも (なんとも) 言わんと行くのを とんでた言うて。

さかしお (逆潮) 【名詞】 1) 逆潮 干潮時に逆に上がつて来る潮流 2) 東から西に流れる潮流



[会話] サカシオ言うな (のは) 潮 (潮流) な (が) さげしを (干く潮、沖の方に流れる潮流) な して来たのおな (のが)、こんだ (今度は) 又、のぼつて (上つて) くのを (行くのを) サカシオ。サカシオん (に) なつた言うて、あげしお サゲシオ言うのなあ (のです)。あげたり さげたりすんの (するのを) サカシオや (だ) 言うて、東から西い (へ) 流れて来るのは そこしお (底潮)。西から東いながれんな (流れるのは) ましお (真潮) 西からたか (陸地) 向いて (むかつて) ましおな (が) よると (来ると) よりましお、言うて、沖むいて出てくと (出て行く) でましお言うし (言います)、でんのは (出るのは) でましお。東からくんな (来るのは) そこしおやんな (です)。そこしおな (が) 沖むいて出てく (出て行く) と でぞこ、言うんなし (言いますし)、お島の (大島) ほおから (沖から) たかむいて (陸に向つて) 入れんな (入れるのは) よりぞこ よりぞこしお 言うね (言います)。寄つてくんなよつて (来るのだから) よりぞこしお、出てくのは (出て行くは) でぞこしお 言うね (のです)。なかない (内へ) 入つてくんな (来るのは) よりしお 外いでんのは (出るのは) でしお、西から出ても でしお 東から出んのも (出るのも) でしお なかない入つてくんな (くるのは) よりしお 西からくんな よりましお 言うし 東からくんな よりぞこ よりぞこしお 言うの (言います)。

さがしたくる 【動詞】 さがし廻る 一生懸命に探す [会話] サガシタクル言うて なんやかや (色々) 探すの (のを) いっしょけんめ (一生懸命) で 探すのを、さがしまくるとか サガシタクルとか 言うて。

さかしま (逆) 反対 サカサマ (逆方) の転 (大言海) (桑郡、鳥、員、三、久、一、上、阿、熊) [会

話] 反対の事 反対にすんの (するのを) サカシマ、表むいとんの (向いて居るのを) を かやす (かえず、ひっくり返す) と サカシマにして言うて。ほて (そうして) うらがやし (裏返し) とか、表がやしとか 言うの (のを) さかさまにする言うなあ (言います) 返すの (のを) サカシマ。

さがしまくる 一生懸命に探す。さがしたくる参照

さかしまごと (逆事) 【名詞】 さかさまごとと同じ [会話] さかさまごと言うのをなあ サカシマゴト な (が) 有って 言うてな

さがしもん (捜物) 【名詞】 探し物。目的の物や、粉失物を探し求める事。またその物。紛失物。

…さがす (…しさがす) 【接尾語】 1) 接尾語、動詞の連用形について、あれこれ、し散らすの意を表す。仕事を一つ一つ片付けてしない。(志、鈴市、上、阿、張、名、南、北) 2) 夢中になる。遊びサガス。(安、津、上、度、北、南、熊) [会話] 1) シサガス言うのなあ (言います)。なんやかや (色々) 仕事 しとても (して居ても) ほっといて (放っておいて) ほかの事しとると (して居ると) 仕事シサガシといて (ておいて) あれしい これしいする言うて (言つて) ほかの事しとる事なあ (です)。仕事を、これしとた (して居た) の ほっといて、ほか (他) の事すると シサガス。一つ一つ片付けてかんと (て行かずに)、あれも てえ (手) つけこれも、てえつけ しとる、シサガシ言うてなあ。喰いサガスやたら (とか) 喰いサガシ言うのも わがと (自分) 喰うて、ほっといて 又、違うの取つて喰いすると、そげん (そんなに) 喰いさがさんと (さずに) ひとつつつ (一つつつ) せえまあ (しなさい) 言うし、一緒やわい (です)。仕事シサガスのも 喰うてな (は) 又、ほかんのお (他の物) てえつけすると 喰いサガス言うて。

さかだある 【名詞】 酒を入れる樽

さかだい (酒代) 【名詞】 酒を買う代金 [会話] サカダイも よお かせがんとおって (て居て) 酒ばつか (ばかり) のおで (飲んで) 言うてなあ。酒代言うのサカダイ、ねんたい (一年中) よさ (夜) のおせきしよ (晩酌) 飲むとなあ、サカダイもよおかせがんとおって 言うて、かかな (妻が) ぼやくのなあ (です)。とと (夫) な (が) おせきしよ (晩酌) 飲むと、ぜん (銭) も よおかせがんとおって よさごつと (毎晩) おせきしよのおで 言うて。

さかだる (酒樽) 【名詞】 酒を入れる樽

さかづき (杯) 【名詞】 婚礼 嫁入り (志 (甲賀、志 (島、船越、布施田、国府)) 義兄弟など固めのしるし。[会話] サカズキ 酒飲む盃 結婚する時も サカズキアゲル言うやんかい (言います)、サカズキ済すとか。サカズキ 済して、サカズキな (が) 済む迄とか。この時に サカズキ言うな (のは) よめり (嫁入り) 結婚式をサカズキや (だ、です)。兄弟分 (兄弟として交際する他人) のサカズキ。あれもするけど (します) かわらけで。かためのサカズキや (です)。

さかづきあげる 結婚式をする。さかづき参照

さかづきごと 【名詞】 1) さかづきと同じ 新郎、新婦が 盃をとり三三九度の盃をとりかわし夫婦のちぎりを結ぶ儀式 2) 慶事で祝う事 [会話] 2) サカズキゴト言うなだ (のは)、祝い事やわいな (です) 七夜とか 結婚式とか 初午や (だ) とか 言うて祝い事をなあ、サカズキゴトや (です)。盃かわすやんない (でしょう) 盃で飲むやんない (でしょう) そおゆう事をする と サカズキゴトな (が) 有って言うて 祝い事を、たいがい (大体) 祝い事な (が) 有ってなあ言うてな、目出たい時ん なあ (に) 盃かわすよってんなあ (から) サカズキゴト 言うんけどなあ (言うのだが) 祝い事な (が) 有ってとか、お目出たな (が) 有って言うてな。

さかづきすます 結婚式を済ます。さかづき参照

さかつちよ 逆、反対

さかつとる 交尾している 性交している (志) [会話] 尻と尻とひつつけて サカツンノオナ (交尾しているのが) 有るやんかい (有ります)

さかとんぼり。さかとんぼりがえり 【名詞】 逆とんぶり 逆蜻蛉返り 逆とんぶりがえり 頭を下にして ひっくりかえる事 さかとんぼ (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)、員、上、阿) [会話] サカトンボリガエリして言うななあ (言うのは) 立つといて (て居て) 頭、下にしといて (しておいて) かえんの (ひっくり返るのを) サカトンボリガエリして 言う (言います)。

さかなによ (魚酔) 魚中毒 魚による蕁麻疹か、蕁麻疹、体が赤くなり気分が変る事から。[会話] 鯖喰うて 当たたりすると サカナニヨオタ 言うな (言います)。

さかなのちんぼ 【名詞】 魚の心臓 [会話] サカナノチンボも、よお (よく) 似とるわい (似ています)

のどちんぼん (に)、あげ (鯉) のとこん (所に)
ある えごと (完全に) しごいたると美味しいけど
(が) えごと (完全に) しごいたらんと (てやらないと) 苦い。

さかばり【名詞】 1) とげ 棘 堅く先の尖った物が皮膚につきさった時に言う。サカバリ (逆針) の意 (方言俗語源辞典) (志 (布施田、鶴方、志島)、北、尾、南) 2) 人の意見に反対ばかり言う人 さか参照 [会話] 2) 人の言う事 反対**ばっか** (ばかり) する人と、1) 竹や木**な** (が) **ささんのおを** (ささるのを) サカバリ。

さかまい (逆舞) 逆に回る事 不運が続く事 [会話] サカマイ言う と 商売**な** (が) **あわんで** (あわなくて) **こや** (これは) **はざん** (いけない) 言うて、またほかの商売しても **えごと** (十分に) **いかせん** (行かない) 言う と **あの家や** (は) **潰れる前やも** **んで** (なので) サカマイ **ばっか** (ばかり) **しとる** (している) 言うてな。商売がえ、**ばっか** **しとるも** (していても) 商売**な** (が) うまい事**いかせん** **あや** (あれは) まあ サカマイ**しとんねどお** (しているのだ) 言うてな。

さかまつげ (逆睫)【名詞】 睫が逆に生え眼球を刺す事。さかまつげ参照

さかみち (坂道)【名詞】 傾斜の有る道 (鳥 (坂手)) [会話] 登る サカミチをなあ サカミチ越えて言う**うやんかい** (言います)。

さかむけ。さかもげ (逆剥)【名詞】 逆むけ 爪の生え際の皮膚があれ 指の根本の方に細かくむける事 (志 (布施田)) [会話] サカモゲ言う**な** (のは) **こずめのこれい** (へ) **さかさまん** (逆に) して来ると**痛いやんか** (です)、サカモゲ**な** (が) して来ると。親不孝**やよってん** (だから) サカモゲ**すられ** (する) **言いおったなあ** (言いました)、サカモゲ**な** (が) すると。**あんな** (あれが) 又、**痛いでや** (痛いです)。サカムケ **言わせんの** (言いません) 爪から**出てくんな** (来るのは) サカモゲ**や** (だ) **言うてなあ** (言います)。

さかや (酒屋)【名詞】 酒を売る店

さからす 交尾させる。

さかり (盛)【名詞】 1) 盛る 勢いが盛んになる事にぎあう 栄える 2) 動物が発情する 交尾する人にも使用 [会話] 1) **あんな** (あれが) **今し** (今) **しゅん** (旬 出盛りの時期) になって 来た言う**の** (のを) サカリ**やなあ** (だ) **言うて** (言っ

て)、花サカリとか **くだもん** (果物) **な** (が) 旬になって来たのを サカリ**やなあ**とか、蜜柑のサカリで、**よけ** (沢山) 出て**来たれ** (来ました)とか、**そいなのを** (そんなのを)。旬になって来た事をサカリ。2) **鶏やとか** (だとか) **なんやとか** (他に) サカリ**な** (が) ついた言うて、人間でも言うし、三月猫で **ぎゃんぎゃん**言うて、サカリ**な** (が) ついた言うて。三月猫 **言うんは** (言うのは) **にゃあんにゃあん言うて** (言つて) **泣き声な** (が) **みよおな** (変な、かわった) 泣き声して来ると、**あや** (あれは) 三月猫で サカリ**な** (が) ついて、**にげ** (人間) でも、男と**おなご** (女) と **ほれとんのな** (惚れて居るのが) 追わえたりすると、**あや** (あれ) 三月猫**みたよおに** (のように) サカリ**な** (が) **ついと** (ついで) 言うて。1) **そすと** (そうすると) **家やなんや** (が) 盛んになって来る **こや** (これは) 栄える それも、サカリ。栄える、言うのもサカリ**やなあ** (だ) **言うなあ** (言います)。あ**のう** **ちや** (家は) **今し** (今) サカリ**やなあ**言うて 繁盛した事 **みんな** (皆) **な** (が) **かかって来て** (稼ぎ出して) **おお** (大) サカリ**やもんで** (なので)、**舵**、**横にさいとでも** (さして居ても) **とおられ** (通つて行く) 言うて。舵、横にさしても通る。**なつと** (なんと、どんな) 言う事でも、**どげん** (どんなに) **しとでも** (して居ても) 繁盛して**く** (して行く) 言う事**や** (です)。**どいな** (どんな) 事 言うても **とおんの** (通ります)。どげん事**しとでも** (していても) **しんしよ** (身代) **な** (が) **向いとる** (運が向いて居る) 時**や** (は) **かね** (金) が 儲かる 言う事**やるなあ** (でしょう)。

さがり (下)【名詞】 給料などを前借りし過ぎて負債の生ずる事、必要経費が収入を上廻る事 (北) [会話] サガリ。**てきん** (手金) を百円でも、**かね** (金銭) **先い** (に) **もろたる** (貰う) と、**わがと** (自分が) **稼んだ** (いだ) **かねより** **借った** (借りた) **ほおな** (が) **おいいて** (多くて) **ほと** (すると) それを サガリ**な** (が) 行く言う**のなあ** (です)。借った**かねがおいいて** **わがと** (自分) **稼んだ** (稼いだ) **金な** (が) **すけない** (少ない) と、サガリ**こんだ**言うて、サガリ**コギや** (だ) **言うて** (言います) **鯉船やなんやで** (何かで) **親方ん** (に) **借り込んだ** (過ぎて) サガリになって 又 **らいね** (来年) も **行かなはざん** (行かなければいけない) サガリを**いやす** (治す) **のん** (のに) 言うて、

親方に借つとも(借りて居ても)そのカネぶんだけ、漁がのおて(無くて)サガリな(が)いた(行った)言う。

さかりがつく 発情する さかり参照(志(鶴方)、鳥、松、阿、張)

さがりぐち (下口)【**名詞**】 1) 物の値段などが下り始める時 2) 勢の衰ろえる時 [会話] 2) **不幸事**(不幸な出来事)になったり、サガリグチになると、人の噂ん(に) なんなあ(なります)。

さがりこぎ【**名詞**】 給料を前掛けし過ぎて 一年間の収入を負債が上廻り その負債を返すため 翌年も同一の船に乗る事 さがり参照

さかりなつく 発情する [会話] いんな(犬が) さかつとられ(ている)言うて、つるむ言わせんね(言いません) さかつとる(ている)サカリナツイテ言うて。

さかりねこ【**名詞**】 1) 発情期の猫 2) 欲情の強い人 3) 煩い 1) から転じてやかましい [会話] 1) 猫な(が) さかりな ついた(発情した) 様ななあ(だ)言うて、 ぎゃんぎゃん言うて、にやあおにやあお言うて、よお(よく) 猫な(が) 追いまあしあるいて(まわして) くんね(来ます)。あや(あれは) さかりな ついとて(発情して)サカリネコやなあ(だ)言うて。2) 猫だけや(で) なしん(なくて)サカリネコ みたいな(のようだ)言うて、追えやあるくとなあ(追いまわすと)。男や(とか) おなご(女) な(が) つきまあすとなあ(つきまとうと)サカリネコ みたよん(のように) つきまあしやあるいて(つきまとうと)言うてなあ。3) 喧し言うんか 騒いどると(でいると) ぎゃあぎゃあ ぎゃんぎゃん言うてサカリネコ な 来たよん(ように)言うて、猫な(が) ぎゃあぎゃあと 喧し やんかい(です) 猫な(が) さかりなつくと(発情すると)。

さがりびき【**名詞**】 木挽が板を作る時 下がりながら鋸を使う事 それに例へて 勢の衰える事 [会話] サガリビキ 木挽で サガリビキ 段々 下火んな んねよつて(になるのだから) 満つれば 欠くる言うて 今し(今)日本は 満ちて 満ちてしとんね よつて(して居るのだから) こんだ、まあ(今度は) 欠ける時期な(が) 来る言う事やわい(です)。こんな(これが) 絶頂やよつて(だから) 此れより 上 行かせんねよつて(行かないのだから) そ やよつて(だから) 又 難病な時な(が) くんね

(来ます)。サガリビキ言うて 木挽や(は) 一生 サガリビキ言うて 中腰しとて(にして居て) 段々と 下がって 下い迄 引いてくやんかい(て行きます) そやもんで(それで) 木挽で サガリビキ や(だ) 言うの(のです)。

さかる (盛)【**自ラ五**】 交尾する 性交する。サカル(盛)の義(大言海) 俗に猫犬の遊牝をサカルといへり。盛んになるの義なるべし。(倭訓栞) (志(布施田、浜島、鶴方)、上、阿) [会話] サカル 交尾しとんのおを、ふたん(二人) な(が) 引つ張つとんのおを ちよんがれ サカリやなあ 言うやんかい(言います)。

さかる (盛)【**自ラ五**】 1) 栄える 2) 勢いがさかんになる。

さがる (下)【**他ラ五**】 垂れる(志)

さき (先) (前)【**名詞**】 事柄のまだ起こらないうちこれから 前途 行く末。[会話] これから サキや(は) なつと(なんと) なんねやかなあ(なるのだろうか) 思うと、サキな(が) くらがあり(暗く) なつて来る。イクサキも 闇やなあ(だ) 言うて な。なんなんやら(なにがなにか) さっぱり 判ら んで、まあ ぼんごと(死者) な(が) よけ(沢山) 有つたり すとなあ、まあ サキや(は) 闇や れまあ(だ) 言うやんかい(言います)。あんな(彼が) 病氣したたら(とか)、こんな(これが) 怪我したたら、あんな(あれが) 戻つて 来たたら 言うて のお、そいな(そんな) 心配事 ばつか(ばかり) 有ると なあ そして まあ 息子 な(が) あ ん ご しかつたり(馬鹿だつたり) すると お お た ま あ イキ サキ や(行く先は) 闇や なあ(だ) 言うて な。

さきいき (先行)【**名詞**】 将来、前途 [会話] さきも 一緒 みたい な(のようだ) 事 やわい(です)。サキ イキ な(が) 心配 や(だ) と かなあ 言う 時 な(が) 有る んなあ(有ります)。サキ イキ、行く 末 言う 事 や なあ(です) ゆき さき や(は) 闇 や れ(だ) 言う 時 も 有る し なあ(有ります)。

さきいく 1) 自分がその場を離れる時、後に残る者にする挨拶。(志(布施田)) 2) 先走る。偉そうにする。

さきうまれ【**名詞**】 一月一日から四月一日迄に生れた人

さきおくり 順送り すべき事を先に延ばす事(南)

さきおとつい(さきおとつ)い(一昨昨日)【**名詞**】 一

昨日 おとついは オトツヒ (遠之日) の転 さきおとい参照 (志 (浜島)、鈴市、津、松、多、阿、張、名、伊、北、尾、南)

さきおととい (一昨日) 【名詞】 おとといの前の日 三日前 (鈴市、安、一、上、度、伊、北、尾) [会話] きんによ (昨日)、おとついで (一昨日)、サキオトツイ言うんな (言います)。サキオトツイ 来たばかやのん (ばかりなのに) まあ死んでたねええ (しまったのですか) 言うて、言う時な (が) 有るやんかい (有ります)。言うと 三日前やのお (です)、サキオトツイ 言う人も サケオトツイ言う時も一緒やけどなあ (だが)、きんによ (昨日) おととい (一昨日) サケオトツイ言うて。そすと あした (明日) あさって (明日) ささって (明日後日) しさって (四明日) 言う時な (が) あんなあ (有ります)

さきおとし (さきをととし) さけおとし (一昨昨年) 【名詞】 おととしの前の年 三年前 [会話] 去年 おととし (一昨年) サケオトトシ言う人もある、サキオトトシ (一昨昨年) 言うのを。

さきがわ (革) 【名詞】 下駄などのつまさきにかける、つまかわ (南、熊) [会話] 下駄のサキガワ、今しや (今は) サキガワ 着けやせんけどなあ (着けないが) 昔や (は) 雨な (が) 降ると サキガワ着けな (なければ)。雨も降るとやし (です) 天気な (が) よおてもな (よくても) 日和下駄い (へ) でも着けよおったけど (着けましたが)、雨な (が) 降るひい (日) に 欲しかよおったなあ (欲しかった)。足の先な (が) 汚れてなあ サキガワな (が) 無いと。爪先が 汚れんよおん (汚れないように) 下駄の先い (へ) 被せんの (被せるのです) 後い (へ) ゴム 付けてなあ。

さきざき (先先) 【名詞】 1) 今よりあと 将来 行く末 2) 先に立つ 3) 行く所。あちらこちら。(志 (布施田)) 4) 現在以前 過去。先祖。[会話] 2) サキザキのもんな (者が) そいな (そんな) 事して、後のもん (者に) おせて (教えて) 有んねもん (有るのだから) 言うやんかい (言います)。先のもん (者が) すると、サキザキな (が) みななあ (皆) そげな (そんな) 事してあんねもん (有るのだから) 後の もんやてて (者でも) すられ (する) とか 言う時な (が) 有るなあ (有ります)。4) 先祖の事を サキザキ言うてな あの家や (は) サキザキな (が) ええこと (よい事) して有

る よつてなあ (から) 言うてな、サキザキな (が) 賢こかったや (ら) 後のもんも (者も) 賢こいなあ 言う時もあるしなあ、まあ、わり (悪るい) 事すると サキザキな (が) あげなこと (あんな事) しといて (しておいて) 行たねもん (行ったのだから) 有りがちやれ (だ) そいなこた (そんな事は) 言うて、後のもん (者が) わりとなあ (悪るいと)。1) さきいきや (とか) さきと一緒に、サキザキな (が) 思いやられる 言うのなあ (です) 行く先きや (は) 聞やれ (だ) おもてなあ (思つて) こいな (こんな) 調子やったら (だったら) まあ いくさき (が) 思いやられられ (やられる) 言うてな。

さきぜん (さきぜに) (先銭) 【名詞】 品物を受けとる前に金を支払う事 又その代金 [会話] サキゼン取つとんねもん (ているのだから) 言うて、売つて呉れえ (下さい) 言うてなあ、まあ ぜん (銭) 置いといてくわい (て行きます) 言うてな、置いといてくのをなあ (て行くのを) まあ サキゼン取つてしとる (している) もん (は) やらな (なければ) はざんし (いけない) 言うてな。品物が無いもんでなあ (ので) 今度 来たら 私ん (に) 置いといてえ (ておいて下さい) 言うて、お金 置いとくやんかい (て来るのです) それを サキゼン言うて、品物より先に ぜん (銭) 置いといて (ておいて) ぜん (銭) やつときや (やっておけば) 間違いないわ おもてなあ (思つて) そんして (そんなにして) すんのをなあ (するのを)、サキゼン置いて あんね (有るのだ) 言うてなあ。

さきだ 【名詞】 1) 親類 血縁の濃い家 2) 前、尖端の事 [会話] 1) サキダ てや (とは) 親戚の家を サキダ行て来る (行つて来る) 言うて。親戚の濃い (血縁の濃い、近い) 家を あんで (あれで) 言うんかいなあ (言うのでしょうか)。サキダ言うて、いっち (一番) 濃い親類やるなあ (でしょう)。2) 歩いとても (て居ても) そのサキダん (に) そやあれ (それ) 言うて 前の事なあ (を) そや そのサキダん (に) あるやんか (有るでないか) 言うなあ (言います)。下駄のサキダや (と) 言うてよお (よく) 言うた (言った) 下駄のサキダな (が) 切れたやんかとか、下駄のサキダへ泥なのつとられ (乗つて居る) とか言うてなあ。このさき (前方) の事 言いおったなあ (言つて居ました)。このさき (先) を 下駄のサキダ、下駄のサ

キダ 土な乗るやんな (でしょう) 子供の時分 (頃) そや (それ) その サキダの土も 拭いたれ まあ (拭いてやれ) 言うて 言われおったてや (言われて居た)。

さきだち (先立) 【名詞】 1) さきに立つ事、又 その人。責任者。(南) 2) 案内人 (南) [会話] 1) せんだち言うなあ (言います)。サキダちん (に) なって言うて、わがと (自分が) サキダちになって なんもかも (全部) せな (しなれば) はざん (いけない) 言うて、仕事すんのん (するの)に わがと 先い (に) 立って、今日は、此れ持てて (いって)、今日は、此れして あれして言うて わがと サキダちん (に) なって なんもかも せな はざん 言うて。先頭になってする事を サキダち、なんもかも わがと皆サキダちん (に) なって せな (しなれば) はざんし (いけないので) 先い (に) 立って仕事する事。ざいふるのとは 又、違うの (違います)。大勢の人を わがと (自分) 指揮して ざい振って、あげんせえ (あんなにしなさい) こげん (こんなに) しょおや (しましよう) 言うてすんの (するのを) ざいふり言うてするし、わがと さきん (に) 立って みんな (皆) を 使てく (使て行く) 言う事やなあ (です) さきん (に) 立って せなはざん 言う事。

さきだつ (先立) 【自タ五】 1) 頭に立って事を行う 2) 先に死ぬ [会話] 1) サキニタツテ いろん な (いろいろな) 事をする人をなあ、先い (へ) する人をなあ サキダツ。2) 先に 死んでくのもの (で行くのもの) サキダツ、みな (皆) 若死で 親より サキダツテてなあ (行って) 言うてな。

さきだつもん 【名詞】 金銭 [会話] サキダツモンは お金なりや (です)。なにしても こな (これが) なけな (無ければ) はざんね (駄目です)。サキダツモン言うのは お金や。

さきつちよ (先) 【名詞】 先端 さきつちよに同じ (志 (浜島、布施田、鵜方、神明、立神、志島、国府)、員、鈴市、安、一、久、松、多、張、度、伊、北、尾、南)

さぎつちよ (さぎちよう さぎちやう) (左義長) (三 毬技) 【名詞】 杭を二本又は三本組み立てて物を掛けるようにする。さぎちよう (左義長) さぎつちよ うばしら 左義長柱 木造 併塔の九輪の下の露盤を支えるため心柱を囲んで櫓状に組んだ短かい柱 (志 (布施田、甲賀、国府)) [会話] サギツチヨ

言うと 杭でも竹でも さんぼ (三本) ゆわえといて (くくつておいて) 脚、みつがらわん (に) すんの (するのを) サギツチヨ。みつがらわ 脚な (が) さんぼ (三本) に なるやんない (なるでしょう)。さわ (竿) や、杭を、さんぼ (三本) しぼんの (束ねるのを) サギツチヨや (だ) 言うて、じよおほお (両方) い サギツチヨを 立てといて (ておいて) せんだくざお (物干し竿) をしたり、さわ (竿) やつて (掛けて) 稲干したり すんのも (するの)も サギツチヨに しといて (しておいて) なりわたしたり (竿を掛けたり) みつつ (三本) にすんのを (するのを) サギツチヨや (だ) 言うて。昔や (は) なんすんのでも (何をするにも) 杭、打ったり サギツチヨしたり、せんだくもん (物) 干しても サギツチヨや (だ) 言うて たと (たたんで) 立てときや (ておけば) ええし (よい) 又 使う時ん (に) それ広げて あれも 便利な (が) よかった。

さきづな (先綱) 【名詞】 舟首にある綱 [会話] 舟のサキヅナ おもてづな言うて。おもて (船首) で すんななあ (するのは) おもてづな言うて、艦いすんな 艦綱とつとけよお (結んでおけ) 言うしなあ おもてづなは、錨やつて、かんぬきい (へ) 巻きつける。艦綱は まあ、かせい (河岸に) 着けたおりん (時に) 艦離れてかんよん (て行かないように) 着けんの (るのです) 艦綱。そすと おもてい (船首) つけんな (付けるのは) 錨綱をして、そして隣の舟ともやい (結ぶ) とつてなあ もやいつなとつとけよお言うて。隣の舟と 離れてかん (行かぬ) よんな (ように) もやいとつとく (取つておく) サキヅナ言うんな (言うのです)。

さきつぼ (先) 【名詞】 先端 一番はし さき 先前 物の先端。出張った所、はな、進んで行く一番前、先頭、時間的に早い事、順序が前である事、その時よりも前、ぼ 接尾、つぼ 名詞について その様な立場状態にある人。(桑市、員、鈴市、安、一、松、多、阿、張、名、伊、北、尾) [会話] サキツボ言う人も有るし サキツチヨ言う、さわ (竿) の、はしつぼとか サキツチヨとかなあ 言うて (言つて) おなし (同じ) 意味やけど (だが)。とつばな (突端) を、はね (釣竿) のサキツチヨい つけといて (付けておいて)、せんかれ (しなさい) 言うて、一番とつばなの事 サキツチヨ やとか (だとか)、はしつぼやとか はし (端) の

事を サキッポ すえつぽ言うて、すえつぽ言うたら (言うのは) しまい (終) やけど (ですが) はねでも もと (根元) と、すえ (終) と言うよつて (言うから) すえつぽ言うても (言っても) 一緒の意味やてや (です)。はしつぽも、一番先の事をすえ、さわ (竿) のすえ はねのすえとか もとはもとで そのすえと もともと 言うよつて (言うから) すえつぽ言うても (言っても) ええし (よいし) サキッポ言うてもええし。

さきに【副詞】 先刻 先程 (志)

さきのり (先乗)【名詞】 鯉舟の寄港地に先に行き、餌、燃料、食糧などを手配する人。準備のため仲間の者より先に目的地に行く者。せんのととも。

さきばしり (先走)【名詞】 前兆 [会話] 大便な (が) したい時でも へえ (屁) な (が) 出ると、サキバシリな来た。

さきばしる【自ラ五】 1) 先頭に立つ (志 (布施田)) 2) 先取りする。先廻りする。

さきばなお (先鼻緒)【名詞】 履物の先端にあり 親指と示指の間に挟む鼻緒 [会話] サキバナオ 下駄の先を言うの (のです) 横は 横鼻緒言うて、先を サキバナオ言うて。

さきまあり (先回)【名詞】 いち早く 気付き 動く事、人より先に動く事。さきまわり。[会話] 何でも 人のサキマアリして言うて (言って)、仕事しとても (して居ても) 海女しとて、人よりサキマアリして、あらとこ (新床) あらとこ (新しい場所) 廻るとか、島のもん (海藻) 獲っても サキマアリして あらくたい (粗い) ええとこ (よい所) むしくる (むしり取る) 言うて、サキマアリすると。仕事すんの (するの) でも 人よりサキマアリして言う時も有るし (有ります)。あらとこ言うて、人な (他の人が) てえ つけんと有るとこ あらとこ や言うんなあ (だ言います) あたらし (新しい) てえ (手) な (が) つけんと (つけずに) あんねよつて (有るのだから) 新しいわけ (理屈) やわい (です)。そいて (そうして) 島のもん (物) 獲っても あらとこ や (だ) 言うと 人な (が) 獲らん (ずに) 有るもんで (ので) なあがかったり (長かったり) おつき (大きい) かったりするし (します)。そやもんで (それで) サキマアリして あらとこ あらとこ 言うて 獲り回んの (廻るの) です。

さきまいり【名詞】 相手の行く先に、先に行つて居る事。先まわり

さきもんがち 早い者が好きな物、良い物を手に入れる事が出来る。早い者勝ち

さぎょおがい【名詞】 作業員 真珠の核入をするのに適した貝、核入れをする貝

さきん 先に 先刻 (志 (御座)) [会話] 一足先に行つてくれえ (行つて下さい) 言うのをな、サキン行つてくれえ 言うてな、“ん”と“に”と一緒になるわけや (です)。サキン行つて (行きます) 言うのも有るし、さきに行くで 言う人も有るし。そやけど (しかし) サキン 言うたらんと (言っていない) さきい (へ) 行くわ (行きます) さきい (に) 行くで 言うてな。

さきんいくでえ。さきんいくわい 先に行きます。残つた者にする挨拶。さきん参照

さく (作) 農作物の出来具合 豊作、半作などのサク。

さくい【形容詞】 1) 形式ばらずあつさりして居てつきあいがよい。さっぱりして居る。気さくだ。2) もろい 壊れやすい 粘り気がない。(志 (布施田)、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥、員、上、阿、張、度、北、南、熊) [会話] 2) 粘りのない事 サクイ言うんか (言うのですか) なんやかや (すべて) こんな 土や (は) サクイとか このこみや (米は) サクウテ (さくくて) うまいとか、サクイ言うな (のは) 粘りの無い事やなあ (です)。サクウテ粘りな (が) 無いなあ 言うて、土でも粘りの有る土や (は) ねばつち や (と) 言うて ねちつと しとるし (して居る)、サクイと 水でこねても ばさばさつと してくのなあ (して行くのです)。きい (木) でも ぱつと へしおれて (折れて) こや (此れは) サクイなあ言うて しよおしよ (少し、多少) 曲げて、粘りの有る時や (は) 弓みたいよお (弓のように) なるし、こおして曲げると ポンと へし折れてくの (て行くのが) サクイ。

ざくざく【副詞】 1) 沢山 2) 次から次へ

さくさくする 粘りがない

さくし (策士)【名詞】 計り事を巧みにする人。特に悪巧に長じた人。[会話] あやまあ サクシやどお (だ) 言うて、後ろで操つて、自分と (は) 前い (へ) 出やんと (出なくて) 人を操つるよんして (ようにして) 人を すんのを (するのを) あや (彼は) サクシやなあ (だ) 言うて

さくじ (作事)【名詞】 修理 舟の修理 (志 (布施田)、鳥 (鳥羽))

さぐやあるいて 探り出す。ひそかに調べる。探ぐる。

[会話] サグヤアルイテ 言うやんかい (言います)。人のいなん (要らない) わりくち (悪口) 聞いてすんのを (するのを) サグヤアルイテ 言うて。

さぐりあるく (探歩) 【自力五】 探してあちらこちら歩く。特に人が隠しておきたいような事を探し出すためにあちらこちらを歩く。[会話] さぐりぎき (盗み聞き) 言うてな、なんやかやなあ (いろいろ) 人の言う事サグリアルク 言うやんかい (言います)。人の言う事 聞き耳立ててなあ 歩かせんねけど (ないのだが) サグリアルク言うてなあ、人のいなん (要らぬ) わりくち (悪口) を聞いて すんのをなあ (するのを) サグリアルク、さぐりぎきする言うて。

さぐりいれる 内密に尋ねる。ひそかに様子を窺う。

さぐりぎき 【名詞】 聞き耳を立てる。人の事を探り出そうといろいろ聞く。[会話] 人の言う事を 聞き耳立ててなあ 人のいなん (要らない) わりくち (悪口) を 聞いてすんのを (するのを) サグリギキする言うて。

さぐりだす (探出) 【他サ五】 他人の欠点 内緒事を探し出す。[会話] 聞き出す事を サグリダス言うねな (言うのです)。あんな (彼が) こげん (こんなに) 言うて、あしこ (あすこ) のひた (人は) こげな (こんなのだ) 言うて、わがと (自分が) 聞き出してくんのをなあ (来るのを) さぐりぎきしとて (して) サグリダシテ 来た言うてな。

さぐりまある (さぐりまわる さぐりまはる) (探回)

【自ラ五】 さぐりあるくと同じ 探りまわる あちらこちらを探っている [会話] さぐりだすも一緒やわい (です)。なんでも 人のなあ わり (悪るい) 事ばっか (ばかり) 言うて、人のいなん (要らぬ) 事を 聞いて来た事を それを元のように いや (言えば) ええけど (よいのだが)、またなあ そいな (そんな) にげや (人は) ちょいと (少し) こお (粉) も付け 館もつけてなあ 嘘も付けて来るやんない (でしょう)。そやよって (だから) 喧嘩さすのをなあ その サグリアアルもん (者) をなあ。

さぐりやい (さぐりあい さぐりあひ) (探合) 【名詞】

互に相手の様子をうかがって居る。[会話] なんやかや (いろいろ) 聞きあるくのを、サグリヤイしてまあ言うて、わりこと (悪い事) 誰それな (が) こげん (こんなに) 言うたと (言っていた)

言うのなあ。あや (彼は) どおか、あや (彼は) こげん (こんなに) 言うたとけど (言っていたが) これ あのひた (人は) どげなんどい (どんなのですか) たら (とか) 言うてなあ。探ぐるよん (ように) 言うてなあ すんのを (するのを)。お互にサグリヤウのをなあ、あ、そげなんかい (そんなのですか) おら (俺は) はじめてやれ (だ) 言う時な (が) 有るやんない (有るでしょう) そげな (そんな) のおをなあ (のを)。

…さけ 【接尾語】 【助詞】 文末にあつて前の語を受け、それだからの意を表す さけん参照 (安、一、上、阿、張、名、度) [会話] そやサケン (それだから) あげな (あんな) 事言うたんなあ (言ったのだ) 言う時も 有るんなあ (有ります)。そげなん (そんなの) サケン まあ、あげな事 言うたんなあ 言うてなあ。サケ言う時と サケニ言う時と、サケン言う時と、意味は一緒やけど (だが) その人ん (に) よつて サケン言う人も有るし サケニ言う人も有るしなあ。サケンなれ 言うてなあ そやよつてんなれ (それだから) 言う時も 有るしなあ。

さけおとつ。さけおととい 【名詞】 さきおとつ 一昨昨日 おとついの前の日 さきおとつ参照 (志)

さけおとし 【名詞】 一昨々年

さげぐすり 【名詞】 下剤 さげる参照 [会話] 下剤を サゲグスリ。

さけくらい (さけくらひ) (酒食) 【名詞】 1) 大酒飲み 2) 酒に酔った者 酔っぱらい 酒の語源 (大言海) シルケ (汁物) の転 シルケがスケになりサケに訛った、昔は濁酒で有ったので酒は飲むものでなく食べる物、くらう物で、その名残りとして酒くらの語が有る。[会話] 1) 酒飲み 大酒飲みをだ サケクライ、おらげ (俺の家) のとと (夫が) サケクライで まあ 言うてなあ、くちぎたのお (口汚なく) 言うとな、そしてなあ よけ (沢山) 酒、飲む人をなあ、やすみ酒 (晩酌) ぐらいなら ええんけど (よいのだが) あくらかいん (無茶苦茶に) 飲むやんない (でしょう)、そいな (そんな) 人を サケクライや (だ) 言うねんなあ (言うのです)。

さげしお (さげしほ) (下潮) 【名詞】 引き潮 こみしお、さかしお参照 (桑市、鳥) [会話] こみしを言うな (のは) 満つて来る事なあ (です)。干いてく時や (は) ひきしお サゲシオ とも言うしなあ

(言います)。

さけだある【名詞】 酒樽 [会話] たある (樽) サケダアル言うて。

さけだる (酒樽)【名詞】 さかだる 酒を入れておく樽 (熊) [会話] サケダル言うて 四斗樽も有るし、一斗樽も有るしなあ (有ります)。たある (樽) サケダアル言うて、今しや (今は) 菰巻き言うやんない (言うでしょう)、菰で巻いてあんの (有るのを) こもまき こかしとられ (転がしている) 言うて。昔や (は) 大祝いするとなあ おた、サケダル こかしたんてわれ (空にしたそうだ) 言うて言よお ったなあ (言いました)。初午や (だ) とか、結婚式や (だ) 言うて 一週間もしよお ったやんかな (していたでありますか)、今し (今) みたよん (のように) 一日で済ませんし (ないし)、あ あしたごさえ (下準備) した あ あ 今日は何んやら そ すと終いん (に) になると ま ない いた洗いや (だ) 肥持ち迄しとんね よって (しているのだから) 一週間もなあ。そ やよって (それだから) ま あ サケダル こかしたんてわれ 言うてなあ 四斗樽 こかし たてない (空にしたそうだ) 言うてな

さけづけ (酒漬)【名詞】 酒を多量に飲む事 昼夜常に酒を飲んでいる事 酒びたり [会話] サケツケン (に) な つとんね (なっているのだ) 言うてな、毎日のおどと (飲んでいると) 毎日 サケツケン (に) な つとる (なっている)。あ やま あ (彼は) 酒ん (に) つか つとんねもん な あ (漬かっているのだから) 言うて、お ら げ (俺の家) の爺 な (が) 毎日 酒ん (に) ツ カ ツ ラ レ (漬かっている) 言うてなあ 朝からよ さ (夜) まで め え (目) あくと飲んでしとる (している) 人 な (が) あ り お つ た (有りました)。

…**さけで【助詞】** だから [会話] 今日は 伊勢い (に) 行くね (の) サケデ、あ ん た (貴方) く ん な え (来ないで) わ し げ (私の家) い (に) 言うたりな だから 言うこと。

…**さけに【助詞】** だから さけ参照 (志、上、阿、張、名)

さけのみ (酒呑み)【名詞】 酔っぱらい 大酒家 (志 (志島 片田 布施田 的矢)、鳥、(神島 菅島)、阿) [会話] サケノミ言うな (のは) 酒を飲む人ら (を)、よ け (沢山) 飲む人ら、サケノミや (だ) 言うて。あ や ま あ (彼は) サケノミでまあ 言うて、い っ し よ か ぶ り (一升かぶり) で い く ら で も 飲 む

言うのな あ (言います)。晩 酌 飲 む 位 や な あ (では) サケノミ言わ せ ん け ど (言わないが)、よ け (沢山) 五合も、い っ し よ (一升) も飲む人ら (を) あ や (彼) サケノミや (です) 言うて

さけのんどるぜん【名詞】 銅貨、金貨、銀貨に対し赤いから

さけめ (裂目)【名詞】 裂けた所 割目

さけや (酒屋)【名詞】 酒屋 酒を販売する店 (熊) [会話] サケヤ 計り売りする家な あ (です)。さ か や (酒屋) い (へ) 行 て (行つて) の お で (飲んで)。サ ケ ヤ な な あ (が) コップ酒言うて コップい (へ) 一杯 幾ら言うて。

さげる (下る)【他ガ下一】 1) 下痢する。2) 手に持つ 携える (志、南) 3) 供え物をおろす (桑市、鈴市、南) [会話] サゲル。物 人 や ん の を (やるのを) サゲルとか、3) か ん さ ん (神様) へ上 げ た (供えた) の、サゲルとか。1) く だ す (下痢する) のも サゲル言うしなあ (言います)。下痢を、腹 な (が) 張つて さげぐすり の お だ や (飲んだら) く だ つ て 言うて べ つ ん も (特別に) 汚い。汚いよ お な け ど (ようだが) サゲル言うな あ (言います)。腹 な い と お て (痛くて) あ げ た り (嘔吐したり) サゲタリして言うてなあ。人 ん (に) 物 や ん の で も (やるのでも) あげたり サゲタリ ぼ っ ぽ (懐、ポケット) 入れよ (入れよう) 言うて、よ お (よく) 子供らな言うや ん か い (言います)。

…**さけん【助詞】** …だから 活用語の連体形について原因や理故を示す。さけんだ参照 (阿、張、名)

…**さけんだ** だから [会話] それやサケン そ げ ん (そんなに) なつて来た れ (来た) とか言う。サケンダ こ げ ん (こんなに) な つ た れ (なった) 言うて、サケンダ言うて。そ げ ん (そんなに) 言う 言葉やなあ (です)、そ げ ん 言うたサケン こ げ ん な つ て た れ。あ ん た な (貴方が) そ げ ん 言うサケンダ 言うや ん か い (言います)。あ ん た な (貴方が) そ げ ん 言うサケン そ れ、こ げ ん な つ て た わ い (なつてしまった) た ら (とか) 言うや ん か い。

ざこ (雑魚)【名詞】 いろいろの種類のまじつた小魚 雑喉の変化した語 [会話] ザコも と と (魚) なみ言うて、なん や ら (なにか) ご み く た (塵) み た よ な (のような) の お を な あ (のを)。ご み く た ざ か な よ け (沢山) 釣ると ザ コ や な あ (だ) 言うて ご み く た ざ か な な (が) こ や (これは) ザコ な (が) よ け (沢山) の つ た (網に入つた) 言う

て ギョウ言うたら、いろいろのもんや (物です) あや (あれは) ギョウばっかやれ 言うてな。

さごし【名詞】 鱒の幼魚 (志 (甲賀)、鳥)

さごす 動かす [会話] サゴス さごし言うて ちよいちょい (少しづつ) てえ (手) で しょしよら げたりすんのな あ (動かしたりするのを)、サゴシテ しとけ (しておけ) 言う時な (が) 有るけどな あ (有ります)。

ざごね (雑居寝)【名詞】 大勢が入り乱れて寝る事

ざごのととまじり 群鶏の一鶴 多数の中にすぐれたものが少し有る事。

さざい (栄螺)【名詞】 さざえ 栄螺 海に住む巻貝とげの有る所から、細かいさざ柄とも、小さい家から来たとも言われる。(志 (国府、畔名、浜島、片田、安乗)、鳥 (国崎、菅島)、度、伊、北) [会話] さざえ さざえを サザイ サザイや言う。(言います)。

さざいわり【名詞】 1) 猫鮫 ネコザメ科のサメ全長約1、2mに達す。頭部は猫を思わせるのでこの名が有る。体色は暗褐色で体側に約7條の暗色帯がある。背鰭は2基でそれぞれの前端に一ヶの棘を持つ歯が極めて強くさざえの殻を噛み砕いて中身を食べるのでこの名が有る。(志) 2) 器量の悪い人 [会話] 1) サザイワリ 鮫や (で) ねえんかい (ないのでか)。2) 器量な (が) わりもんで (悪いので) 器量のわり (悪い) 人見ると サザエワリ みたよな (のような) 顔しとる (している) 言うて よお (よく) 言うてきよおった (言って来ました)。ねござめ、ばばざめ。

さざえ (支)【名詞】 支持する事 さざえる (支) 事 又その物 動詞さざえるの連用形の名詞化

さざえかづき【名詞】 栄螺を潜って獲る事 (志)

さざえがめ【名詞】 さざえの殻 [会話] サザエガメ 言うな (のは) さざえの殻を、かめ 言うね (言うのです)。そして ちっちゃいのおや (小さいのだ) 言うて、おおた (ああ) こや (これは) やごだい、やなあ (だ) 言うて ちっちゃあいの (小さいのを) 捨て来ると やごだい ばっかやなあ (ばかりだ) 言うて。

さざえのぶく【名詞】 さざえの殻の内腔 [会話] さざえがめ言うのは栄螺の殻の事。ブク言うな (のは) 穴 あけて こめん (詰める) のおを (のを) ブク 一杯言うの (のです)

さざえばり。さざえわり (栄螺割)【名詞】 ねござめ

さざいわり参照 (志) [会話] サザエバリ 言うの なあ (言います)、鮫を サザエワリ サザエバリ。サザエバリな (が) 掛って言うてなあ、ほんにえ (本当ですか)。サザエワリ言うて、聞くわ (聞きます) わたしや (私は、84才) 割る言うて。サザエワリ言うて聞く。わしら (私は、94才) サザエバリやし (です)。さざえでも 割ったる (割ってやる) よおな 力な (が) 有るもんで (ので) サザエワリ 言うんかいなあ (言うのでしょうか)。わとばとの違い 濁りつけんの (つけます)。わしら な (私の) サザエバリ 濁りつけんのなあ (付けるのです)。サザエワリ言うて聞いとる (て居る) 私らわ (私は)。

ささくれ【名詞】 1) 手ががさがさに荒れる事、滑でない事 (志 (甲賀)、桑市、鳥、北) 2) 物の先端などが細かくむけてめくり上ったり 裂けて割れたりする事。又、そうなったもの。そそくるの転 (大言海) (志 (甲賀)) [会話] 2) ササクレとるなあ (て居る) 言うて (言って) なんやかや (すべて) もげとると ササクレたて (てしまつて) そや言うて、もげたのおを (のを) ササクレル。てえ (手) が かさかさする かさかさ ササクレタ言うて、1) てえ (手) な (が) 荒れる事を、ササクレタ 言うて。てえ (手) な (が) ササクレテ ほおたこや (これは) がさがさしとる (して居る) 言うてなあ。

ささくれる 先がさけて細かくなる ささくれ参照

ささげ (豆工) (豆)【名詞】 マメ科の一年草 いんげん豆 茎はつる性で長くのびるもの、つる状にならないものも有る。葉は互生で長柄を持ち三小葉からなる。小葉は、柄があり卵状菱形で長さ8~15cm、夏 葉腋に淡紫色の蝶形花を2~3ヶつける果実は長さ15~20cmの線形の莢で上をむいてつく 種子は長さ1cm内外で色は白、黒、褐色、赤褐色と品種により異なる。(志 (布施田)) [会話] ササゲ。アズキササゲ 嫁なかし いろいろ あんぬ (有ります)。婿だまし言う ササゲも有るしのお (有ります)、シロササゲにクロササゲ。アズキササゲの事を よめなかし言うの (のです)。むこだまし言うな (のは) 知らんけど (知らないが)。

ささげがら【名詞】 ささげの殻 [会話] ささげを叩いた後のなあ 殻をササゲガラ

ささげめし (豆飯)【名詞】 ささげを入れた飯、黒くなるので不祝義に使う おつけ参照 [会話] なの

かん(初七日)になると とふはち(豆腐と葱の吸物)と ササゲメシして。

ささこし【形容詞】すばしこい。ササはササ(細小)の意か、小さく動く意か、コシは濃しか多い事を言う語か。(志(片田、浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] ササコシ言うの(言うのは) すばしこいなあ(のを)。こしょこしょ こしょこしょとすんの(するのを)、ササコシて(くて) 言うて。こまめ(忠実に)に、なんやかや、(色々)と こまかし(丁寧に) すんのを(するのを) こしょこしょなあ(です)。こしょこしょと まあ ササコシなあ 言うて、てばしこお(てばしこく、手早く) すんのも ササコシなあ(い)です ササコシて(ささこしくて) なんやかや(すべて) てばしかいなあとも言うし(言います)。てばやん(手早に) する事を 言うんやろなあ(言うのでしょう) ササコシ言うなあ(言うのは)。てばしかいとか てばしこおて(かくて) ササコシて(くて) 言うて(言)て。子供らな(が) なぶると(触ると) なんやかや ササコシて、なぶってとか言うてなあ、そいな(そんな)時、ササコシ言うなあ(言います)。あのか(あの子は) ササコシて どこやらに(どこかに) 逃げてた(逃げて行った)。逃げてたり(で行ったり) どこやかや(何処、彼処) いて(行って) ササコシて おくの(子守するのは) 骨な(が) 折れられ(折れます) 言うて、もり(子守)する時、ササコシて どこやかや こしょこしょして まあ 言うて(言)て。ササコシて おの(子守する)の 骨な(が) 折れる こお(子) やなあ(だ) 言うて、ササコシと かいらし(かわいらしい) ねやろなあ(のでしょう) あんで(あれ)で。

ささせ 1) させてくれ(志) 2) させなさい

ささって【名詞】ささて 明々後日(志(安乗、畔名、片田、越賀、御座、浜島、布施田、国府、船越、鶴方、神明、立神)、鳥(桃取、相差)、阿、桑郡、桑市、員、四、鈴市、鈴郡、亀、安、津、一、飯、松、多、上、阿、伊、北、尾、熊) [会話] あした(明日) あさって(明後日) ササッテ。ササッテ みつ かめ(三日目)の事 ササッテ。あしたは 明日でその次や(は) 明後日やろ(でしょう)。その次の事やなあ(です) ササッテ。そいて(そうして) きんの(きのう、昨日) おとつい(一昨日) さきおとつい(一昨日) 言うのも 一緒や(です) みつ

かめやなあ(です)。

ささぶ【名詞】植物 しやしんぼ ツツジ科の常緑低木、または小高木。関東南部以西、四国、九州の山野に生える。高さ2~5m。葉は互生し、短柄があり、長さ3~6cmの卵形または長楕円形で縁に浅い鋸歯がある。初夏、枝端の葉腋から長さ5cm内外の花序を出して10個あまりの紅白色の花を下垂する。花冠は長さ約6mmの筒形で先はすばまり、わずかに五裂する。苞は長さ2cm内外の披針形で厚く、花序まで残る。果実は径約6mmの球形で紫黒色に熟し食用となる。和名は「小小(ささ)ん坊」の意で、実が小さくて丸いことによる。漢名さしぶのき。(志(立神、国府))

ささぶね(笹舟) **ささぶねながし**(笹舟流)【名詞】

笹の葉で作った小さい舟形のもの。盆に精霊の迎え送りに使用される。七月六日迎え、十五日送り、迎火 送火の代りか 盆に祖霊を迎えるのはもともと海のかなたの世界より来ると信じられて居た。伊勢にて七月七日に笹舟を作り海に流す。精霊を迎ふる舟の意なると。七月六日の夜、笹の葉を以て舟を造り、麻を結び綱として家毎にこれを大川に流す。是は七夕へ献納し、此舟をして天の川を渡り 二星の逢瀬をはかるとも、又精霊を迎とも言ふ。何れかを知らず。(五十鈴の落葉)(志(布施田)、伊) [会話] ササブネ ササブネナガシ 盆のササブネ盆のむゆか(六日)のササブネナガシ、八月むゆか(六日)その次や(は) なのかぼん(七日盆)。そいで(それで) ササブネで むゆか(六日)に 迎いに(迎えに) いて(行って)、あしため(明日は) なぬかぼん(七日盆)。“思いも 恋も ササブネに乗せて 迎いに(迎えに) 来たか なさけなのさま” 言うやんかい(言います)。ササブネい(へ) 乗って来る時 そげん(そんなに) 言うけど なあ(言います)。送ってく時も(送って行く時も) ササブネ。あれは、しょおろ送り(精霊送り) 言うてなあ(言)て、ほときさん(仏様)に 供えて有るもん(物)を、皆、団子や(とか) 素麺やかしん(菓子) や(を) 持って。“素麺くうたら(食べた)ら 団子も持って じさんも ばさんも 孫らも一緒に よいそらよいそら” 言うて 送り火い(へ) 乗せて行くやんない(でしょう)。それを しょおろ送り 言うて しょおろ(精霊) むゆか(六日)に むこて(迎えて) じゅうごんちに送る。昔や(は) 七月(陰曆) やったけど(だった)。昔や

七月あ (は) 盆やなあ (だ) ぼぼ (女陰 性交) する月やなあ (だ) 言いおった (言いました) 昔や (は) 七月な (が) 盆やった (だった) やんかい (です、でした)。今しゃ (今は) 新になって八月。そやもんで (それで) 七月盆やれ (だ) ぼぼする月やれ (だ) 言うけど (言うが) 盆にぼぼした ためし無い 言う事も 有るやんか (有ります)。朝早いし よさり (夜) は 今し (今) とちごて (違って) 一時、二時迄えつ (迄も) 踊つとるやんな (て居るでしょう) ほと (すると) そいな (そんな) 事 しとる (して居る) 暇がないもんで (ので) 盆や盆やと 盆楽しんで 盆にぼぼした ためしなし言うて まあ盆は忙しんかして (忙がしいのか)。今しでも 和具の盆 忙しもんなあ (忙しい)。昔や 幾くら (何回) も 喰わしたり飲ましたり (供へ物) して 盆は ほんと (本当に) おなごらな (女の人が) 忙しの (のです) きゅうくれまいくれ しよったね (しました)。きゅうくれ 言うな (のは) 忙して 忙して (忙しくて) てんでこまい する事なあ (です)。七月に しよおったんけどなあ (して居ました) 旧のお月さんが カーンと 照つとる (て居る) 時に 盆踊りしとるなあ (して居るのは) ええのんなあ (よかったのに)。

ざざぶり 【名詞】 雨が大量に降る事 一時的に大雨が降る状態 じゃじゃぶり参照 [会話] 盆の前のザザブリや (だ) 言うて いったん降り (一度に大量に降る) して来ると

ささぼおき (ささぼうき) (笹箒) 【名詞】 笹の葉のついた枝を束ねて作った掃木 こんぼうち参照 (志 (志鳥)) [会話] ササボオキ言うのは 笹でなあ 青笹を 切つといて (ておいて)、からげといて (束ねておいて) ビュービュー言うて (言つて) すと (払うと) かあも 死んでくんでや (行きます)、夕方になると はよ (早く) かあ (蚊) かつたれ (狩つてやれ) 言うて ササボオキで よお (よく) かりよおったわい (払つて居ました)。ササボオキは竹箒木とは違うのな (違います)。ああ おい (青い) はあ (葉) の付いとる (ている) はあ (葉) ばつか (ばかり) ん (の) のおを (のを) この位に (60~70cm) 切つて、しばつといて (束ねて)、こおしてすつと (すると) かあ (蚊) も 死んでくんでや (死んで行くのです) ビュービューと どづく (強く叩く) とさいご (その時に)。ばあやん (祖母) ら (は) じっきん (すぐに、よ

く) ササボオキ こさえて来てな (作つて来ては)、蚊帳ん (の) なか はいんの (入るの) でも ササボオキでかつといて 入れよお 言うて、蚊帳かぶる時 (蚊帳の裾を上げて、頭を入れる) 蚊を入れるもんで (ので) うちわやササボオキで かつといて、はよ (早く) おおて (追っ払つて) 入らな (なければ)、そや かあ (蚊) 入れんのん (入れるから) 言うて。

ささみ (笹身) 【名詞】 鶏の胸部の肉 その形が笹の葉に似ているところから [会話] 胸についとる (付いている) ササミ。鶏のササミ あや (あれは) 旨いけどなあ。あつさりしてなあ。刺身にする やんかい (します) あや (あれは) また、刺身ん (に) してなあ 食べると 美味しいんけどなあ (のだが) 炊くとなあ がいん (あまり) 旨まない。

ざざもり 【名詞】 だだもり 盛んに水の漏れるさま [会話] ザザモリ 言うて (言つて) 雨な (が) 降る よお (ように) 漏つて くんのな (来るのが) ザザモリ 言うて、何処もかも ばたばた 漏つて来ると ザザモリやれ (だ) 言うて。桶な (が) ほっしやんどても (乾燥して居ても) そやあれ (それ) は っしやんどて (で居て) ザザモリやれ (だ)。

ささら 【名詞】 1) 竹の先端などが 細かく割れて居る状態 又そのようになったもの。擦る音のさらさらの約 (大言海) 物を洗うのに用いる竹たわし。(志 (布施田)) 2) 皮膚の荒れた状態 [会話] 2) てえ (手) も、足も ササラやれ (だ) 言うて 荒れるとなあ。さかもげん (に) なつて来ると てえも、足も ササラン なつて言うしなあ。1) 針金を よつけ (沢山) ほっそいの (細いのを) 縛つといてなあ (ておいて)。かなみ (金網) 掃除すんのなあ (するのに)。ササラで こそげたり あまのり かいたり (掻き集めたり) すんのなあ (するので)、針金のササラで あまのり かくと よお (よく) かけんね (取れます)、島ん (に) ひつ ついとんの (ているのを) そんで (それで) しゃしゃとすると 竹は はざんのなあ (駄目です) 針金な (が) 一番 ええわい (よるしい)。かなみ (金網) 掃除しても いたわし (心配) のおて (無く) て あんで (あれで) つぶ (貝) な (の) 付いとん な (ているのは) しゃしゃと こそげんね、かなみ (金網) な (が) 汚れて来ると ササラで こそげ たら言うて。

ささわり (障) 【名詞】 1) 差し障りになる事 妨げ

となる事。支障。さしさわり。(志(布施田)) 2) 神 仏の罰 [会話] 1) なんやかや(色々) ササワリ無しにせえ(しなさい) 言うてなあ(言うて) 2) 神さんへ、なんやかやすると ササワッタ言うて 崇りな(が) 有って 神さんな(が) ササワッタ、ササワリな(が) 有る言うて よお(よく) 言うけどなあ(言います)。人のいらん(いらぬ、悪口) 事や(とか) なんか言う そいな(そんな) 事 ササワリな(です)。そいな事(そんな事) さしさわり 無いわ(有りません) 言うて。

ささわる(ささはる)(障)【自ラ五】 さまたげになる。支障を生ず。ささう、さは発語ササふ(支)の自動ササふはのサふはサふ(塞)(大言海)

さし(差)【名詞】 物さし 長短をはかる道具 [会話] モノサシ クジラザシ カナザシ言うて。

さし(指)【名詞】 一対一(志(布施田))

…**さし(止)【接尾語】** 動詞について その途中である事。くいさし。さすも同じ。サシオク(措)の意(大言海) [会話] クイサシ 仕事のシイサシ 仕事シイサシ言うし(言います) 飯もクイサシ 田楽串差し

さしあう(さしあふ)(差合)【自ハ五】 さしつかえる 行事や物事が同時に重なる。(南)

さしいた(差板)【名詞】 波よけなどのため舟べりに取りつける板(北(須賀利)) [会話] サシイタ言うてなあ、舟のふち(縁) い(へ) 波な(が) こんよおん(来ないように) サシイタせな(しななければ) 波な(が) くられ(来る) 言うて、こべり(横) いなあ(へ) 棒立てて、穴な(が) 掘ってあって、それい(へ) 板さすの(のです) 波な(が) して(入れて) こんよんなあ(来ないように) サシイタ せな 風な(が) わりわれ(悪るい) 言うてなあ。

さしおた さしつかえた

さしかけ(差掛)【名詞】 家屋の庇を長く張り出し物置きにしたもの つけだし参照(南) [会話] 庇出して 貰うのを サシカケ してもろて(てもらって)。

さしがね(採鉄)【名詞】 1) 曲尺 2) 入れ知恵 指図 人形芝居の隠語より出た語。人形芝居の人形に入れて操る細い鉄の棒を採鉄と言う。

さしかまい(さしかまひ)(差構)【名詞】 1) 接待 2) 支障 さしつかえ(志(布施田)) [会話] 2) サシカマイな(が) 無いよって(から) おれいげ(俺

の家) へ くや(来れば) ええわ(よろしい)。えんじょ(遠慮) するもん(者) な(が) 無いのおを(のを) サシカマイない。姑婆ないし(亡い) 舅爺や(は) おらせんし(居ないし) さしつかい(支障) な(が) 無いし、俺家い(へ) 来て泊や(泊れば) ええわれ(よろしい) 言うてな。誰もえんじょ するもん 無い、サシカマイな(が) 無いねよってん(のだから) 言うてな

さしかまいなしで もてなししなくて 別れる時もてなす側の挨拶 [会話] サシカマイナシ言うて、気使いなしん(なしに) きがね(気配り) するもん 無い言う事なあ(です)。お客さん 送り出す時ん(に) サシカマイモセンと(せずに) 言うて、なんも(少しも) 世話やかんと なあ(せずに) 食べるもん (物も) 食べさしやせんし(させないし) 茶菓子だそ(出そう) ともせんと(せずに) なんも(少しも) 世話も よおせんと 言う事なあ(です)、接待もせんと 言う事なあ。

ざしき(座敷)【名詞】 1) 会合の席 宴会の席(員、三、鈴市) 2) 若夫婦の寝室 [会話] 1) ザシキな(が) 始まる迄 膳つきの歌 歌え。

ざしきさき(座敷先)【名詞】 縁側 [会話] ザシキサキ言うて 縁。ザシキサキで まあ ぬくとまととられ(温ったまっている) 言うて、ザシキサキで 涼めとかな。濡れ縁な(が) 付くのをなあ ザシキサキや(だ) とか、縁側とか言うてな。夏の事なら ダシキサキで 涼め なあ(涼みなさい) 言うたり、ぬくとまととられ なあ(温まっている) 言うたり 冬の事なら。

さしきず(刺傷)【名詞】 先の尖ったもので突き刺して出来た傷 [会話] サシキズ、なんかで(何かで) 突いた傷をなあ サシキズやなあ(だ) 言うしなあ さかばり(棘) 立てたり なんやかや(いろいろ) してもなあ 竹の サシキズあ(は) 痛いん どお(のだ) 言うてな。

ざしきなてる 宴席が立派に見える ひらもん参照 [会話] 座敷へ 猫足(猫足膳) して、つぼ、ひらの綺麗な椀つけて ほん(本当に) 綺麗 なかつた(でした) ザシキナ (が) テツタレ言うて。座敷な(が) ごっつおで(御馳走) ごっつおで テツタレ言うて 見て綺麗に飾って よけ(沢山) 出したて(出してやって)。

さしぐすり(注薬)【名詞】 注して使う薬。点眼、点鼻、座薬の類

さしげた (差下駄) 【名詞】 高い歯を入れた下駄 (志 (越賀、浜島、片田、志島、甲賀、磯部、鶴方)、桑郡、員、三、鈴市、鈴郡、安、松、多、上、阿、張、名、北、尾、南、熊) [会話] 高下駄のこと。サンゲタ はあ (歯) の付いたのお (のを) サンゲタ履いて言うて (言った)。

さじける 【動詞】 風雨が吹きすさぶ (志、鳥) [会話] どじけたりなあ サジケテキタ言うのも有るし、雨な (が) どじけて (大変降って) 来て、あまやどりしとる (している) とかなあ。しゃじけな して来たれ (来ました) 言うてな 時化て来ると。吹いて降って どしゃぶり。よっけ (沢山) あけて (降って) 来る どしゃ降りする時な (が) 有るやんない (有るでしょう) どしゃ降り してくんのをなあ (来るのを) サジケル。

さしこみ (差込) 【名詞】 急に胃などが痛くなる事。突き入る様に痛む意 (大言海) (志 (鶴方)、鳥)

さしこむ (差込) 【自マ五】 1) 狭い所へ詰め込む
2) 腹痛を起す 痛む きりきりとひどく痛む (鳥) [会話] 1) なんやかや (色々) そや (それ) そこい (其処へ) 栓 サシコンドケ (でおけ) とか、そや 竹の籠でサシコンドケ とか、突っ込むのを サシコム。さしとけ (さしておけ) 言や (言へば) ええの (よいのを) サシコンドケ言うて。
2) 腹な (が) 痛なつて来て、むなさき (上腹部) い (へ) サシコムとか、年寄り (老人) は、よお (よく) 言うなあ (言います)。むなさきい (へ) サシコンドケ来たとか よこっばら (横腹) い (へ) サシコムとか、すんばこ (腹痛) な (が) サシコム言うて。陣痛なんかの時は、子供をもおける (出産する) 前の はらいた (腹痛) の時は さしこんで来た言わせん (言いません)、腹な (が) こわつて (堅くなる、こわばる) 来た 言うて。

さしさわり (さしさはり) (差障) 【名詞】 1) 関係
2) それを行なうと具合が悪くなるような事柄 支障 (志 (布施田)) [会話] 1) 関係ないわれ (有りません) 言う事、ササワリない言うな (言うのは)。そいなこた (そんな事は) 関係無いわ。おら に (私に) サシサワリや (は) 無いわれ (無い) 言うよつて (言うから)、そいなもん (そんなもの) 関係無いわ 言う事やなあ (です)。2) サシサワリな (が) 無いよおに かまわん (相手にしない) なんも (何にも) くちだし (口出し) せんと (せず) に おいとけ (居なさい) 言うて。そいな事 (そんな

な事) おら (俺は) かかわり無い。言うと (言えば) サシサワリ な (が) 有るよつてん (有るから) なつとも (何とも) 言わんと (言わずに) 黙つとれ (て居れ) 言うやんかい (言います)。

さししお (さししほ) (差潮) 【名詞】 干潮が終り 満潮に移り 満ち始める時の潮流 あげしお [会話] 潮な (が) そこり になると、潮な (が) とごんねやろなあ (動かなくなるのでしょうか)。潮のはな (先) な (が) 来ると、はな な (が) くんのを (来るのを) サシシオや (だ) 言うの (のです) その時ん (に) になると 潮な (が) はやなつて (早くなつて) くんの (来るのです)。

さしず (指図) 【名詞】 命令 指図 物差しにて広狭長短を測つて作る。図面が転じその図面によりそれを作る方法を指示する事が更に一般の行動にも広がった語。(大言海) [会話] サシズして言うの あげん (あんなに) せえ (しなさい)、こげんせえ (こんなにしなさい) 言うてな おせごと (教え事) すんの (するのを) サシズして まあ言うてな。あんな (彼の) サシズで 言うてなあ。命令してまあ なんもかも (なにもかも) 皆 あんな (彼の) サシズやどお (だ)、あのしごた (仕事は) 言うてな。

さした させた。他人にある行為を行なわせる。(阿)

さしたい 1) させてやりたい 2) して貰りたい [会話] 1) あの人な (が) する しごた (仕事は) 綺麗で じっばな (立派だ)、ええ (よい) しごた あの人ん (に) サシタイナア言うて

さしたられ。さしたる。さしたるわ。さしたるわな (女性語) させてやる [会話] 俺家い (へ) もてこい (持って来い)、俺家で サシタラレ言うてな、仕事する時でもな サシタルワ言うの (のです)。させてやる言うのをなあ、サシタルワ言うて。そしてたら お前げ (家) でさしてくるかい (させてくれますか) 言うて。

さしぢち 【名詞】 乳頭の上を向いて居る乳房

さしつかい (さしつかえ さしつかへ) (差支) 【名詞】 さしつかえ 支障 [会話] 姑婆亡いし 舅爺や (は) おらせんし (居ないし) サシツカイ無いし 俺家い (へ) 来て泊や (泊まれば) ええわれ (よろしい)。

さして 1) させて下さい 2) させて

さして 【副詞】 たいして 余り [用例] サシテ え

えもんや無いけど (よい物でないが)。

さしでぐち (差出口) 【名詞】 よけいな口出し しゃばって言う言葉 [会話] 人の(が) 話し しとる (している) とこ (所) い (へ) サシデグチ して来ると まぜくらかして

さしてくれ。さしてくれや させて下さい [会話] やめサシテクレ言う事 やめたいと思うと 抜けサシテクレ。

さしてくれる させてくれる

さしてくれるかい。さしてくれるかな (女性語) させて呉れますか [会話] 俺家い (へ) もて (持って) 来い 俺家で さしたるわ (させてやる) 言って。そんなら (それなら) お前家で サシテクレルカイ言うて。

さしても させても [会話] 仕事 なん (なに) サシテモよおせんと (出来ない) 間に合わせん (ない) 言うて。

さしてもら させてもらう [会話] 尻の骨打つと痛とおて (たくて) まいきりおった (ました) どお (樽) の 稽古 サシテモラウのん (の)。

さしば (差歯) 【名詞】 1) 雨の時などに履く高歯の下駄 2) 義歯 [会話] はあ (歯) な (が) 抜けると、抜けとんの (ているのを) サシバン(に) するやんかなあ (します)。1) 下駄のはあ(歯) 入れ ○○爺げ (家) で はあ (歯) 入れて もるて (もらって) 来い言うて よお (よく) 行きおった (行きました)。

さしみず (さしみづ) (差水) 【名詞】 水を加える事 つぎ足す事 又その水 [会話] 煮え繰り返って来てなあ 小豆でも豆でも炊いととなあ (ている)。吹いて来ると サシミズ。素麺 茹でてもなあ びっくりみず言う人もあるしなあ (有ります) サシミズ せな (しなければ) そや、吹いて来たれ (来ました) 言うて、びっくりみず さしたれ (入れてやれ) 言うて。煮やがって (煮あがって) 泡吹いて来るやんない (でしょう) それをなあ こんだ (今度は) 水 ちよっと (少し) したるとなあ (入れてやると) しゅっと 引いてくのでなあ (て行くので) それを びっくりみず さしたれ 言う人も有るしなあ。ポンプでがちゃがちゃしとて (して) サシミズや (です) あや (あれば) パッキンな (が) からからんって来ると、すかん すかん 言うてな それ サシミズしたると (してやると) また上って来てなあ。

さしむかい (さしむかひ) (差向) 【名詞】 特に二人の人が向かいあっている事 [会話] あんた (貴方) と わし (私) と、サシムカイしとる (いている) 時 他のもん (者) な (が) 話しすんのん (するの) に すじむかいん (に) おった人 な (が) だれそれで 言うて。

さしむし 【名詞】 稲の害虫 めいちゅう 髓虫 [会話] サシムシ言うな (のは)、ねえ (根) をなあ、すご (蛆) みたい な (のような) 白い虫な (が) お って なあ (居て) 植えて有る 泥の境から入って くんのなあ (来るのです)。そんな (それが) サシムシなあ (です)。そすと (すると) 白穂ん (に) なって 銀色ん (に) なって、稔っても サシムシ な (が) しとんのわ (しているのは) みい (実) な (が) いっとらせんの (入っていません)。そして 藁ん (に) して つこても (使っても) ひごぬ けな (節から折れて) して はざんね (駄目です) サシムシな (が) した 藁は、稲ななあ (を) 植えると サシムシな (が) して来ると あっこお (赤く) なって来てなあ ほお (穂) な (が) 出てもなあ しらほ (白穂) ばっか で (ばかりで) サシムシ な (が) して はざあ らった よお (駄目でした) 言うて。稲いなあ (へ) 虫な (が) 湧いて 莖い (へ) 入いんの (入いるのです)。芯 くた ので (食べてやるので) ほお (穂) ん (に) 出ても しらほ ばっか で はざんね (駄目です)。青い虫な なあ (が) 稲ん (の) 中ん (へ) 泥ん (の) 中から入ってくんよって (て行くのだから) サシムシな (が) してまあ 言うて、葉 振っても なかなかなあ 葉虫やどき や (などは) 葉で効くけど (が) 泥ん (の) 中から 入ってくんねよって (来るのだから) なんも なあ (少しも) 効かせん (効きません)

さしもん (指物) 【名詞】 さしもの (指物) 建具 (戸障子 襖) など 又 机、木箱など木の板を合せて組み立てて作った器具 [会話] サシモン 建具屋 な (が) すんの (するのを) サシモンする言うん な (言います)。

さしもんし (指物師) 【名詞】 さしものを作る人 建具職人 [会話] 建具でも さしもん (指物) で、建具屋を サシモンシ。

さしもんや (指物屋) 【名詞】 家具などの指物を作ったり 売買したりする人 又その家 [会話] 建具屋の事を なあ (です)、サシモンヤ。

さしよ させよう [会話] あれん (彼に) これ サ
シヨ 言うて

さしよおった 1) させて居た 2) させた [会話]
1) 俺家い もて (持って) 来い 俺家でさしたる
わ (させてやる) 言うて サシヨオツタけど (が)、
今しや (今は) まあ 来やせんね (来ません)。

さしよった させた [会話] 俺家でよお (よく) サ
シヨツタけど (が)、まあ 今しや (今は) 来やせ
んわい (来ません) 言うてなあ。仕事でも 俺家で
さしたるわ (させてやる) 言うて 俺家で サシヨ
ツタけど まあ 今しや (今は) 来やせんわれ (来
ません) 言うてなあ。

さしわたし (差渡) 【名詞】 一方の端から他方の端ま
での長さ、直径 [会話] はんざりは サシワタシ
な (が) 一間位 有った。

さす (注) 【他サ五】 注ぐ そそぐ (熊)

さす 【他サ五】 させる (志 (布施田)、鳥、桑市、員、
鈴市、亀、安、津、多、上、阿、張、伊、尾)

さすが 【副詞】 立派。偉い。さりながら (然) 本を失
わず、とのほめ言葉からの転。 [会話] サスガ言
うのは 偉い言う事やな (です) 偉い人言う事やな
(です) なんしても (何しても) サスガで 言うや
んかい (言います) 偉いね (のだ) 言う事や (だ)。

さすがじん 【名詞】 立派な 賢い人 [会話] サスガ
ジンやなあ (だ) 言うてなあ、才智 (賢い) な人。
なんでも (何でも) 人の言う事 ばつと察するにげ
なあ (人間です)、あや (彼は) 才智なよって (だ
から) まあ言うて 立派な人 賢い人を。

さすがで 立派で

さすがなひと 【名詞】 偉い人 立派な人

さすな させるな (鈴市)

さする (擦) 【他ラ五】 指先や手掌等を体の表面に軽
く当て、軽く滑らすように動かす。軽くなでる。
(志 (布施田)) [会話] なでる事なあ (です) サ
スツテ呉れまあ (下さい) 腹な (が) 痛いわれ (痛
い)、足なやめる (痛む) サスツテ呉れ言うて。

させたい させてやりたい [会話] あの人 まあ
なんでも (何でも) 利口で (上手で) サセタイなあ
言うて、あの人をするこた (事は) なんでも綺麗や
し (だし) いちがいな (一途な) 人や (だ)、あの人
ん (に) サセタイなあ 言うて、よお (よく) 言
うやんかい (言います)。あの人な (が) する し
ごた (仕事は) 綺麗で じっぱな (立派だ)、ええ
しごた (よい仕事は) あの人ん (に) サセタイなあ

言うて して貰いたい 言う事やけどな (だが)。

させたれ 1) させてやれ 2) させました

させられん させられない

させん 1) させない 2) 任せない。(員) [用例]
あれんよおサセン。

さそ させよう [会話] 長持ち サソ おもたら
(思ったら) 水ん (に) つけて ばっか (ばかり)
おらんと (居ずに) 干しとかな (ておかなければ)

さそい (さそひ) (誘) 【名詞】 1) 招待の使者、連絡
2) 招待 [会話] 1) ふたあくら (二度) サソイ
な (が) あつて (有って)、ふたあくらめ (二度
目) な (が) 無いと、始めのひとくら (一度) は
通りいっぺん (御義理) で。

さぞい 【形容詞】 賢い 機敏である。さどい。さどい
[会話] サゾイ言うな (のは)、仕事しても えら
いし (大変よく出来るし) なんでも サゾオテ (さ
ぞくて) 言うねよってん (言うのだから)。賢い言
うのと 又 ちよいと (少し) 意味な (が) 違うな
あ (違います) サゾイ言うな (のは)。人よりする
事な (が) 人が此れ欲し (欲しい) 思とても (て居
ても) 自分で ヒュッと持つてくのを (持って行く
のを) サゾイ言うね (言うのです)。すれがしこい
言うねやわ (言うのです) そいなのなあ (そんなの
です)。サゾイ。サゾイのは 人の先、先なんでも
する人なあ (です)。あやまあ (彼は) ウトサゾイ
ねよって (のだから) 言うやんかい (言います)。
ウトサゾイ言うて とんぼりと しととも (して居
ても) さあ 言うたら 手早よお (やく) なんでも
(何でも) 人より先にする。手早いだけのでも サ
ゾナケナ (なければ) 出来やへんけど (出来ない
が)、あんで (あれで) 心な (が) サゾイ、心な
さえとる (冴えて居る) 言うんやろなあ (言うのでし
ょう)、言うて見ると 利口 賢い 知恵深い言
うて サゾオテ (さぞくて) 人よりさきい (先へ)
なんでもする言う事は 利口かしこいんやなけな
(のでなければ) 出来やへん。

さそいて (誘手) 【名詞】 誘う人 [会話] さそわれ
て、まあ言うてな、行こやんかい (行きましょう)
何処其処へ言うて。旅行い (へ) 行くのでも、今年
や (は) 琵琶湖い (へ) 行くね (行きます) 行かん
かい (行きませんか) お前も 言うて、そしたや
(そうしたら) あれん (彼に) 誘てもおて (貰らっ
て) 行たや (行ったら) 好かつたよお (です) 言う
て、さそいな (が) 有ると 何処やかやい (どこか

へ) 行くのでもなあ 誘いに行く人を サソイテや (だ) 言うてなあ。いこやんかい 言うてく (ていく) 人を。

さそいみず (さそひみづ) (誘水) 【名詞】 井戸のポンプの水が出ない時 中の水を導き出すためにポンプに注ぎ入れる水 さしみず参照 [会話] サソイミズ 言うのなあ (です) ポンプを押すやんない (でしょう) サソイミズ言うやんかい (言います)。水 さそて (誘って) 出て来んの (来るのを) すんで (するので)。パッキンな (が) がたがたん (に) なつとる (なっている) 時ん (に) さしみずしたらな (しなければ) 言うて さしみずとも言うしなあ。サソイミズ やらな (やらなければ) 出やへんわれ (出ない) 言うて、パッキンな からからん (に) なつとて (なっていて) すっぼん、すっぼん、言うとる (言っている) 時ん (に)。

さそいんいこや。さそいんこや 誘いに行きましよう [会話] あれげも (彼の家も) サソイン イコヤンカ (行きましよう) 言うてな、何処 そこい (へ) 行こや (行きましよう) 言うてくのを (言っていくのを)、サソインイコヤ言うて。何処 そこい (へ) いこか (行きましようか) 芝居 見いん (に) 行こか、とか言うて お前も行かんかい (行きませんか) 言うて 言うのを誘い。あれん (彼に) 誘われて まあ いて来たよお (行って来ました) 言うて。私も 行くし、あんた (貴方) も行くし あれも サソインイコヤ言うてな。そして あんたも いけえ (行きなさい) 言うてく (言っていく) 事なあ (です) さそいん (に) 行く。

さそか 1) させようか 2) させないであろう [会話] 1) あれん (彼に) これを しやそか (させようか) 言う時やなあ (です) サソカ 言うてな さしたるか (させてやろうか) 言うの (のを)

さそかい。さそかな (女性語) 1) させないでしょう 2) させてあげましようか

さそかれ させないでしょう

さそてこや 誘って行きましよう。[会話] よおでこ (呼んで行こお)。あれも (彼も) 呼んで 行こや (行きましよう) 言うのを、サソテコヤ言う、あれも (彼も) いこやんか (行きましよう) 言うて よおでこやんか (呼んで行きましよう) 言うと さそいん (に) いこやんか (行きましよう)。

さぞや 【副詞】 さぞかし さだめし ヤは終助詞

(広辞苑) (志 (布施田))

さた (沙汰) 【名詞】 知らせ 通知 便り うわさ 評判 [会話] 働きん (に) いとるけど (いって居るが) サタも無い。知らせが無い事を、サタな (が) 無い言うのなあ (言います)。どこそこへいとるけど (行って居るが) なんの サタも無い、知らせが無いとか 便りが無いとか。〇〇さんお前げ (家) の婆さん 死んでから 何年になるどい (なりますか) 言うたや (言ったら) さあ まあ それやてや (それです) 何年になるやら いまだに なんの サタも 無いんてや (無いのです) なんの 便りも して 寄させん (寄さない) 言う事やわな (です)。オトサタなし、やつて来て言うて言うやんかい (言います)。

さだか (定) 【形容詞】 たしかなさま。はっきりしているさま。

さだかやない はっきりしていない。確でない。

さだち 【名詞】 俄雨 村雨 (志 (浜島、布施田)、度) [会話] 雨な (が) 俄に、さあつと 降ってくんのを (来るのを) サダチな (が) して 来て言うてなあ (言っている)。雲がこお ばあばあ 掛って (出て) 来ると 夏の頃にサダチや (だ) 言うて、ひい (日) な (が) かたつぽ (片一方) 照つとて (て居て) かたつぽ 雨な (が) 降つとんのな (て居るのを) サダチな (が) して来た。

さたのかざり 言語同断。聞きたくない。

さだめ (定) 【名詞】 1) 決定している事 約束 掟 2) 運命 [会話] 2) なんやかやな (いろいろな事が) 有るとなあ、まあ あいな (あんな) サダメ やつたんかいなあ (だったのか) あのひた (人は) 言うてな。運命言うよおな事をなあ、不幸な (が) 事な有つても。1) こお言うサダメな (が) 有つて言うてな。規則の事をなあ あの子とあの子と一緒ん (に) しとこやんかれ (しておきましよう) 言う サダメな (が) 有つてまあ 言うて、よお 言うやんかい (よく言います)

さだめごと (定事) 【名詞】 1) 規定 約束事 2) 運命 [会話] 1) きめごとをなあ サダメゴト。なんやかやを (いろいろな事を) こげん (こんな) に しょおや (しましよう) 言うて きめん (定める) のを、サダメゴト 言うなあ。

さだめる (定) 【他マ下一】 決める 約束する [会話] きめる事な (です)、ま サダメル 言うて こお言う さだめん (に) なつとんね (なっている)

のだ) 言うて よお言うやんかい (よく言います)
ざつい (雑い) (雑把) 【形容詞】 ぞんざいである。雑
精密でないさま 粗末なさま いいかげんなさま
(志 (布施田)、南、熊)

さづかった 1) 貰った 2) 妊娠した 思もわぬ
貰い物 神仏などからの賜り物 特に子供を妊娠した
時 (多) [会話] 2) サヅカッタ言うのな (で
す) こお (子) な (が) サヅカッタ 言うてなあ。
こお (子) な (が) 無いのななあ (が) 出来て来る
となあ、こお な (が) サヅカッテキテ まあ 言
うてな。1) ええもん (よい物) もおた (貰らっ
た) 時んなあ (に) 珍しもん (物) 貰らうと こや
(これは) こいな (こんな) ええもん サヅカッタ
とかなあ。おもわん (思わぬ) もん (物) をもろた
(貰らった) 言う事なあ、有難いもんで (ので) サ
ヅカッタななあ (のだ) 言うて。俺家や (は) こお
(子) な (が) のおて (無くて) ほん (本当に) 言
うて しとると (していると) ひよかつと こお
(子) な (が) 出来た 言うて、サヅカッタンナア
言うてなあ。そやけど (しかし) よけ (沢山) 出来
ると また出来た 言うて。また 出来て まあ、
とめん (に) しとけ (しておけ) 言うて、とめ言う
て 名前つけたる (てやる)、まあ こんで (これ
で) 終いやれ (だ) 言うて とめん (に) しても
又 出来て すえ言うて 名前つけて そいな (そ
んな) 時は サヅカッタ 言わせん (言いません)
また出来たんか 言うし またか 言うて。

さづかぶろ 【名詞】 乱散髪 乱れた長い髪 (志 (布施
田)) [会話] サックプロ言うて 頭の髪をばら
いて (ばらばらにして) 後ろも前も ばら
いて。

さづかりもん (授物) 【名詞】 1) 貰らい物 2) 妊
娠 (多) [会話] 2) さづかって来て言うてな。
こお (子) な (が) さづかって、俺家や (は) さ
づかって来て 言うしなあ。1) なんやかや (いろ
いろ) 珍しもん (物) 貰るても (貰らつても) まあ
こいな (こんな) ええもん (よい物) な (が) さづ
かって来たよお言うて。思いがけないもん (物) を
手に入ると サヅカリモン や (だ) 言うて

さづかる (授) 【他ラ五】 1) 貰う 頂く 2) 妊娠
する [会話] さづかったも 一緒や (です) サヅ
カルも。

さつき (先) 【名詞】 時間的に少し前 さきの急呼
(大言海 広辞苑) (志 (鶴方、浜島、片田、畔名、
志島、国府、甲賀)、鳥 (国崎 坂手)、桑郡、員、

三、鈴市、津、一、多、上、阿、張、名、北) [会
話] サッキ言うて ちよいと (少し) すんでた
(済でしまった) 時なあ (です)。サッキ来たやん
ない (来たでしょう) あんたな (貴方が)、サッキ
来て 言うのを、ほん (本当に) 来たばかや (ばか
りだ)、ほんに (本当に) 最近言う事をサッキ。サ
ッキ来たばかや 言うて、サッキ行たばかや のに
そこらに おるやろど (居るでしょう) 言うて。時
間やわなあ (です)。サッキん (に) 来て行た (行
った) とか サッキまでおったのん (の) とかな
あ。

さつきがた 先程。先刻。つい先程。[用例] サッ
キガタ 来たばかや (ばかりだ)。

さつきから 先程から [用例] サッキカラ のお探
しとんねやれ (お前を探して居るのだ)。

さつきだ 先程 先程に [会話] さつき言うたや
んか (言ったでないか) 言うのを、サッキダ言うたや
んか (言ったでないか) 言うて、なんも (少しも)
聞かせんない (聞きません) 言うて、サッキダ言う
たやんか (言ったでないか)。

さつきに 先刻 先程に (桑市、松、尾) [会話]
さつき 言うのも サッキニ言うのも一緒や (で
す)、話すのんなあ (するの)に) その筋道ん
(に) よって、そいな (そんな) 言葉 言うたん
のなあ (言ってしまうのです)。サッキニ 言うた
り サッキン 言うたり、さつき言う時もあるし、
サッキン言うた ばかや (ばかりだ) のん (の
に) 言う時もあるし。

さつきん 先に先程に さつきに、に同じ。参照
(上、阿、張、名)

ざつくばらん 【形容詞】 あけすけ 隠し事が無い
(鳥)

ざっくり 【副詞】 1) 簡単に割れたり 切れたりする
さま 粘りのないさま 2) あっさりしたさま 淡
白 (員) [会話] 2) サックリしとる (している)
言うんかい (言うのですか)。さつぱりしとる 言う
事を、しゃきしゃきしとる 事を、なんでも しゃ
きしゃきと、はつきりとしとる 事をなあ サックリ
しとるなあ 言うてなあ。

ざっくり 【副詞】 傷などが割れて 口を開いて居る状
態 [会話] ザックリ割れとるやんか (ているでな
いか)。物が大きな口して割れとる (ている)。ぱん
と割れとんない (ている)。ぱんと 割れてた (て
いった) 言うて。こやな (これは) ふたあつわれ

(二つ割れ)で ばんと割れとられ(ている)言うて ふたあつん(二つに) ばんと 割れとんのをなあ(ているのを)。

さっそく【**早速**】**【名詞】**【**形容詞**】直ちに。はやく。
サウソク(早速)の急呼(大言海)(志(布施田))
[会話] 直ぐに言う事 サツソク言うてな。サツソク来たんかい(のですか)、あげん(あんなに)言うたや(言ったら) サツソク来たなあ 言うて、直ぐん(に) 来たんなあ(来たのだ) 言うのをなあ。
何処やかやい(彼へ) 行くのも サツソク行け、はよ(早く) 行け、言う事やなあ(です)。

…**ざった**(だった)(らった)【**助動詞**】活用語の未然形について打ち消しの過去を示す。喰わザッタ 聞かザッタ 行かザッタ。打消の助動詞 ざりに過去の助動詞たのついたもの(志(御座、布施田、片田、浜島、国府、鳥(答志)、度)[会話] 仕事も セザッタけど(しなかったが) まあなあ、なつとかつと(何とか) なつてたれ(なつて行った) 言うたり(言ったり)、なんも(何にも) せんと(せずに) ほつとたけど(放つておいたが) なつと かつとなつたなあとか、セザッタとか そいな(そんな) 事言うんやろ(言うのでしょう)。ごつお(御馳走) しとたけど(して居たが) 喰わザッタ。なんな(何か) 有ったけど 知らダッタとか。セダッタ言うのは 仕事もなんも(なんにも) セダッタなあ。あの人な(が) 死んでた(死んで行った) けど 香資セザッタ言うたり(言ったり)、知らだつて(なくて) 香資もセザッタとか 見舞セザッタ(しなかった) 言うて。

ざつ【**形容詞**】粗雑だ。

ざつぱい【**形容詞**】いかにも粗雑な様子である
[会話] ザツポイ言うのは 雑把な(だ) 言う事やな(です) した事が きちつとしてない 雑い事やな(です)。

…**ざつて** かった。しなかった。行かザツテ。(志)

ざつと【**名詞**】砂糖(志、鳥、鈴市、安、松、多、度、伊、北)

ざつと【**副詞**】早く 手早く ちゃつと [会話] 早よせな(しなければ) いかん。ちゃつと言う事。ちゃつと せな はよ(早く) サツト いて来い(行って来い) 言うてなあ、早よ 行て来い言う事を ちゃつと。何それが いんね(要るから) ちゃつと 買おて来い(買って来なさい) とか 何それ行つて ちゃつと 置いて来い、これをとか。早い事を 早

よおせい(しなさい) 言う事やなあ(です)。ちゃつと ちゃつと せえまあ(しなさい) 言うよつてなあ(言うから)。ちゃつと ちゃつと 言うのも、サツサツ 言うのも 一緒やわなあ(です)。

ざつと【**名詞**】座頭の急呼、目の見えない人

ざつと【**副詞**】大略 おおよそ 簡単に(阿、名、熊、) [会話] ザツトする言うのは ざつぱ(雑把丁寧にしなさい) にする言う事や(です)。そこら ザツト掃除しとけよお(しておきなさい) 言うて、ざらつと しとけ(しておけ) 言う事や(です)。こまごませんと(せずに) ザツト 掃除もして 綺麗にせな(しなければ) はざん(いけない) 言う事やなあ(です)。あんまり(あまり) 念入りに せんでも(しなくても) ええ(よい) 言う事や(です)。

ざつとした 粗末な 良くない(阿、張、名) [会話] ちよいちよい(簡単に) と あらあらつとした 言う事をなあ(です) ザツトシタ 言うて てえねん(丁寧)にせんと(せずに) ザツトシタ 事をなあ(です)。

ざつとのみそざいひとねぶり 1) 一度にしてしまう 事 2) 居眠り [会話] 1) ざつと言うと めえ(目)のめえやん人(見えない人)の事を言うの(のです)。ざつた(座頭は) 味噌な(が) てしよおん(小皿に) いつとでも(入つていても) めえ(目) な(が) めえやせんもんで(見えないので) ごそつと 取つて ひと舐ん(に) したんの(してしまいます) ザツトノミソザイ ヒトネブリ言うて。2) そしといて(そうして) ねぶつてくのを(眠むつて行くのを) ヒトネブリ言うて 居眠りしとるのおを(しているのを) 例えて あんねやわいなあ(有るのです)

ざつとまあし きりきり舞い

ざつぱ【**名詞**】小型の肩巾の大きい底の浅い舟、海女が乗り組んだり、近海の魚を獲つたりする。(志、鳥、度、尾、熊) [会話] サツパ、大きな舟をなあ、サツパブネで言うて。いそど舟(海女舟)でも 大きいのおえ サツパブネい(へ) 一杯 乗つてた(て行った) 言うてな。

ざつぱ【**形容詞**】粗略なさま ぞんざい(志(布施田、鵜方、浜島、国府、神明、立神、志島、甲賀、安乗)、鳥(坂手 答志) 桑郡、阿、張、名、度、南、熊) [会話] ざつ、ザツパな、なんでも(何でも) 丁寧にする人とな、こまかし(丁寧に、こまご

まと) する人 あのひた (人は) こまかしするけど (するが)、こや (此れは) ザッパやなあ (だ) 此の人言うて (言つて) あらあら (粗) する人を ザッパななあ (だ) ザッパで あの人 なんもかも (何もかも) ほりさんぼん (に) しとる (して居る) とか、片付けんと (ずに) 広げさがしに (散らかして) しとたり (して居たり) すると、ザッパで なんもかも 広げさがして 言うて 年寄り (老人) は ザッパな (だ) 言うの (のです)。物を粗末にする事 ザッパ 言う人も有るし、そこら (其のあたり) 広げさがしとんのも (て居るのも) ザッパな (だ) ザッパで 広げさせて (さがして) 言う。仕事でも ザッパな人は ここも こおせな (しなければ) はざんけど (いけないが) 草も ここも 有るけど (が) 埋め込んどけ (で oike) 言うて 取らんと (取らずに) すんのを (するのを) 畑の事しても、ザッパで 草も なんも 埋め込んで 言うて なあ (言つて) 仕事しても 丁寧にせんと (せず)に ざあざあと する人 を ザッパ言うなしなあ (言います)。ほりさんぼ言うのは なんやかや そこらへ 放りさがしたり 物を ザッパにする人 を 放りさんぼにして 言うなあ (言います)。なんもかも (すべて) 物を粗末にすると ザッパやなあ (だ)。

ざっぱこき 【名詞】 細事に手を抜く人。仕事が雑な人。

ざっぱな 粗雑な (志 (浜島)、鳥 (答志) 張、名) [会話] 雑いことを なあ ざっぱもん (者) や (です)、なんもかも (すべて) ちょこちょことして てえねん (丁寧) に しやへん (しない) 事を なあ ザッパなねよつて (のだから) あんな (彼が) する しごと (仕事は) 言うて な

ざっぱぶね 【名詞】 大きな舟 海女10~20名が乗り込む ざっぱ参照 (志 (御座)、鳥) [会話] おつきい舟 (大きい舟) わしらな (私達が) じゅうよつたり (十四人) も 十六人も生活する舟 ザッパブネや (と) 言うわい (言います)。

ざっぱもん (雑把物、者) 【名詞】 1) 粗末な物 がらくた (張) 2) 粗雑な人間 [会話] 2) 雑把なにげ (人間) を なあ ザッパモンや (だ) 言うの (のです)。きりもん (着物) でも なんでも のんで (脱いで) そこらい (へ) ぼとと ほととくやんない (捨てておくでしょう)。片付けもせんと (せずに) 雑把なねよつてん (のだから) 言うて な、1) がらくたみたよな (のような) もん (物) でも

ほつたる (捨ててしまう) よおなもんなあ (物) ザッパモンを なあ がらくたもんや (だ) 言うけどな (が)。

さっぱり 【副詞】 【形容詞】 1) 甚だしいさま。ひどく、すっかり、全く駄目なさま。少しも役に立たないさま (北) 2) 清潔感のある事 (度) [会話] 2) あんた (貴方) じょおく (いつも) 白いもん (物) 着とて (着て居て) コザッパりしとんなあ (して居ます) 言うて (言つて) サッパり しとるのなあ (して居るのを)。綺麗にしとる (している) 事なあ (です)。サッパりしとる。1) 今日 は まあ 漁な (が) サッパりやつた言うて (言つて) 漁の無い時ん (に) じょおし (漁師) な (が) 今日 は サッパりやつた 言うて。漁師の人らに (人に) 今日 は どおですか 言うたや (言つたら) ああ おおづけ だけ (のみ) 言うたや (言つたら)、そりや (それは) よかつた 言うて。おおづけ 言うたらなあ (言うのは) ほん ちよいと しるしだけ あつた 言う事やのになあ (ですのに)。ほん ちよいと けえ (気配) だけ 有つた 言うだけん (だけに) それを 大漁や (だ) おもて (思つて) そおりや (それは) よかつた 言うて、おおばやり (大流行) やつた (だつた) その時分に (時代に) この時 は 全くいかん サッパり言うと なんも (なんにも) 無かつた 言う事やわな (です)。

さっぱりげんすけ すっかり駄目、さっぱり不明 香川県三豊郡大東野の開拓に累代身命を捧げた平田屋源助から。[会話] 源助言う人な (が) 有つてだ (有つて)、さっぱり (全く) はざだつた (駄目だつた) か 何か知らんけど (知らないが)。

さっぱりこい 【名詞】 気性のさっぱりした人。

さっぱりしまいや 1) 大変だ。大変な結果になる。(志 (布施田)) 2) 全く駄目だ。

さっぱりわやや すっかり台なしだ。全く駄目だ。(上、阿)

さっぴく (差引) 【他カ五】 差し引く。サシヒクの音便 (大言海) (志 (布施田))

ざっぴもん 雑物 雑穀 [会話] 昔や (は) ザッぴもん ばつか (ばかり) 喰うので、腹な (が) 減りおつたんやるなあ (減つたのでしょうか)。

さつまつぎ 【名詞】 綱の結び方 つなぎ方 [会話] サツマツギ こんな (此れが) 切れたら 薩摩い (へ) 来い言う。じょおし (漁師) の人ら 綱と綱と あわし じょおほう (両方) へ 突つこんで

すんの(します)薩摩い(へ)来い 言う程 とけ
にくい(解けぬくい)結び方。

さと(砂糖)【名詞】 さとう(さたう) 砂糖(志(布施田、鶴方、神明、立神)、員、三、鈴市、一、上、阿、張、名、南) [会話] 砂糖甘い。砂糖の事をサト言うやんか(言います)。甘いのを サトやわいなあ(です)。サトヤ(砂糖屋)が遠い。それは、サトななあ(が)効いとらんと(効かなくて)サトの甘味な(が)薄っすい(薄い)のを サトヤな(が)遠い、榎本(砂糖問屋)が 遠いわれ(です)言うて。榎本言うのは 山田(現伊勢)のサトヤやんかい(です)。このだんが(団子は)榎本が遠いなあ言うて、榎本や 言いおったなあ(言いました)。サトな(が)うっすい事を、サトヤ通り越して来た 言うわい(言います)いいぐさやなあ(です)。そおしてだ(そおして)、少ないと サト船な(が)沖 走つとられ(通っている)言うて。サトな(が)うっすいと(薄いと)言うのなあ(のです)。此のだんが(団子は)サトな(が)効いとらへん(ていない)言わんと(言はずに)此のだんが サト船な(が)沖 通つとんなあ(通っている)。

さと(里) 1) 母の実家 里(鳥(答志)、度) 2) 故郷

さとあまい 砂糖が多くて甘味が強い。

さどい(聡)【形容詞】 さどい 聡い 敏い 理解が早く、判断が確かである。かしこい 機敏である。(志(浜島、布施田、志島)、鳥) [会話] サゾイ サドイ 一緒にの事やわい。(です) さぞい言うのを よお(よく)言わんと(言わずに) サドイ 言うてなあ(言って居ます)。

さどいも【名詞】 里芋(志、鳥、四、一、多、上、名、度、伊、北、尾、南、熊)

さどいも【名詞】 1) 母子相姦、実子と実母と性交すること。2) 母親と娘と同時に性的関係を持つこと [会話] 1) じっばな(立派な) 嫁さんな(が) きとんねよお(来ている) 言うて、すと(すると) じつきん(すぐに) 一月か二月居ると 戻ってくんでや(行くのです) そしてしたや(そうしたら) あしか(あすこは) サトイモ やに(です)。婆と兄貴と一緒になつとる(なっている) もんで(ので)、嫁さんな(が) じつきん 出てくんでや(出て行くのです)。そやもんで サトイモや(だ) 言うて。
2) おやこどんぶりや(だ)、サトイモや(とか) 言

うて 親もくい(とも、情交し) 子もくいするとサトイモや(だ) 言うて。

さどがい【名詞】 黒砂糖を熱湯で溶いたもの。黒砂糖を入れた粥 [会話] くろざと(黒砂糖)は熱取りや(だ) 言うてなあ。黒ざと(砂糖)の飯。そして 海でこごえた(凍えた) 人んなあ(に) クロザト(砂糖) ノオカイ(粥) 炊いてくわすと(食べさせると) 体な(が) ぬくとまって(温まって) 元気な(が) 出て来る言うて。坂手のじよおし(漁師)で、さつと(砂糖) な(が) さい(副食) や(だ) 言うて、たてまい(新築)やなんや言うて、さとめし(砂糖飯) やんな(です) くろざと(黒砂糖)の。こごえた(凍えた) 人になあ おみ(海)からあげて来るとなあ クロザトノ オカイ炊いて 食わしてすると、体な(が) ぬくとまって、ほんどん(本当に) ぬくとまんねてや(温たまるのです)。たま貝かずき(真珠貝の採集) 冬、いて(行つて) 雨な(が) 降つて来て、こごえて(凍えて) さぶうて(寒くて) がつがたぶるいして その時ん(に) 黒ざと(砂糖)で おかい(粥)炊いて食わしてくれたや(食べさせてくれたら) 体な(が) ほんどん(本当に) ぬくとまって おおた 美味かったなあ ぬくとまったなあ(温たまつた) 言うて、しん(芯)からこおつとんねもんでなあ(凍っている)ので しよおしよ(少し位) ひい(火) ん(に) 当たつてて(当たつても) とりなおやせんね(元に戻りません)。そして その、クロザトノ オカイ 食うたやなあ(食べたら) 体な(が) ぼかぼかして来てなあ。

さどがし(さたうぐわし) (砂糖菓子)【名詞】 砂糖を主原料として作った菓子

さどかた(里方)【名詞】 嫁、養子などの実家。又その親族。

さとけ(砂糖気)【名詞】 砂糖の甘味 [会話] サトケな(が) 無いね(のだ) 言うて、さと(砂糖) 使わんなあ(使わずに)。サトケな(が) 無いわ、こや(これは)。うまのおて(旨くなくて)、なんも(少しも) さと な(が) 入いつとらんで(ていなくて) サトケな(が) のおて(無くて) 旨無いわ言うてなあ。

さとざくら(里桜)【名詞】 八重桜 山桜以外の桜で観賞用として里に植えられている桜 [会話] 桜のきい(木)で 山桜以外の桜で 庭い(へ) 咲くも

んで(の)で 里で咲くもんで サトザクラ。屋敷
まありん(回りに)咲くの(の)を)屋敷桜を サト
ザクラ。見るためん(に)屋敷い(に) 植えんのな
あ(植えるのです)。桜 植えるとなあ 桜は 散
りやすい言うて嫌らうねんなあ(のです)。桜は散
りやすいとかなあ なんか縁起で言うてな。無花果
植えると はざん(いけない) てやら(とか) 椿は
首な(が) 落ちる、椿や(は) うれいばな(凶事の
花)で 慕いさすやんない(供えるでしょう) そや
もんで(それで) 嫌うのな(です)。

さとつば(砂糖壺)【名詞】 砂糖を入れておく壺 [会
話] サトツボ。壺な(が) 有って、さと(砂糖)
入れよおった(入れました)。今しゃ(今は) プラ
スチックでして有るけど、かめ(壺) な(が) 有り
おったやんかい(有りました) 赤がめやたら(だと
か) 言うて入れおった。さとを、かめ(壺) いなあ
(へ) 入れおったよつて(入れて居たから) それ
サトツボ言うんやろ(言うのでしょうか)。

さとなか(里中)【名詞】 部落の中で最も人家の密集
している所 集落の中心地 [会話] まちなかやた
ら(だとか) サトナカ。サトナカイ(へ) 行てみよ
まあえ(行って見なさい) にぎよとられ(賑わって
いる) 言うて、サトナカ言うて その町で一番賑や
かなところ(所を) 町中言うのを サトナカ言うて、
村の中ん(に) 有って 繁華なところを、言うんやろ
なあ(言うのでしょうか)。

さとのき【名詞】 かんしゃ 甘蔗 さとうきび イネ
科の多年草。高さ2~6m、茎は竹に似ており、円
柱形で節が多いが、節間は中空でない。葉は長さ6
0~90cmの幅広の線状、先は光り基部は鞘とな
って茎を包む、夏、茎頂に30~60cmの円錐形
灰白色の花穂をつける。茎から液汁をしぼって砂糖
を作る。(志、鈴郡、桑郡、三、伊) [会話] さと
(砂糖) 採る木をなあ。ここらんのおは(の、の
は) あっちゃ(あちら) んのお(の) と、ちごて
(違って) ふし(節) な(が) なあがい(長い) の
なあ(のです) サトノキ。さと(砂糖) 採らせん
(採らない) あやなあ(あれは) 嘸むの(のです)
皮を剥いていいて(ておいて) かす(渣) こおで(嘸
んで) 吐き出して、あもおて(甘くて) そしといいて
(そうして) あの穂は 喰われおったもんなあ(食
べられました) すつば 取つたるとなあ(取つてや
ると)。すつば言うのは かあ(皮) かぶつとて
種になるの(になります)。穂に実がなるの(ので

す)とおきびみたいに(のように) 実がなるけど
(なるが)。そんな(それが) ここらんのおは(の、
のは) 糖分がうつすいん(薄い) やろなあ(のでし
ょう) こおで(嘸んで) 吐き出してすんねけど(す
るが) 穂は喰われるよつてなあ(食べられます)。
さと(砂糖) 採れやへんのかいのお(採れないので
しょうか) ここらん(の) のおは(物)は あれも
びしゃきや(潰せば) 採れるやろけど(だろうが)
量が多いか すけないか やろなあ(でしょう) 糖
分が すけない(少ない) よつてなあ(から) そげ
ん(そんなに) びちゃびちゃ しる(汁、液体成分、
水分)も 無いやんか(有りません) よつけ(沢
山) 嘸んどらんと(で居なくて)は あまみ(甘味)
が出て来やへんもんなあ(来ない)、糖分な(が)
足らんもんで(ので) よけ(多く)は 採れやへん
やろけど(ないだろうが) しよおしよ(少し)は採
れるわな(ます)、芋でさえ(も) 飴が採れるよつ
てやんない(採れるからでしょう)。サトノキは
ここらで 作りおったのは(作ったのは) みい
(実)も 喰われんねてや(食べられるのです)。
みい(実)は しよおことなし(仕方なし)で 子
供ら たらず(なだめる) のおに おやつに、昔や
(は) 菓子を食べさせもんで(ないので) 畑で
作ったもんを(物を) 食べさせん(させる) のおに
(のに) 子供らの、たべりよお(食べ料)に 作り
おったの(作つて居ました)。そやもんで(それ
で) ほお(穂)は 目的なしに。子供らな(の) た
べりよおに サトノキも 子供らな(が) あるうち
(家)は 植えとかな(ておかなければ) はざんわ
れ(いけない) 言いおったもんなあ(言つて居まし
た)。切つて来て 道々 こらら(子供達)に 呉
れもて(ながら) 来いおったね(来ました) とびき
(ときび、唐黍)のほお(穂) 切つて来たのへつ
て(包んで) 来ると、うち(家)の人な(が) 畑か
ら来ると やつからかしおつて(ひっくり返して)
サトノキな(が) 混ぜつとらせんか(て居ないか)
にい(荷) 置くと さいご(その時) サトノキな
無いか 早よして(いち早く) でんぐり返して(ひ
っくり返して) 見よおつたわい(見ました)。昔や
(は) 甘いもん(物) そげん(そんなに) こおで
(買って) 喰わせんし(食べません) 畑で作ったの
おを 楽しんで。なんぼり(唐蜀黍)の茎でも
(も) 喰いおつたなあ(食べました)。唐蜀黍の茎
でも 喰うて あんもおて(甘くて) もと(根元)

の方は、末（先端の方）は、すいすいやけどなあ（ですが）もとの方を喰うと あんまいもんで（ので）それ切って置いてくと（ておくと）喰いおったわ。噛んで吐き出して。サトノキみたいに（のように）甘味は無いけどなあ（けれども）なんばりは、そやけど（しかし）喰われん（食べれない）事も無いんてや（無いのです）そやよって（だから）なんばりでも喰いおったんてや（食べて居ました）。

さとみず（さたうみづ）【砂糖水】**【名詞】**冷水に砂糖を溶かしたもの [会話] さと（砂糖）入れてまあサトミズなど（でも）こさえて（作って）飲ませまあ（なさい）声な（が）嘎れて 来たない（来た）。サトミズ 飲ませ言うてなあ。歌、うたうもんににや（者達には）サトミズをなあ。音頭取りにだしよおったやんかい。（出して居ました）

さとめし【名詞】御飯に砂糖をふりかけて食べる事

さとや（さたうや）【砂糖屋】**【名詞】**砂糖を売る店又それを業とする人 [会話] サトヤ さと（砂糖）売る家。サトヤい（へ）いて（行って）さとこおて（買って）来い 言よおったやんかい（言っていました）。五十め（匆）や（だ）とか、一斤言うて 百六十めで 半斤売ってくれえ（下さい）言うてなあ。この団子あ（は）よお効いとんな（ている）言うて、さと な（が）一斤もいっとなねもんなあ言うて（入っているのだから）。

さとやとおりにした。さとやなとおい。さとやのおきとおる。さとやのおきはしる。さとやのかどはしる。さとぶねなおきとおるとる。さとぶねなおきはしとる。さとやのまえはしとる 甘味の薄い事を言う。さと参照

さとゆ（砂糖湯）白湯の中に砂糖を溶かしたもの [会話] ゆう（湯）で 溶かして サトを。さとみず 言うな（のは）水い（へ）溶かして。

さなか（最中）【名詞】最中、最もたけなわである時最高潮である時。マナカ（真中）に通ず。（大言海）（志（布施田））[会話] 仕事サナカに言うて（言って）、こげんしとるのに（こんなにして居るのに）サナカん（に）なんやかや（何、彼と）持て来て（持って来て）とか言うて、仕事しとる（して居る）最中に言うて 仕事しとる（して居る）時ん（に）来ると そげん（そんなに）言うて、仕事サナカに なんやかや 言うて来たり、持て 来たりして。

さながら【副詞】既知の事物。事態をなぞらへる時の

同一感を表す。まるで、あたかも、非常によく似て居る状態を表す。サ（然）ながらの義。シカ（然）あるままの意（大言海）[会話] よお（よく）似とる（似ている）、あれと（彼と）サナガラやなあ（だ）、あの家の きよおだや（兄弟は）よお似とて 兄弟中サナガラやなあ言うて。よお似とな（よく似ている）サナガラやなあ（だ）あの人ん（に）言うて。

さね（しゃね）【核】**【名詞】** 1) 実核物の中核の意 2) 板と板とをはぎ合せる時、一方の板に付ける細長い突出部他方の板に細長い溝を作ってこれに噛み合せる（雨戸の構造も同じ）。3) 陰核 女性性器 いれしやね 性交 二つの物の間に他の物を挿入すること。（張）[会話] 2) サネ 雨戸を閉めると たてぐち（立口）な あいても（開いても）、戸のほそめ（隙間）から 風な（が）入ったり、雨な（が）入ったり。すと（そうすると）サネイリ言うて まんなか（真中）に、しきの これみたいに有って、サネイリの戸や（だ）言うて 上まで サネにして有って 閉めると こちらは 溝になつとて（なつて居て）ぴしゃつとおおて（合つて）。雨戸によお（よく）して有る（あります）。今し（今）でもするけど 昔 家もざつば（粗雑）な家はしてないし 丁寧な家はシャネ入りの 戸をいおった（しました）。3) あのもん（女性性器）あれ サネ 言うやんかい（言います）。猫のおめこ（女陰）にシャネが無い言うの（のです）。2) 戸でも サネ入りにして丁寧に 此の大工はして 言うやんない（言うでしょう）雨戸を 雨や風な（が）通さんよおん（通さないように）。船のろべそ（槽べそ、へそ）言うんかい（言うのですか）。あや（あれは）ろおぐい 言うの（のです）。ろおぐいと、いれこ言うて、いれこ言うのは ろお（槽）についてとんな（て居るのは）。おきざ、それへ どおぐい入れて、槽 漕ぐんやんか（漕ぎます）。なんでも とがとる（て居る）言うか、まんなかに有るもんを（物を）サネ言うんやらなあ（言うのでしょうか）。真ん中に有って 飛び出しとる（て居る）もん（物）。

さねつぎ（核継）【名詞】板などを継ぎ合す時一方を凸、一方を凹にして双方を継ぐ方法。凸をさねと言う。

さば（鱈）【名詞】ほんさば まさば ひらさば 体はごまさば依り側扁する。腹側に黒色の小斑点は無

く、稀に淡い暗色小斑点が現れる事も有る。全長約50cm ごまさば参照

さば(鯖)【名詞】 情夫 情婦(志) [会話] サバンコ 鯖の一本づりや(釣は) 乞食よりむごい(あわれだ) こじきや(乞食は) 夜寝て晝こじく言うやんない(言うでしょう)。乞食、夜寝るけど(が) 鯖の一本釣は よさり(夜) づうつと 朝迄、火焚いて。そして 鯖釣な(が) いとるかして(行って居るのか) あや まあ ひい(火) な(が) 見えとられ(見えて居る) 言いよった(言いました)。よさり行て 釣るもんで(ので) 彼氏でもよさり釣るよってなあ(から) サバ それの いわく(理屈) やろ(でしょう)。サバンコ言うて、彼氏や(だ) 言わんと(言わずに)。今し(今) 彼氏言うけど(言うが)、サバンコ けんし(情夫) や(だ) 言いおった(言いました)。よさり(夜) 釣るもんで(ので) サバンコ言うやんや(でしょお)、鯖釣もよさり 釣んねよって(釣るから)。

さばく(裁)(捌)【他カ五】 1) 仲介する、判断する。2) もつれた物、固まった物、包んだ物をほぐしたり、解いたりする。網をサバク 伊勢にて漁者の詞にサバクと言うは、漁猟終わて網をさらす前に修理をつけるを言う。(倭訓栞)(志(浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、国府)、度、北、南)) 3) 魚を調理する。調理する。[会話] 2) 網 サバク まつのつとる(もつれて居る) のを サバク 言うし(言います)。3) 魚でも サバク言うし 1) 喧嘩しとんのおでも(して居るのでも)、仲裁にはいんの(入るのを) サバク言うし。3) 魚のみい(身) と骨と分けんの(分けるのを) 魚もサバイテ骨 とつとけ(とっておきなさい) 言うて。鯖のこお(飯以外の物) こしやえんの(作るのに) みい(身) サバク言うし、魚 サバク時 三枚におろすのもサバク、刺身にすんのんなあ(するの)に 三枚におろす、サバク。煮たお(のを) 骨抜いて 鯖のこお(具) や、ごもく(五目飯) 入れんの(を) (るのを) 骨抜くのサバク言うね(言います)。みい(身) むしる、むしる言うわけやなしに(のでなくて)、骨とみい(身) と分けのんなあ(の)です 骨を取って 掴んでも てえ(手) へかからんよおに(触れないように)。てえ(手) へ かかると のど(喉) へかかると やんない(触れるでしょう)。そやよって(だから) てえ(手) で潰して 喉えささらんよお(ささらないように) それで 鯖のこおに、

すんのんなあ(します)。鯖のこおや、ごもくのこおに。

さばけた 1) 物事がよく判って 融通の効く、粋のきく。世慣れて 物わかりがよく 相手に気安い感じを与える。(鳥) 2) もつれて居たものが 解ける。[会話] 2) サバケタ言うて、魚の身もサバケタ言うし(言います)。1) 気な(が) サバケタ。にげ(人間、人) の きい(気) な(が) さっぱりしとんの(して居るのを)、あや(彼) サバケトル(て居る) 人やなあ(だ) 言うて、心な(が) ええ(良い)、気な(が) サバケトル人へ 気のサバケタ ええ 人やなあ(だ) 融通な(が) きいて もの判りのええ人な(です) そいな(そんな) 人をサバケトル(て居る)。

さばけてた 解けて行つた。ばらばらになった。

さばけとる 1) 理解がある、寛大である。さばけた参照(志(布施田、甲賀)) 2) 結んだ物が解けている。

さばける(捌)【自カ下一】 1) もつれていた物が解ける 2) 話せる。世なれていて物事に理解があり 気性がさっぱりしていて気どらない。(鳥) 3) 頭髮などが乱れる(北) 4) 融通がさく。[会話] 3) 髪がさばけてくんの(来るのを)、ほどけたり(とけたり)、すんのを(するのを) サバケル。

さばさば【副詞】 さっぱりした様。すがすがしいさま。

さばち(皿鉢)【名詞】 1) 肴鉢 料理を盛って出す器 さわち 浅鉢の転(志) 2) 女陰 [会話] 1) サワチ サワチえ入れえ(入れなさい) 言うて(言つて) 井とけなあ(と違つて) サワチや(だ) 言いおったなあ(言いました)。井はこいな(こんな) 形しとるし(して居る) サワチは まあう(丸く) なつたのお(のを) 言いおったやんかい(言いました)。サワチや(だ) 言うて、サワチへ入れとけ言うて、2) そして(そうして) 昔の人は おなご(女) の 道具(性器) を サワチや(と) 言いおった(言いました)。あんな(彼女の) サワチ な(が) 言うて、サワチ 干して(出して) そやあれ(それ) 言うて。

さばつる 男性と仲よくなる。夜共に寝る。[会話] よさり(夜) 鯖釣りもよお(よく) 行きおったけど(行きました)。男すんのも(するの) サバツル 言うやんかなあ(言います)。彼氏な(が) 出来ると 俺家のさばんこな(が) 言うて、よさりだ 鯖釣りん(に) 行くもんで(ので) 男 すんのも(す

るのもそれん (に) 例えて さばんこ釣って来た
言うて。

さばのいきぐさり 鯖の鮮度の悪くなるのが早い事。
(志 (布施田))

さばふぐ (鯖) (河豚) 【名詞】 しょうさいふぐ 潮際
河豚 フグ目フグ科 体は円滑で小棘は無い。体の
背方は不規則な網目状の褐色模様で腹方は白色 胸
鰭と背鰭は黄色。精巢は無毒。肉は弱毒、皮と腸は
強毒、肝と卵巣は猛毒。(志)。さんさいふぐ フグ
目フグ科。体は小棘に覆われる。体の背面は黄褐色
か。緑褐色で多数の小白色点が散在する。体側腹方
を一黄褐色帯が従走する。肉、精巢、腎は弱毒、皮
と腸は強毒。肝卵巣は猛毒。[会話] サバフグ ほ
しほし (星々、斑点) な (が) 有って、サバフグは
喰うても (食べても) がいに (たいして) 毒は無い
のな (ありません)。ちっさい (小さい) の、つ
ぶつぶ (斑点) の有るあれなあ (です)。朝鮮で
〇〇〇小父 な (が) 開いて三枚にして 干して有る
と、とも (船尾、鱈) へ、しょんべ しに行くたび
に それぬす (盗んで) 来て、焼いて喰うと こ
じきたろ (乞食太郎) な (が) ふぐでも喰うねない
(食べるのだ) 言うてわるわれおった (怒られた)。
わしらな しょんべ (小便) しに 行く とこん (所
に) 干してあんねやんかな (あるのです)。しょん
べ しに行た (行った) 帰りに ひとおつ ふたっ
うつ (一ヶ、二ヶ) ぬす (で) 来て 焼いて 喰うと、
どえらい (大変) うまいんてや (美味しいのです)。
そやもんで (それなので) よお (よく) ぬす (で) 来
た。うまいもん (物) 喰わな (食べなければ) 損ん
や (だ) 言うて、うまいねてや そんな (それが)
又 どいらい (大変)。ひいて干し (一日干した状
態) 焼くと うもおて (うまくて)。河豚喰うて
死んだ言うけど (が) おら (私は) なんも (なんに
も) 死んでかせんない (死んで行かない) 言うて。
サバフグはなんも (なんにも) 毒が無いんてわな
(無いそうです)。こじきたろ 言う なな あ (言う
のは) いやしい事 な (です) なんでも (何でも) 喰
うて いやしんぼよ、言うのを こじきたろ のはて
なしよ。こじきたろのはてなしや (は) ふぐでも
喰うねてない (そうだ) 言うて。

さばよむ 数を数えるのを誤魔かす。よむは数える事。

さばんこ 【名詞】 情夫 (志)

さびき 【名詞】 釣りの方法 [会話] シャビイテコイ
言うて、魚を釣んの を (るのを) シャビク言うね

(言います)。シャビイテ見よ (見なさい) そや
(それ) こつて来た と (来た) 言うてな。こして
餌やっ しとると (していると) こつこつ として
来ると そや シャビイタレ (てやれ) 言うて き
ゆきゆつとすんの を (するのを) サビキ 言う んな あ
(言います)。

さびきむし 【名詞】 寒がりの人

さびく 動かす 釣糸などを少し手繰ったり戻したり
する。(志 (志島)、度)

さびくい 【名詞】 錆の付いた物。

さびし (寂) 【形容詞】 1) 心細い 静かで心細い
さみしい 2) 恐い おそろしい (南) [会話]
1) さびしい言うのを、一人で サベシ な あ 言う て。
さみしい言う事を サベシ ョ (さみしいです) 言う
ね (言います) さびしい、さべしい言うて 後ろに
“い” 付けん と (付けずに) サベシ サベシ 言う て
誰それな (が) 無いよおん な て (亡くなって)
サベシ やん ない (でしょう) 言うてな。2) 心細い
とか 怖いとか 言うのをな サベシ さべし よ
言うてな。

さびしがり。さべしがり 【名詞】 臆病 臆病者 (張)
[会話] さびし ョ (寂しい) おとし ョ (怖い) 言う
のを サベシ ガリ や 言う ね。(言います)。

さべし 淋しい さびし参照 (鳥 (答志))

さべし 寂しい さびし参照

さぶあたた 体身の中は冷たくて寒いのに 表面だ
けが熱い事 [会話] ちよろ ちよろ (少しづつ) ぬ
く とお から (温かくから) だんだん と (次第に) す
ると ええん けど (よいのだが) 初めから たっか
らか して (強く焚いて) あた とお (熱く) する と
サブ ア タイ。

さぶい (寒) 【形容詞】 寒い さむいの転 気温が低
くひややかである (志 (片田、布施田、浜島、鶴
方) 鳥、桑郡、桑市、員、三、鈴市、久、一、松、
多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊) [会
話] 寒い 寒い のお (のを) サブ イ。サブイよ
お (です) 言うて (言っ)、サブ ウ テ (寒くて)
ふる た わ い (ふるいました) 言うて。

さぶいなあ。さぶいのお 寒い時の挨拶 [会話] お
おた今日は どいらい (大変) サブイノオ言うて、
てんぼん (大変) さぶいひい (日) や (だ) のお、
サブイノオとか サブイナアとかなあ サブイノオ
は寒い日にする挨拶、サブイノオ言うて、サブイナ
ア言うてな。

さぶいぼ (寒疣) 【名詞】 寒さのため、鳥肌になること。又その粒、さむいぼ (上、阿)

さぶいめえはる 寒い目にあう。寒さに耐える。[会話] サブイメエハッテ、取りん (に) いた ふのり くれんのかい (くれるのですか)。布海苔 取りん (に) 行くとなあ さぶうて (寒くて) さぶうて となあ、冷めたいめえ (目) はった もん (物) を 呉れんのかい 言うてな。

さぶうて 寒くて [会話] サブウテ サブウテ ことえ死んできおったよお (で行く所だった) 言うて寒い言う事な (です)。

さぶうい 寒い。さぶいより更に寒い。

さぶうなる 寒くなる (伊)

さぶがり 【名詞】 寒がり (志 (立神、国府)、鳥 (長岡)、阿、張) [会話] さむがりやを サブガリ言うね (言います)。まあ 幾ら着ても、着ても、寒い、寒い言うてる (ている) 人な (です) さぶやむしや な (だ) 言うてな。

さぶがりや 【名詞】 寒がりの人 (鳥 (相差、神島)) [会話] さぶやむし 言うて さぶがる (寒むがる) 人を サブガリヤ言うて。

さぶけ (寒気) 【名詞】 悪感 さぶけだつ 悪感がする。[会話] さむけ な (が) すんのを (するのを) サブケ言うの (言います)。さぶうて (寒くて) 熱な (が) して、あつう (熱く) なって来て そんな (それが) やまってくと (治ると) さぶなって来て ふるてふるて (ふるえて)。ちすじ な (が) 止まると (乳腺炎で乳の分泌が止まると) どいらい (大変) ぐあい (調子) が わりね (悪いのです)。サブケ な (が) おこって (生じて)。サブケで おこらかして (生じて) 布団何枚着ても ほやげたる (放り上げてやる) 程、マナリヤ (マナリヤ) みたいに (のように) なるなあ (なります)。おこり (マナリヤ) な (が) おこって来た時 みた いになあ (のように) その気持ち わり (悪い) の (のは)。朝顔の汁 飲むと ちすじな 止まった のん (のに) ええ (よい) 言うて、それのおだり (飲んだり) 花びらを ちくび (乳頭) につけたり しいおった (して居ました)。そやけど (しかし) ちすじを通さな (通さなければ) 治らせんもんで (ないので) 藁のひご で 通してもるて (貫って) 痛かった、ほんどん (本当に)。今 しや (今は) マイシン で じき (すぐ) に 治まってく (おさまって行く) 昔 や (は) そんな (それが) 無いし 採り草

や、といぐすり で 治しおったもんで (治したので) ええ苦しみしいおったの (随分苦しみました)。そやよって (だから) そや (それ) 乳 しいて (押えて) 寝んな (寝るな) 言うて、知らんと (知らずに) 乳 張つとるの (のを) しいたると (押さえてやると) 止まって そのぐあいのわりのおな (悪いのが)。しよおしよ (随分) の ぐあいの (調子) わりの (悪いのは)、あいな (あんな) ぐあいのわりの知らん (知りません)。

さぶごろえ 【名詞】 海女が作業中に体が冷えるのを耐えること 又その能力 [会話] サブゴラエ言う な (のは)、さぶなって (寒くなって) 来た。さぶいなあ (寒むい) 言うて、まあ なあ じっきん (すぐに) あがったんね (舟に乗ります)。サブゴラエ よおせんで (出来なくて)。そやけど (しかし) その また がちがちふるともなあ (ふるえていても) めったん (決して) あがらん (舟に乗らない) にげ (人間) な (が) あんねてや (有るのです)、サブゴラエ あいな (あんなのは) えらいね。

さぶざぶ 【名詞】 児語 洗濯 (志)

さぶざぶ 【名詞】 沢山浪費する。

さぶぞら (寒空) 【名詞】 寒い日の家の外。さむぞら。(志 (布施田))

さぶつば 【名詞】 寒さにより鳥肌だつ事 (志 (立神、国府)、鳥、松、伊)

さぶて 寒くて

さぶなる 寒くなる (伊) [会話] さぶくなる言うの なあ サブナル。ま、どいらい (大変) サブナッテ来たなあ言うて、雲な (が) ぼんぼんして来たよって (から)、今日はまあ、さぶなん (なるぞ) 言うて、雪な (が) 降ってくんねよって (来るのだから) こや (これは) よさや (夜は) まあ サブナル。

さぶやむし 【名詞】 寒がりの人 (志 (御座、片田、布施田、浜島)、鳥 (国崎)、北) [会話] サブヤムシ 言うて (言つて)、さぶがる (寒がる) 人を さぶがりや を言うの なあ (言います)。あや (彼は) サブヤムシ やなあ (だ) 言うて、ちよいと (少し) さぶいと おお さぶ 言うて、ふるうと (ふるえる) と) サブヤムシ や (だ) 言うて。

さぶらい (さぶらひ) 【名詞】 侍 武士 (南)

さへじ 【名詞】 1) 魚名 小判鮫 コバンザメ科の海魚。サメの名がつくが普通のサメ類とは異なり硬骨魚類に属す。体は細長く、頭頂に第一背鰭が変形した小判形の吸盤があり、大きな魚、舟などに吸着す

る。体色は青褐色で体側に暗色の従帯が走る。さえぎ参照 2) 人の後を追う人 1) からの転 [会話] 1) サヘジ 魚の名前やんかい (です)。人の後 ついて来るもん (者) やよって (だから) サヘジや (だ) 言うて、さいら (さんま) みたいん (のように) しとんねけど (しているが) 口な (が) さいら (さんま) より ちょんぎつとんねてや (尖っています) かますによお (よく) 似とんの (似ています)。鮫の子 サヘジな (が) 引っ付いて、追わえとて (ていて) はざんねよお (駄目だ) 言うて 磯 (海女) い (に) 行くと、鮫のこお (子) な (が) ちっちゃあい (小さい) のおな (のが) へらへらして くんねてや (来るのです) それ サヘジ、2) にげ (人間) でも じよっく (いつも) 引っ付きやあるいとと (引っ付いていると) あや (あれは) サヘジと一緒に 引っ付いとられ (ている) 言うて。

さべし【形容詞】 さみしい (志 (浜島、御座、布施田、畔名、志島、国府、片田、立神、甲賀、安乘)、鳥、(答志)) [会話] 淋しい事を サベシ まあサベシテ サベシテ (淋しくて) 言うて。

さべしがりや【名詞】 いつも心細い様にしている人。
小心な人

さべして 寂しくて [会話] とおさん (夫) が 死んでて (で行って) サベシテ

さべしよ 寂しい 淋しい 淋しいです。[会話] 淋しい言う事を サベシヨ言うね (のです)

さぼし【名詞】 1) 一夜干し (度) 2) 少しだけ干す [会話] 2) サボシ ちよいと (少し) 干すのをな 芋も、まあそや ちよいと (少し) 汗かいたよって (から) サボシといて (ておいて) ととつけ (しまっておけ) 言うてな、ちよいと (少し) ひい (日) 見せんのをなあ (るのです)。あんまり (あまり) 目がな ひい中 (一日中) 干さんと (干さずに) サボシて干しとかんと (ておかないと) はざんわれ (駄目だ) 言うてな ちよいと ひい (日) 見せんのをなあ (見せるのを) サボス。

さぼす(曝)【他サ五】 風にさらす。風にさらして干かす。さぼし参照 (志、度)

さほど(左程)【副詞】 それ程 [会話] 昔しや (昔しは) なん (何を) 喰うても (食べても) 美味かったもんで (ので)、昔 あこがれて 今し (今) 喰て (食べて) みると サホドの事ないの (のです)。

ざま(様)【名詞】 様子 姿 格好がよくない時に使

用 ざま 様 態 さまの転 様子や格好などをのしったり 嘲けったりして言う語 たつばい (熊) [会話] あやあれ (あれ) あのザマ見よまあ (見なさい)、その格好を見よ言うの (のです)。ふう (なりふり、形振り) を、あのふうを見よまあ。ふう見よまあとか あの格好見よまあとか あのザマ見よまあとか 言うてなあ (言います)。格好の事やわい (です) そんで (それで) 此の時は 悪い (悪い) 方に使うのなあ (います)。あのザマ見よまあ 言うて 格好な (が) わりのなあ (です)。

さまかす【動詞】 熱い物を冷たくする

さまし【名詞】 木製の浅い長方形の容器 [会話] サマシ 四角なきい (木) でこしやえたのお (作った物) を かけごの事をなあ。餅したり あられしたり 団子しても それい (へ) 皆 入れとけ (ておけ) 言うて かけごとか、サマシとか、かけごと サマシ一緒やわい (です)。昔やなあ (は) ごっつお (御馳走) すると サマシな よけ (沢山) いりおったなあ (必要でした)。鯨 入れたり、鯨のこお (種) も、煮付け (魚 野菜の煮た物) も入れたり、いろいろと、それは ほか (他の事) には使わんと (使わずに) 綺麗なもん (物) ぼっか (だけ、ばかり) 喰べるもん (物) 入れんのん (入れるのに)。紙のふくら (袋) に入れたり 包んだり あまめ (ごきぶり) も、なんも (何も) 入いらんよおに (入らないように) じっば (立派) に丁寧にして、つね (平常、普段) は囲うわい (仕舞ておきます) サマシな (が) よっけ (沢山) ありおったやんな (有ったでしょう) 餅 搗いても 皆 サマシに入れて。あられはやす (作る) のも、餅 二升くぼ (米の量) 搗くと それ かけごに一杯 鏡餅にしといて (しておいて) それ みんな (皆) あられん (に) 切んねやんかい (切るのです)。そやよって (だから) 昔 かけごな (が) よけ 欲しかりおつて (欲しくて) ひとくら (一回) に よけ 買わんと (買わずに) 一年に 二、三枚つ (づつ) 買おて (買って) たためて。そおしや (そうしたら) 今しやよっけ (沢山) たまって ほるにも もったいのおて (なくて) よお ほらんし 邪魔んなって しよおないの (仕方がないので)。

さます(冷)【他サ五】 1) 熱中して居る事をけなしで興ざめさせる。2) 熱い物を冷たくする。[会話] 2) なんやかや (色々) 熱いもん (物) を、御飯サマスとか、団扇であおぐのは サマシトケ

(さましておけ)。鮎の御飯サマセマア (さましなさい) 言うて、団扇で あおぐのおをなあ (のを)。
1) そおすると 話しとる (して居る) 時に なんやかや 話 ざあ (座 場所の雰囲気) な (が) サメタなあ (ていった) 興ざめしたなあ 言うて。よそから なんやかや 言うので 興ざめしたなあ 言うて、まあ えごつと (充分に 完全に) 話な けてたれ (消えてしまった)、ざあな サメタナイ (さめてしまった) 言うて。

さまたげ (妨) 【名詞】 邪魔 支障 妨害 動詞さまたげるの連用形の名詞化 [会話] サマタゲ すんなまあ (するな) 言うて、邪魔する。サマタゲン (に) なる事 してなあ 言うてな 邪魔すると。

ざまない 1) 様子、行為の悪い事を言う。(員)
2) 失敗した

ざまなわり 格好が悪い。様子が悪い。(志 (布施田))

ざまのかあ 悪い事をした当然のむくいである ざまみよと同じ いい気味だ。[会話] ざまやれ (だ) 言う。ばちやれ (だ) 言うのをなあ ざまやれ 言うて、言うのな (です)。ま わり (悪るい) 事 ばつか (ばかり) しとる (している) 人な (が) ちょいと (少し) 下手な事 して、頭 打ったとか こけた (転んだ) とかするやんない (でしょう)、ざまみよ まあ 言うて言うの。ザマノカア言うな (のは) まあ ものすごお (物凄く) わざ (悪るい事) ばつか (ばかり) しとたのおな (していたのが) わり目ん (に) 逢うもんで (ので) ザマノカアやなあ (だ) 言うて 言うの (のです)。ザマノカアやれ (だ) 言うて、ザマノカアやれ言うのはなあ ばち (罰) な (が) 当たったよおな事を言うのなあ (言います) ザマノカアやれ 言うて。ばちのかあとか ザマノカア とか言うて、わり言葉やわい (です)。あやまあ (あれは) ばちやれ (だ) ザマノカアやれ 言うて、ものすごお (大変) その人のする事を こちらのもん (者) が 腹立てると あや (あれは) ザマノカアやれ 言うの (のです)。

ざまみよ ざま を見る 人の失敗不運 に対し、心中愉快だと思ながら発するののしり言葉、それ見た事か。

ざまやれ いい気味だ。[会話] ばちな (が) 当たった言う様な。人ん (に) わり (悪るい) 事ばつか (ばかり) 言うたり したり してて (していて) ばちな (が) 当たったんやれ (たのだ) 言うのをなあ。ざ

ま見よまあ ザマヤレ 言うてな

さみし (寂) 【形容詞】 さびしに同じ 心細い さびしの転 (大言海) [会話] さべし、さびし、サミシ 言うのを サミシ 言うて まあ あの人な (が) おらんよん なって (居なくなってしまう) サミシ ナア 言うて。

さみず (さみづ) (真水) (素水) 【名詞】 まじりけの無い水 真水 [会話] サミズ言うんかい (言うのですか)、なんも (なににも) 無い、入れんと (入れずに) すんのを (するのを) 井戸からそのままん (の) のおを (のを) サミズ、真水 言うけどなあ (言います)。真水 あげとけ (供えておけ) 言うて、神さんえあげる (供える) 時ん (に) 井戸から汲んで来て すぐん (の) のおを、おみきの代りん (に) すると 真水をあげて (供えて) 言うてな。

さむいのお 寒いですね。挨拶の言葉 (尾) [会話] さぶいのおも一緒や。(です)

さむがり。さむがりや 【名詞】 寒がりの人 さぶがりや参照 (志 (船越)、鳥、阿、張) [会話] さぶい さぶい 言うてばつか (ばかり) おる (居る) ひた (人は) サムガリヤ や (だ) 言うてな。普通のま ん (者は) がいん (あまり) さぶのおてもなあ (寒くなくても) さぶい (寒い) さぶい 言う人な (が) あんねてや (有るのです) おおた サムガリヤ や なあ (だ) 言うて。

さむがる (寒) 【自ラ五】 寒くてたまらない気持を様子に表す。

さむけ (寒気) 【名詞】 寒さを感じる事。さぶけに同じ [会話] サムケな (が) してまあ 言うてな あ つけサムケ でおこつて言うて、ふるうのなあ (です)。サムケな する言うてな。つね (日常) の、寒いのとちごて (違って) こお ぞおぞお とな 風邪引く時ん (に) するやんない (でしょう)。それ、サムケな (が) して来た言うの (のです)。普通の寒いのおわ (のは) ああ寒いよ 言うだけやけどな (だが) 病気の時ん、ぞおぞお して来るやんかな ぞおぞお と それをな サムケ 言うの (のです)。

さむけだつ (寒気立) 【自タ五】 悪感を覚える。(鳥)

さむて 寒くて (南)

さむなる 寒くなる (志、阿) [会話] 今日ではまあ どいらい (大変) サムナンド (寒くなるぞ) 雲な (が) あやれ (あれ) まっ黒な雲 や (だ) よさや (夜は) サムナル、さぶいでえ (です) 炬燵 も入れて 寝よえ (寝なさい)。

さむやむし【名詞】 寒がりの人 (志 (片田、磯部))
[会話] さぶやむしも一緒や (です) 寒い 言わんと (言わずに) サムイ 言うねよってんなあ (言うのだから)。

さめつき【名詞】 じんべい鮫に着いて居る鯉の群
きずき参照 (北)

さめなます【名詞】 郷土料理 鮫の身を薄くそいで湯を通したものを。味噌をつけて食用にする。(志 (布施田)) [会話] 鮫のなあ ゆう (湯) ひいたのおを (のを) サメナマス言うてな、こしらえて (作って) じっばん (立派に) して有ると サメナマスや (だ) 言うて、酢味噌でくうねやんかい (食べるのです)。

さめのたれ【名詞】 鮫の肉を小片にして 塩 醤油 味噌などにつけて干したものを。(伊) [会話] サメノタレ 干したのおを (のを) たれや (だ) 言うのなあ (です)。焼いてくうと (食べると) 旨いの (のです) サメノタレ。あや、生で食われやせん のを (食べられないのを) すんのなあ (するのです)。

さめはだ【鮫肌】【名詞】 鮫の皮のように ざらざらした人の膚 (志 (布施田)) [会話] サメハダ言うな (のは) 肌な (が) わりのおを (悪るいのを) 言うんやんかいな (のです)。鳥肌だとんのを (ているのを)、あや (彼は) サメハダで まあ 言うてな。ざらざらとなあ 鳥肌言うて 鳥の髭 むしったると (てやると) ぶつぶつ しとるやんない (しているでしょう)。あげん (あんなに) しとんのなあ (しているのを) サメハダや (だ) 言うて。

さめる【褪】【自マ下一】 1) 退色する。(張、南)
2) 情熱が失われる 3) 冷たくなる [会話] 汁 (味噌汁) な (が) サメテタネ (ていった)、つめとおて (冷めたくて) うまないわれ (うまくない) 言うてな。そすと、²⁾ 惚れとんの (ているのが) まあ だいぶ (大分) サメタナア 熱な (が) 言うて、まいきとる時や (は) のぼしとたのん (せていたのに) だいぶ 熱な (が) サメル 言うてな、ふたんな (二人が) あんまり (あまり) よけ (沢山) よらん事を ちよいと (少し) 熱な (が) サメテ来たなあ言うてな つめとお (冷たく) なる。

さも【副詞】 いかにも 程度の甚だしい事を示す。サ (然) に感動詞をも添えたる語 (大言海) (志 (布施田)) [会話] ちよいと (少しの) 事でも サモ おつきそおに (大きそうに) 言うのを 大歟

さもし【形容詞】 心貧しい 物欲し気 サモシのサモは沙門で僧の事。乞食 (コツジキ) は僧の生涯。困っていやしき意に用い物を欲しがる意に転じた。
(志 (布施田)、津)

ざもち【座持】【名詞】 その座の取り持ちをする事。
一座の興を添える事 又その人 [会話] ザモチ ざあ (座) を持つ言うんかい (言うのですか)。ざあ (座) 持つのん (に) 上手な (だ) 言うんかい、ざあ 持つ、そや 座敷の接待すんの (するのが) 上手なおを (のを) ザモチな (が) ええ (よい) 言うんやろな (言うのでしょうか)。そしてだ 話な (が) 上手でなあ 周囲の人を楽しくさすのをなあ (させるのを) ザモチな ええ。

ざもつ 腫れ物の周囲が赤く腫れる

さや【鞘】【名詞】 利益 利鞘 取引より出た語、さやびらきの略。

さやえんど【さやえんどう】(莢豌豆)【名詞】 若い豌豆で莢ごと食用にするもの。さやまめ参照 末尾母音の省略 [会話] 鞘のままで食べるのなあ (です)、サヤエンド。

さやまめ【莢豆】【名詞】 えんどう (上、阿、) [会話] えんど豆 (豌豆) な (です)、えんどうを言うのな (言います)。サヤマメや (だ) 言いおったなあ (言いました)。今しゃ (は) えんど豆言うけど (言いますが)。えんどうをサヤエンドや (と) 言うて えんどうの事を そら豆や枝豆は違うの (違うのです)。そら豆はそら豆で 枝豆は大豆の事言うの (のです)。

さゆ【白湯】【名詞】 沸かしただけで 何もまざっていない湯 [会話] サユ。お茶のはいとらん (入っていない)、お前死んでも墓えはやらん 焼いて粉にして、サユで飲む言うて、ゆう (湯) で飲む言うて。お茶やない (でない) ゆう (湯) サユ。

さよなら【感動詞】 別れの挨拶に用いる語 さいなら さようなら さいなら参照 (志、員、鈴郡、鈴市、伊、南) [会話] サヨナラ言うて 暇乞い する事な (です)、サヨナラ さよおなら 言わんと (言わずに) サヨナラ、さいなら 言う人も 有るなあ (有ります)。

さら【新】(更)【名詞】 新しいこと 又そのもの (志 (布施田)、鳥、桑市、三、津、一、飯、阿、張、度、北、南) [会話] 新しい事をサラ、新しい事をサンサラや (と) 言うの (言います)。サラのを着て言うて (言って)、あらの (新しい) もん (物)

着ると。新しいもんを サラや(だ)言うの。サンサラの もん 着て言うて。サラの事 サンサラ言うの (言います)。ものすごお (ものすごく) 新し事を。

さら(皿)【名詞】 1) 頭蓋骨(志) 2) 膝蓋骨 3) 木製の割り椀。皿 [会話] 1) 頭のサラ、3) 飯盛る(よそう)、おつけ(味噌汁)盛る、昔や(は)椀 使わんと(使わずに) サラでお茶飲みおったの(居ました)。椀の代り サラでおつけ飲むの(のを) しいおったのなあ(して居たのです)。てこね 食べんのおも(食べるのも) サラで 椀で食べると 生嗅いよって(から) 言うて てこねすると 必ずサラで食べよおったの(食べました)。今しの(今の) サラやなしん(なくて) ちよいと(少し) それより開いて 深みも有って それえ にしめもん(煮染物、野菜の煮た物) も、だいこ(大根) 炊いたり、なあ(菜) 炊いたりすると それえ もったり(よそったり)して、朝はそのサラでおつけ のおで(飲んで) 椀 使わせんもんなあ(使いません)。葬式になると あれえ 煮染めん(物) もってなあ(よそって)。その皿な(が) よけ(沢山) いりよったやんかい(いりました)。

ざら【名詞】【副詞】 何処にでも有って、珍しくないさま、有りふれて居るさま。ざらざら、ぞろぞろと関係あるか。[会話] 沢山有る言う事を ザラに有る言うのなあ(言います)。そいなもん(そんな物) ザラやれ(です) 言うて よつけ(沢山) 有るのを。よれ有られ言うたり(言ったり) ザラに有られ言うたり すんのなあ(します)。沢山有る事を ザラに有る、ありふれとる(て居る) 言うよおな珍らしい言う事や(です) そいな(そんな) もん(物) よれやれ(沢山有る) 言うて、ザラやれ(だ)とかなあ 沢山有るの(のを)。

さらい(さらひ)【名詞】 掃除の時に使用する竹製の熊手。杷、櫛。木又は竹製の農具 柄が長く先に歯のついた熊手のような形のもの。木製の物は上を掻きならすのに用い、竹製の物はごみ、落葉などを掻き集めるのに用いる。さらい。浚い さらう事掻いて取り除く事 掃除(志(浜島)、鳥(国崎、長岡)、安、松、張、北) [会話] サライ きい(木)のサライ。サライで あげな(あんな) 男なら コマザラエ 尻掛けといて(ておいて) 引張ってくりや(来れば) よれやれ(沢山有る) サライで掻く程 あられ(有る) 言いおった(言いました)。

あんげな(あのような) 男なら サライで掻き集めるほど 有られ(有ります) 言いおったね(言って居たのです)。おおぎよし(大迎しい) なあ(です)。高砂の爺さん、婆さんが持つとる(持って居る)、あや(あれは) コマザラエ。その ええ(柄)の無いのが てえ(手) ばっか(ばかり) のな(のが) テザライ。テザラエ言うて 山 行くとごみ(落葉) 掻くのなあ(のです)。ごみや(とか) しば(柴) や(とか) ごみくた(落葉) 手で掻くの(のです) 柄な(が) 付いとる(て居る) の(のは) ともと(庭) や(とか) そこら掻く(掃除する) 時に使うし(使います) 今し(今) でも 網のはさば(狭場 干し場) コマザラエで掻くやんな(でしょう)。

さらい(さらひ)【名詞】 復習。習った事を繰り返し勉強すること。おさらいの形が多い。さらいよみ参照

さらいげつ(再来月)【名詞】 来月の次の月 [会話] 来月、サライゲツ、今し(今、十月)で言うて サライゲツ言うて まあ 正月や(です) 来月、さらいねん(年) 言うのは 来年 再来年。

さらいげんこつ【名詞】 手を開いたままで叩く事 平手打ち [会話] サライゲンコツ てえ(手) 抜けといて(ておいて) こんと こつくの(小突くのです) さらい(熊手) みたいん(のように) しとるやんない(しているでしょう) サライゲンコツは 痛たない(痛くない)。

ざらいた【名詞】 渡り廊下や風呂などの洗い場にある箕の子状の板。(津、上、名、張、南) [会話] ザライタ言うな(のは) 風呂場や玄関のつなぎめ(接目)に ザライタな(が) やって(敷いて) 有りおった(有った)。

さらいね。さらいねん(再来年)【名詞】 来年の次の年 さらいげつ参照(志(立神)、鳥)

さらいよみ【名詞】 復習 [会話] なんやかや(いろいろ) 練習する事を おさらえ(復習)。なるて(習って) あるけど(が) なるとても(習っていても) またそれを稽古すんのを(するのを) おさらえや(だ) 言う。がっこ(学校) い(に) 行く時 サライヨミ や(だ) 言よおった(言いました)。復習する言うのも がっこで なるて(習って) 来た事を サライヨミ せんとおって(せずに居て) 言うてなあ。勉強する時ん(に) サライヨミ せえよお(しなさい) 言うてな、なるたの(習ったのを)

又 読むのを サライヨミ。
さらう(さらふ)【他ワ五】掻き集める。持って行く。
さらう(さらふ)【復習】【他ワ五】教えられたものごとを繰り返して練習する。さらう(浚)と同語源
さらえ(さらへ)【名詞】熊手 さらい(志(立神)、三、鈴郡、鈴市、安、上、阿) [会話] 掃除するサラエ。テザラエも有るし、コマザラエ、ええ(柄)の付いとんのな(ているのが) コマザラエ 言うんなし(言うのですし)、ええ(柄) な(が) 付いとらせん(ていない) ちっさいな(小さいのは) テザラエ 言うの。(のです)

さらえる(さらへる)【浚】【他ハ下一】1) 川、井戸、堀などに貯って居る泥やごみを取り除く。2) 探し廻る。探し廻って持ち出す。3) 総て除く。(安、津) [会話] 2) 戸棚サラエルとか 勝手(台所) サラエルとか 言うなあ(言います)。2) 押し入れサラエタとか 探す言うのを サラエル言うのなあ(言います)。なんやかや サラエテもてて(持って行って) 言うて(言って) 押し入れやどけを(などを) サラエル言うな(のは) 物を一杯(一面)にひろげ(広げて) さがしといて(ておいて) えって(選んで) もてく(持って行く) 言うのなあ(言うのです)。1) 川はサラエル言うて ごみさらえて揚げる言うし(言います)。2) 勝手サラエル猫や(だ) 言うて(言って) その時は探す。探すだけや(で) なしに(なくて) こねくる(こねまわす、引っ掻きまわす) のなあ(のです) こねくるのおを(のを) サラエル言うのな(です)。こねくって捜して ぬすでく(盗んで行く) 言うんやよって(言うのだから) サラエテもてた(持って行った) 言うんやよって

さらえる(さらへる)【他ハ下一】教えられた事を復習する。

さらがみ【名詞】表面の粗雑な紙。表面の滑らかでない紙。

さらける【他カ下一】広げる 隠しておかない あけっぴろげ(多、松、北) [会話] サラケダシテ なんもかも言うて(言って)、なんもかも隠さんと(隠さずに) サラケダシテ言うた(言った)、隠しとらん(て居ない) 言う事を、サラケル。なんも包みも 隠しもせんと(せずに) サラケダシテ 皆言うた(言った) 言うて。

さらげる(しゃらげる) すべてを掻き集める 残さず持ち去る しゃなげる [会話] シャラゲル 言うね

んなあ(言うのです)、サラゲテ 皆 くたたれまあ(食べてしまった) 言うてな。 したじん(おつゆに) 中 はいつとんのを(ているのを) 箸でなあ さぐんの(探がすのを) シャナゲテ くたれまあ(食べてしまえ) 言うて、底から全部 取って来る しんのみ(味噌汁の具) 皆 まあ サラゲル 言うて なあ。

ざらざら【副詞】【形容詞】手ざわりが粗く なめらかでないさま じゃらじゃら参照 [会話] 砂な(が) ザラザラしとる(している) 肌も 鮫肌 で ザラザラしとる。

ざらざらなあ【名詞】荒縄 すべなあ参照 [会話] ざらざらと のおたの(なったのを) そんなり(そのまま) おいとくと(ておくと) ザラザラナア。

さらし(晒)【名詞】木綿の布 さらし布 さらし木綿の略 [会話] サラシ 言うな(のは) きれ(布) なあ(です)。サラシ モメン 言うて よお(よく) サラシ で じばん(襦袢) こさえおったやんかい(作って居ました)。サラシ の じばん(襦袢) はぎれ(端切れ) やってなあ(当てて) サラシ の じばん え モスのそおで(袖) 付けて 胴だけ サラシ ん(に) して なあ そんな(それが) どいらい(大変) 晴ん(に) なって、その サラシ の きもん(着物) 着て、まいかけ(前掛け) をあっかい(赤い) ひぼ(紐) 付けて 朝鮮 へ 行くの んなあ(に) そげんして(そんなりにして) 行き おった んなあ(行ったのです)。

さらしくさる した するの卑語(北) [会話] あげ な(あんな) 事、サラシ カル 言うて、しくさって(して) 言うたり な、する 言う 事を そげ な(そん) な 事 して まあ 言う のを、した ら わり(悪るい) 事 を し とん のを なあ(しているのを) しくさって て やら(とか) さら し や が って て やら 言うて なあ あげ な 事 サラシ カル 言う 人も 有る し なあ(有ります)。

さらしくさって して さらしくさる参照

さらしこ(漂粉)【名詞】漂白剤 消石灰に塩素ガスを吸収させて製した白色の粉末 [会話] サラシ コ 入れて さら し と かな(ておかなければ) は ざん われ(駄目だ) 言うて 茶色 ん(に) なって 来る と なあ サラシ コ 入れる と 真 っ 白 ん(に) なって なあ。洗濯 ん(に) さら す の な(が) あ ん ね て や(有るのです)。

さらした おこなった、したの卑語

さらしもん (晒者) (晒物) 【名詞】 1) 見世者。人に悪評を立てられる者。2) 売れ残りの商品。(上、阿)

さらしやがって していて して したの卑語 [会話] したらわり (悪るい) 事しとんのをなあ (しているのを) しくさって てやら (とか) サラシヤガッテ てやら 言うてなあ、サラシヤガッテ 言う人も有るしなあ (有ります)。

さらしやがる する。して居る やがる 上の転相手や第三者の動作を軽蔑したり ののしったり憎んだりする気持ちを込めて言い表す。(北、中勢郡)

さらす (しくさる) 【他サ五】 する せよの罵言 他人のするのを卑しめて言う語 しゃがる (志 (浜島、鶴方、立神、国府、安乗)、鳥、員、三、鈴市、鈴郡、安、津、一、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] せえ (しなさい) 言う事を、サラセ言うんなし (言いますし)、したの (してしまったのを) サラス言うてなあ (言います)。サラセとか サラスとか 言うななあ (言うのは、腹な立つ時 使う言葉や (です)。じんじょおの時は (平常は、普通の時) それ しとけよお (しておきなさい) あれ したてくれよお (して下さい) 言う んやけど (言いますが) 腹な立つとる (て居る) 時は そいな (そんな) 余裕な (余裕のあるおとなしい) 言葉 使とらせん (使って居ない)。それ、サラセ こいな事 (こんな事) サラシテとか、したた (してしまった) 事を 怒つとる (て居る) 時に使う言葉や (です)。しくされも一緒やなあ (です)。此、しくされとか しくさってとかなあ 此れ やりくされとか、腹の立つ時に 言葉や。

さらすな するな (鳥 (加茂))

さらすんど するのだ (叱る時) なんサラスンド

さらせ しなさい、しゃがれ、しくされ さらす参照

さらち (更地) 【名詞】 地上に建築物などのない土地 アラチ (新地) よりの転 (大言海) サラ 新、更参照 [会話] 家な (が) 建たんと (建たずに) 屋敷な (が) こしらえたての (作ったばかりの) のおを (のを) サラチ、新しのおを 土地を埋め立てを言う ねな (言うのです)。サラチ 言うてなあ。まださらやなあ (だ) 言うやんかい (言います)、新しもん (物) をなあ。ほん (本当に) さんさら (真新しくて) で言うて、そやよってん (だから) 家 建てるよおに 段取りして有る 立派なのおを サラ

チ言うんなあ (言うのです)。

ざらつく 【自カ五】 ざらざらする。滑らかでない感じがする。[会話] ざらざらと鮫肌で ザラツク 言うてな。

ざらっと 1) 乾燥しているさま 2) あっさりしているさま

ざらっと ざっと 大略 [会話] ザラット言う事は丁寧にしとらんと (せずに) ザラザラット、そこら掃除して、ザラット洗とととか (洗っておくととか)、流し (台所の流し台) も ザラット しもとけ (しまっておきなさい) 言うて、ちよいと (少し) さつさと しとけ (しておけ) 言う事やなあ (です)。

さらば 【接続詞】 先行の事柄に対し、後行の事柄が反対 対立の関係にある事を示す。いざ サ (然) あらばの約 (大言海) [会話] なんかなしん (気にとめずに) 喋つとると (ていると) なんやけど (簡単だが) サラバ 書いて見ると むつかし (難しい) もんやのお (ものです)

さらばゆうと いざ言うと

さらびん 【名詞】 真新しいこと。新品。[会話] サラピン言うて。新しもん (物) を サラピン言うやん かいな (言います)。真新しい もん (物) をなあ。

さらふご 【名詞】 皿の形をした浅い、藁で編んだふご。畚。(志 (布施田)) [会話] サラフゴ言うと 皿みたいな (のよう) あつさい (浅い) ふごで。もっこ (畚) の代りに 皿みたいな (の物) を編み おったわい (ました)。どえらい (大変) 編みのくい (の) (のです) こが (樽) 吊つたり すんの (する) の ちよぼんとしとると (して居ると) 吊りのくい (吊りにくい) もんでなあ (ので) 皿みたいに (のように) 開いて どいらい (大変) 編みのくい もん (のです)、尻 落してかな (落としていかなければ) はざん (駄目) もんで (ので)。

ざらめ (粗目) 【名詞】 1) 双目糖 ザラメ糖 砂糖製品を結晶の大きさに依って分類すると ざらめ糖 とくるま (車) 糖となる。車糖に較べて目立ちの大きい物を総稱してざらめ糖と言う。ざらめ糖と言われる製品の結晶は大体2耗角の大きさが標準になって居る。同じざらめ糖でも色相に依って粗糖の黄ざら、赤ざら、白ざら、染めざらに区分され糖度は99.7~99.8%である。粉の如き砂糖に対し粗糖なる意 (大言海) 2) 編み目を粗く編んだ物。[会話] 1) 砂糖のザラメも有るし、2) なんやかや (色々) 編むのも あらくとお (編み方を粗く) 編むと、こ

や (これは) ザラメや (だ) 言うて。さと (砂糖) も きざらやげじろやしろざとや きざら言うのは ざらざらしとるのな (して居るのです)。きざら言うのを ザラメや (です)。

さらゆ (新湯) 【名詞】 沸かして まだ一人もはいらない風呂 [会話] サラユや (だ) 言うて、風呂のサラユやなあ (だ) 言うて、誰も入いとらへん (入っていない) のを サラユ 入らしてもろて (貰って) 言うてな。

さるさこん 【名詞】 植物 [会話] 山桃みたいな (のような) もも (果実) な (が)、えび茶色ん (に) なって 秋ん (に) になると はあ (葉) は 萩みたいな (のような) はあで、それほぜって (掘って) 来て飲むと はらくだし (下痢) じっきん (すぐに) 治ってきおった (治って行きました) それ サルサコン。

さるのしり 【名詞】 物知り [会話] サルノシリは物知り、猿が出て来ると、ものな出て来た 言うやんかい。(言います)

さるまた (猿股) 【名詞】 男子が用いる短かいももひき パンツ [会話] サルまた 今しのパンツをなあ、サルまたや (だ) 言うて。男の履くのを サルまたや (だ) 言うて おなごん (女の) のおでも (のでも) サルまたこさえて (作って) もろて (もらって) 履いたよお (履いた) 言うて、磯人 (海女) な (が) 初めて履いた時に、サルまたや (だ) 言うて。いそなかねをなあ わしらの親方なあ (は) 淡路の人でなあ わしら、いそなかね 六尺ん (に) しとるやんない (しているでしょう) それを 二つん (に) さばいといて (分けておいて) サルまたん (に) して 履け言うて親方な (が) たってくれて (裁って、切ってくれて)。

さるまなこ (猿眼) 【名詞】 猿の目のように 丸く大きく見開いて居る目 [会話] サルマナコ。猿のめえ (目) や (です)。そればっか (ばかり) 見つめて めえ (目) も ひっちゃけて (開いて) 夢中ん (に) なって。

さるまね (猿真似) 【名詞】 本質を理解せず、表面だけ真似る事。

されこべ (されこうべ されかうべ) (鬨) 【名詞】 風雨に曝された頭の音。しゃれこべ。

される (曝) 【自ラ下一】 1) 日光や風にさらされて変化する。風化する。2) 色があせる。変色する。

さわ (竿) 【名詞】 1) 竿 さおの訛 (志 (神明、立

神、国府)、多、上、阿、度、伊) 2) 陰茎 [会話] 1) 物干す サワかい (ですか)、せんたくもん (洗濯物) 干す サワ。2) 男の前のもん (物) も サワ。サワは有れども物干せず、縫い目有れどもほころべん。ふくら有れども 物入れず。

さわがし (騒) 【形容詞】 声や物音が大きくてやかましい。うるさい。さわがしい。(志 (布施田)) [会話] サワガシ やんかい (です)、よけ (沢山) にげな (人間が) おると (居ると) がやがやと喋って さおがしてまあ言うて、おなごらな (女たちが) よけ おると さおがしなあ。よけ喋って サワガシ 言うて 男の人らな (が) 言うて来るわい (言って来ます)。

さわがす 【他サ五】 騒ぐようにさせる。

さわぎ (騒) 【名詞】 1) 声や物事がやかましい事 さわがしい事 2) 争い事 3) 出来事 4) よく騒ぐ人 5) 大きな魚群 [会話] 4) 面白い事言うて 笑ろたりなあ (笑ろったり) 人 笑らわしたり (せたり) して わがとも (自分も) 喋ってしとんの (しているのを) サワギや (だ) 言うの。(の です)

さわぎたてる (騒立) 【自タ下一】 1) 騒々しくすることさらにうるさくする。2) 噂をする。言いつのる。[会話] 1) ざあざあと そおぞしなあ (ざわついている)。サワギタテルと そおぞしなあ、なんやら (何か) 事な (が) あるかして (あるとみえて) えらい (大変) そおぞし (さわがしい)。

さわぎなある 魚群が来て大漁出来る。

さわぎなない 1) 全部の人が大漁しない。2) 漁が無い。

さわぎまある (さはぎまわる さはぎまはる) (騒回) 【自ラ五】 1) 騒々しい音をたてて 行ったり来たりする。落ちつきなくうろつく。2) 噂をふりまく。

さわぎまくる 盛んに喧ぐ。[会話] サワギマクル言うて、よけ (沢山) することをなあ サワギマクルとか。さわぎ (よく騒ぐ人) な (が) よけ 寄ってとか 言うてなあ。せんぎり (よく) 喋とると みんな (皆が) われせひとせで (各人てんでに) 喋とると (ていると) まあ サワギマクル言うてなあ。

さわぐ 魚の群が大きくて海上に跳ね出す。鰯なサワグ。(熊)

さわし (さはし) (酬) 【名詞】 さわしがきの略 [会

話] サワシ や (だ) 言うやんかい (言います)
人間の、セケンザワシ言うて

さわしがき (さはしがき) (柿) 【名詞】 渋を抜いた柿 湯や焼酎につけて渋を抜いた柿 樽柿 [会話] サワシガキ言うな (のは、渋抜くのんなあ (の)に) 焼酎したり 豆のはご (莢) したりして、渋抜いてあんの (有るのを) サワシガキ言うの (言います)。さわさんと (さずに) あって渋い言うて (言つて)、渋な (が) 抜かんと (抜かずに) あるの。さわさんと 有る言うの (のです)。渋抜いたのおを (のを) さわした、サワシガキ。

さわす (さはす) (柿) 【他サ五】 1) 柿の渋を抜く サハ (爽) を活用した語 (大言海) 志 (浜島、布施田、鶴方)、員、鈴木、安、上、阿、北、) 2) 物のあくを抜く [会話] 1) 柿の渋 抜くのを サワス 言うなあ (言います)、柿もサワシテ、渋 抜かな (なければ) 食われやせんわれ (食べられません) 渋うて (渋くて) 言う。2) そして なんやかや (いろいろ) 浸けとくのをなあ (ておくのを) サワス 言うやんかいなあ (言います)。あく抜くのを あくな (が) 有るよつて (から) サワシトケまあ (ておきなさい) 言うて、きれ (布) でもなあ 汚れとる (ている) もんで (ので) サワシとけ (ておけ) ひとばか (少しの間) 言うて 浸けとけ 言うのを なあ。

さわだけ 【名詞】 竿竹 竹製の物干竿 さおだけ参照 [会話] 竹 竹のさわをなあ サワダケや

さわつく 【自カ五】 何となく落ち付きがない。さわざわとして居る。(張)

さわもち 【名詞】 四角な餅を二つ折りにし 中に餡を挟んだもの。(松、多、度、伊) [会話] サワモチ。延べといて (ておいて) 二つん (に) あわしてな (せて) 餡な (が) はさんであんの (有るのを) サワモチ。布施田の人らな (が) 菓 買いん (に) き といて (来ておいて) 大黒屋い (へ) 入いつて 餅 食うて。

さわら (さはら) (鱈) 【名詞】 サバ科の海魚 全長1 mに達す 体は側扁し 細長い 背方は灰褐色の地に青褐色の、斑点が点在し 腹方は灰白色 肉は白い。(鳥、員) [会話] サワラ言う魚な (が) 有る やんかい (有ります) 旨いの (のです)。サワラのでこね。サワラひき (釣り) 言うてな、さわ (竿) の先い、鈴 付けといて (ておいて) 帆まいて (揚げて) 走るとなあ サワラな (が) くわえると 鈴

な (が) ちんちん言うてなんね (鳴ります) そや、サワラブネな (が) まあ サワラよけ (沢山) 釣つて来た言うてな そして こおて (買って) てこねにして食うと (食べると) 旨いね (旨いのです)。

さわり (さはり) (障) 【名詞】 1) わざわい たたり 2) 月経 [会話] 1) なんやかや な (いろいろな物が) サワッテ言うてな。なんやら (何か) かかわつとんねかして (関係しているのか) 具合な (が) わり (悪く) なつて来て言よおつたなあ (言いました)。昔や (は) 食あたりなするとサワリモンな (が) して言うてな。食あたりもサワリ言うて なんやら (何か) サワッたんかして (たのか) 胸苦しうて。2) 月経の時も サワリ かりや (月経) ん (に) なると なあ、おな ごどん (女殿) な (が) 月のサワリどよ (だ) 言うて、言よおつたの (言いました)。

さわりもん 【名詞】 1) 障物 害になる物 さまたげになる物 2) 食中毒 [会話] 2) 食中毒ん (に) 当ると サワリモンで 腹な (が) 痛い 言うて、今しや (今は) 食うもん (物) も きい (気) 入れて (つけて) 食うよつて (から) そげん (そんなに) 無いしなあ 当りもんとか サワリモンとか 言うてなあ。昔や (は) 食中毒な (が) するとなあ サワリモンな (が) して言うてな、しよくあたり (食中毒) も さわつた言うて。なんやら (なにか) さわつたんかして (のか) 胸苦しよお (です) 言うて。

さわる (障) 【自ラ五】 1) さしつかえる 支障を来たす 2) 食物により病気になる 下痢する 蕁麻疹が出る [会話] 2) 昔の人ら 病氣してもな なんやら (何か) サワッテ具合 (調子) な (が) わり (悪るい) とか言よおつたなあ (言いました)。1) さわりもんな (が) した言うてな、つきもんな した言う なあ (言います) 狐ん (に) つかれたたら (とか) なんやら (なんとか) 言うて よお (よく) 言よおつたわい (言いました) 狐ん (に) つかれて言う よお うかごて (伺つて) 貴いん (に) 行く。1) サワリな有つて言うてな、差支え な (が) 有つて 言う事 や な (です) サワルな (です)。

さん (産) 【名詞】 出産 お産 子を産む事 [会話] おいだし言うな (のは) はよ (早く) 産れるよおに サンな (が) やすく出来るよおに言うて

さん (棧) 【名詞】 1) 戸の栓 2) 障子などの骨組

み

さん(惨)【形容詞】いたましい様。むごたらしい様。

さん(残)【名詞】宴会の終わった後で その残り物を利用して 開く内輪の宴会(志(甲賀)) [会話] ごっつお(御馳走、祝宴)のザン、まな板洗い。ザンによべれた。(招待された) 言うて(言った)。残りもん(物)で するもんで(するので)ザン。残りもんで まな板洗い言うて(言って) しいおったのなあ(しました)。昔や(は)まな板洗や(だ) 言うて(言って) こえもち言うて いつまで ごっつお(御馳走) しいおったわい(して居ました)。式(結婚式)した後で 残ったもんで(物で)。式や(だ) 言うて 一週間ぐらいしいおったもんなあ(して居ました)。残ったもん(物)を整理してザンで よんで もろて(もらって) 言うの(言います)。残飯でするもんで ザン言うて。残ったもん(物)で やうち(家内、親類等親しい人)のもん(者)が、ごっつお(御馳走)した後で 家族や濃いもん(血縁の近い人)や てとともろた(手伝って貰った) もんらな(者達が)。慰労会みたいいなあ(のように)。いつか(幾日)でも しとりおったわい(して居ました)。そして いっち(一番) しまい(終)に こえもちや(と) 言うて、こえもちしてなあ。ごっつおしよおか言うて 十日も前から うちのもんら(家の人達は) だんどり(準備 用意) すんのに(するのに) 掛つとるし(て居る)、そのうち(間中) うちのもん(家族) な(は) 畑しやせんし(しないので) こやし(大、小便) 持たせんし(持たないので) 人が多いし、こやしが、貯るやんない(でしょう)、いっか(幾日) もしとるよって(して居るから)。そおするとなあ。いっち(一番) 後でなあ。ごっつお 呼ばれた、うち(家)が皆いて(行って) こえもちや(だ) 言うて そして(そうして)又 ごっつおするんやんかな(するので)。こえもちのごっつお呼ばれる迄 一週間も そげん(そんなに) しとりおったわ(して居ました)。まな板洗い言うな(のは) いっちしまい(一番終り)の、まな板 洗うのを まな板洗い言うてなあ(言って) まな板洗い迄呼ばれた言うて一週間位 呼ばれると そげん言うて(言います)。まな板洗いのあとで こえもちする、そんで(それで) しまい(終) や(です)。まな板洗いや こえもちや言うてごっつお すると そいな(そんな) 時やなけな(でなければ) ごっつ

お 食べえへんもんで(食べないので) いしぐら(石垣 芋飯) ばっか(ばかり) ぐわしとて(壊しておって) そやもんで(それで) かづけて(かこつけて) なんやかや言うてごっつお しいおったんやわい(して居ました)。

さんかだ たかだか [会話] せんこ(線香) だ(は) サンカダ 二銭か三銭で買われよおったわい(買えました)。

さんがつねこ(さんぐあつねこ)(三月猫)【名詞】

1) 発情期の猫 2) 女性を追いかける男 [会話] 2) 男とおなご(女) な(が) 惚れとんのな(ているのが) 追わえたりすると サンガツネコみたいに(のように) さかりな(が) ついとて(ついていて)。

さんがつひまち(三月日待)【名詞】三月の節句に行なう海女の集会 宴を張り大漁を祈願すると共に休息を兼ねる。[会話] 磯人(海女) 日待や(は)、サンガツヒマチ 五月日待 六月日待 それから あがり(終り)に 日待して 三月は節句な(が) あつて 節句で日待するやんない(でしょう)。

さんがにち(三ヶ日)【名詞】正月の始めの三日間。

さんがらかず さがらす つるす [会話] かさぶく、男は男の一式 煙草入れに、剃刀に てぬぎい(手拭い) 男の一揃い みんな(皆) サンガラカス おなご(女)は おなご(女)の一式 サンガラカス。

さんぐ(参宮)【名詞】宮参り 伊勢さんぐう 参宮 末尾母音の省略。(北) [会話] 伊勢サン や(と) 言うて(言って)、昔や(は) 山田(現伊勢市、) 行くの 一日逗留(宿泊) せな(しなければ) 日帰り言うたら えらいわな(大変です)。歩いて行くねもんで(行くのだから)。今日いといて(行って) おいて その晩泊って あしため(翌日) 山田じゅう(中を) 見物して 一日逗留して、そして帰り言うて みっか(三日) 掛る。伊勢参りするの(するのに)。今日いといて あした(明日、翌日) 帰って来るの(のは) えらいやんな(大変でしょう)、歩くのな(が)、十里も歩いてくねよって(歩いて行くのだから) これから(此处から) 伊勢迄 歩いてくねよって。そすと(そうすると) 来る となあ(帰ると) 伊勢詣り 行て来た 言うて 隣じゅう(全部) かしん(菓子)を せんべ(煎餅) なら 五、六枚 いつでも(五、六枚でも) 十枚でも 紙い(に) つつで(包んで) 隣中 皆 こばんね(配ります)、親戚中七枚位 い いつ(づつ) 濃い うち

(家) (親しい家) は 九枚やとか (だとか) 十一枚とかなあ。

さんけ (産気) 【名詞】 子供の生まれそうな気配 様子 出産のけはい 陣痛

さんけづく (産気付) 【自カ五】 今にも子供が生まれそうな状態になる。[会話] サンケツク言うな (のは)、陣痛な (が) 来たのを、サンケツク、はらけんなって来た言うて 昔や (は)。

さんご (産後) 【名詞】 子供を出産した後 分娩の後

さんご (さんごう、さんがふ) (三合) 【名詞】 一升の十分の三 末尾母音の省略 (度、伊) [会話] 一合、二合、サンゴオ、いちご、にご、サンゴ言うて サンゴオ言わんと (言わずに) サンゴ。サンゴ売ってくれえ (下さい)、にご (二合) 売ってくれえ 言うてな。酒いちご (一合) やとか (だとか) にごや とかなあ。舟も いちご (一号) にご (二号) サンゴセン (三号船) 言うて。

さんごおじ (珊瑚珠) 【名詞】 珊瑚を加工して作った珠 赤珊瑚の珠 さんごじゅ、珠、樹の訛。(員、度) [会話] サンゴオジ、珊瑚な (です)。赤珊瑚な (です)。まちがや (間違えれば) 間違うもんだよ おそその (女陰) つめ紙そのまま置いたら サンゴオジと取り間違ごおて (がえて) 三百三十三匁三分三厘値をつけた。”

さんごのひだち (産後日立) 出産後の経過 ひだちは日径 [会話] サンゴノヒダチな (が) わり (悪る) かったりすると ちわずらい (婦人病) するな あ (します)

さんざ 【名詞】 夕立 一時的にはげしく降る雨 (志 (布施田、浜島)) [会話] 盆のザンザ 盆の前のざあざあ降り。

さんざい (散財) 【名詞】 多額の金銭を使う事。又金銭を無駄に使う事。[会話] サンザイ、飲めよさわけのサンザイ。そいな (そんな) サンザイする時も 無かったけど (けれど) 男の人らは有ったわい (有りました)。御馳走してすんのを (するのを) にぎおて (賑わって) すんの サンザイや言うて (言うて)。飲んだり、食うたり、飲めや騒げの大サンザイ。

さんさいふぐ 【名詞】 しょうさいふぐ さばふぐ参照

さんざぶり 【名詞】 雨などが激しく降るさま [会話] 雨な (が) ザンザブリや (だ) 言うてな、盆前ん (に) になると、盆のざざぶりや (だ) 言うてな、ざあざあとしてな (が) 止んでき すんのな (する

のです)。

さんさら 【名詞】 真新しい (志 (布施田、神明、甲賀、安乗)、鳥 (鳥羽、答志)、鈴市、度) [会話] 新しいもん (物) をさら、サンサラ言うの (のです)。

さんざり 乾燥してさっぱりして居る状態。(志 (布施田)) [会話] かぼ (出来物) な (が) うじゃうじゃして 汁な (が) 出てくんのは (くるのは)、法螺のふさ (蓋) 黒焼きん (に) しといたのおを (しておいたのを) 振りかけると サンザリとなつてくの (なっていくのです)。

さんざん (散々) 【副詞】 1) 苦しいさま。駄目なこと。2) 物事の程度が甚だしいさまを表す語 ひどくはなはだしく。3) 重ね重ね (志、鳥) [会話] ³⁾ サンザン苦労したけど (が) 出来ざった (出来なかった)。¹⁾ サンザン言うのは まあほん (本当に) はざん (駄目) 事を言うの (言うのです)。

ざんざん 【副詞】 1) 雨が勢いはげしく降るさまを表す語 (志 (布施田)、伊) 2) 喧しい、激しいを表す語。[会話] ²⁾ ザンザン 生えてくんね (来る)、ザンザンと めえ (芽) な (が) 出て来た 言うてな、豆 ふつといたや (播いておいたら) ザンザンざあつと (一面に) 出てくんのを (来るのを) ザンザンめえ (芽) な 出て来た言うて。¹⁾ 雨な (が) ザンザン漏って来たてやら (とか) 降って来たてやら 言うてな。ざざ降りや (だ) 言うて ザンザンブリ言うのも一緒やけど (だが)。盆の前はざざぶり言うけど (が)、よけ (沢山) 降って来たのおも (のも) 雨な (が) ザンザン降って来た言うんな (言います)。

ざんざんぶり 【名詞】 大雨が長時間に渡って激しく降ること。ざんざん参照

さんじ (三時) 【名詞】 午後の休憩時間 又その時に食べる軽食 (安) [会話] サンジ、おやつ、サンジです おやつです 言うて

さんじつ 【名詞】 算術 (員、鈴市、鈴郡、伊) [会話] 算術言うのをサンジツ。かんじよ (計算) を サンジツな (が) じよんな (上手だ) 言うて 算術言わんと サンジツ、サンジツ、けんじつ (剣術)。

さんじます (参じます) 1) 行きます。参ずる。行く、来るの謙譲語 目上の人の所に 行く 来る 参上する。(志、鳥、松、上、南) 2) します [会話] ¹⁾ いて (行つて) サンジマス言うて (言うて) 丁寧な言葉なあ (です)。行て来ます言うの (のを) いてサンジマス言うて なあ (言います)。

さんじゃく (三尺) 【名詞】 1) 三尺帯の略 越中襦
2) 座敷に付いて居る廊下 [会話] 1) サンジャクオビ言うんかい (言うのですか)。三尺襦 サンジャクはえっちゅう (越中) やわい (です)。六尺五寸は 襦の中に ちん まるまる言うて (言います)。こおして、かくのは (襦をつけるのをかく)。六尺五寸 要るのやんかい (必要です)。赤襦 けつわり (尻割) は、きんかくしは六尺五寸 越中はサンジャクでええけどなあ (よいが)。2) サンジャク言う と 座敷の先の縁をサンジャク言うてなあ。あやこれ (あれは) 縁な (が) サンジャク位のどこ (所、巾) 有るやんない (有るでしょう)。そやもんで サンジャク、今し (今) で言う 廊下やわいなあ (です)。

さんじゅごんち (さんじふごんち) (三十五日) 【名詞】 人の死後三十五日目の忌日 又その日に行なう仏事 [会話] 死んでから 三十五日。サンジュゴンチすると、しじゅうくんち (四十九日) なななぬか (七、七日) とかなあ。いつなぬかとか (五、七日) よなぬか (四、七日) 言うて、一週間に 一偏つ (づつ) すんのをなあ (するのです)。なななぬか (七、七日) は しじゅうくんち (四十九日) なあ (です)。

さんじゅつ 【名詞】 算術

さんしょ (さんせう) (山椒) 【名詞】 さんせうの約 (大言海) ミカン科の落葉低木。各地の山地に生え人家にも植えられる。幹は高さ3mになり全体に独得の芳香がある。葉は互生し11~19ヶの小葉からなる奇数羽状復葉 各小葉は長さ1~3.5cmの卵形又は狭長卵形で 縁に鈍い鋸歯があり 葉柄の茎部の両側に一對の刺がある。若葉は木の芽合えや 木の芽田楽として 材はすりこぎに用いられる。果実は珠状で表面ざらつき紅熟する。種子は黒色 (志、鳥、三、鈴市、鈴郡、亀、一、松、阿、張、名、伊、北) [会話] サンショ腐れ 味噌腐れ 家のかかな (妻の) 口 腐れ 言うて、たつぽ (田螺) な (が) 泣く。たつぽ (田螺) 食べるのなあ (るのに) サンショ入れて 食べるの (食べるのです)。みななあ たつぽ くよおったね (食べたのです)、そすとなあ サンショで あえんねやんかい (あえるのです)。そやもんで (それで) サンショ腐れ 味噌腐れ 家のかかな (妻の) 口 腐れ言うて、たつぽ な (が) ごおわかしてなあ (腹立てて) 泣きおったね (泣いて居たのです)。

さんじょ (三升) 【名詞】 一升の三倍 さんじょう (鳥) [会話] 三升言うのを サンジョ 一升けん (に) 三杯を サンジョ

さんしょびらし 【名詞】 毒の有るプラントン、くらげ (志、鳥) [会話] サンショピラシ言うな (のは) 魔のもん (物) みたいやなあ (ようです)。まあなあ 苦して (苦しくて) 苦して サンショピラシにやられると (刺されると)、まあ意識な (が) 無いよおなつてくの (なつて行くのです)。あげく (その後) も一週間位 仕事よおせん (出来ない) 人が有るのなあ (有ります)。海女よお行かん人な (行けない人が)。息とめて苦して しょおな無い、目に見えやせんのやけど (見えないのだが) そいなの (そんなのに) やられるのなあ (です)。いそもぐさ言うな (のは) まるくとおて (丸くて) わじやわじやと口な (が) よけ (沢山) 有つて そんな (それが) どいらい (大変) 毒な有つて ふさ (房) がひつくと どえらい (大変) 体が苦しなつて来んの (来ます) いそもぐさでも、毒な (が) 有つて ふさなあ (が) こお 口な (が) わいわいしとるの (して居ます)、そんな (それが) 当ると どいらい (大変) 害すんねやんかい (するのです)。どいらい (大変) ぐあい (具合、調子) な (が) わり (悪く) なつて来て 海女も、ふつか、みつか (二、三日) 休まな (休まなければ) よおせん (出来ない) よおなつてくの (なつて行きます)。サンショピラシ言う と あや (あれは) 魔のもんや なあ (です)。みえやせんけど (見えないが) 浦い (へ) 行くと よお (よく) サンショピラシに 逢うなあ (逢います)。濁りの中に なんか (何か) 虫な (が) おるんやろなあ (居るのでしょうか)。目に見えやせんけど (見えないが)。

さんしょみそ (山椒味噌) 【名詞】 味噌の中に山椒の若芽をいれたもの。[会話] さんしょなあ 刻んどいて (でにおいて) はっち (鉢) で摺るとなあ どいらい (大変) 匂な (が) よおてなあ (よくて) そんなで サンショミソや (です)。それで たつぽ (田螺) をあえて くよおったの (食べたのです) その味噌 こしらえて そやもんで (それで) さんしょ腐れ 味噌腐れ 家のかかな (妻の) 口 腐れ言うて。

さんじるし (三印) 【名詞】 にぎだい ニザダイ科の海魚 体長40cmに達し体は卵円形で著しく側偏し吻が突出する体色は暗灰色で尾柄の側面に3~5

ケの黒色斑点が並ぶ。(志(鶴方、甲賀、安乗)、鳥、(石鏡)、北、尾、熊) [会話] はぎ、サンジルシ なあ (です)。

さんす【助動詞】 する さんす するにさんすの付いた せさんすの転 するの意の尊敬語に丁寧の意が加わった語、なさいます。(桑市、鈴市、三、安、久、一、松、多、伊)

さんせ しなさい。せ 承諾の意を表す語。はい 尊敬の助動詞、又未然形、命令形 す 使役の意を表す 動作を他にさせる意を表す 動作作用が行なわれる事を許可する。敬意を表す 尊敬の意を表す 謙讓の意を更に強める。(志(神明、立神)、桑市、鈴市、安、津、伊、南) [会話] サンセ言うて(言つて) しやんせ言うのを サンセ 言う人が 有るなあ (有ります)。

さんだあら(棧俵)。 **さんだら【名詞】** 米俵の両端をふさぐ藁で編んだ蓋、さんだわらの訛。サタハラ(狭俵)の音便(大言海)(志(鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)) [会話] サンダアラ言うて たあら (俵) の後 (あと) 先 (さき) 当てるやんな (でしょう)。まるくたい (丸い) の (のを)。此れぐらい (径40cm位) の藁で編んだの。あれ、サンダアラ。

さんだか せいぜい。たかだか。[会話] 昔や (は) せんこ (線香) やすかつたんやろなあ (のでしょう)。サンダカ二銭か 三銭で かわれよおった (買えました)。

さんだてる 1) 準備する 2) 借金の申し込みを受け入れる。用だてる。

さんたろばい【名詞】 独楽の一種 櫻の木を削って作った。ばい 貝 海産の巻貝 貝殻は長卵形で貝細工の材料、昔は貝殻を使って、ばいごま(べえごま)を作った。ばいごま 巻貝ばいの殻の中に溶かした鉛や、蠟を注ぎ込んで作ったこま 又鉄などでそれを模したこま。[会話] 桜の木で こしやえて (作つて) 有る。サンタロバイ。

さんだん(算段)【名詞】 1) 支度 処置 考へ(志) 2) 金の工面 [会話] 1) 仕事のサンダン せな (しなければ) 言うなあ (言います)。仕事の だんどり (用意、手順) せえ (しなさい) 言う事を、仕事のサンダン せな、サンダン な (が) わり (悪い) と だち (らち) が いかんわれ (行かない) 言うて。仕事のだんどの事 やなあ (です)。準備とか 仕事の用意とか 仕度とか、そいな (そん

な) 事をなあ。仕事の 下ごしらえ をする事を。考え方 計画や なんやかや (色々) 皆 そんな事も サンダン やわな (です)。サンダン な (が) ええ (良い) と 仕事 な早いけど (早いが)、サンダン なわり (悪い) と だち な (が) 行かん (行かない) 言うて。

さんち【名詞】 三日 三日目 [会話] サンチ たつたら。三日目 なあ (です)。三日帰り サンチ、いちんち、(一日) にんち (二日)、サンチ言うてなあ。

さんどがます【名詞】 三斗入りの呷 普通のものより少し小さい [会話] さんど (三斗) 入いる呷。しと (四斗) 入い んな (るのは) しと呷。五斗 入いんな (入るのは) 五斗呷、サンドガマスは 塩呷やなあ (です) むしろがます言うのは 四斗 おつ、(づつ) はいんの (入いるのです)。

さんどく【名詞】 五徳、火鉢や炉の中に、釜、鉄瓶、薬罐などをかける道具、三脚、又は四脚で鉄、陶器製の輪。(志(御座 畔名)、鳥(答志、長岡、神島)、桑郡、三、鈴市、鈴郡、安、上、張、名、南、熊) [会話] サントク、五徳言うてなあ サントクえ 薬罐 すえよおつたなあ (据えて居ました) 火鉢の 中い (へ) サントク。

さんど、さんど(三度、三度)【名詞】 1) そのたびに、いつも 2) 一日の食事のたびに(志(布施田)、上、阿) [会話] 2) サンドサンドの飯も ろくたま (充分に) 喰わして もらわんと (貰わずに)、サンドサンド ごっつお (御馳走) 呼ばれてとか言うて、三度の食事する事 なあ (を)。三度の食事 ごっつおばっか (ばかり) 呼ばれて サンドサンド呼ばれてとか。

さんな(惨) 1) 無惨である、悲惨である あわれな いたましい 2) 無秩序である [会話] 1) 無惨な、サンナ目に逢う。さんざんな めえ (目) ん (に) おおたよお (逢つた) 言うの な (です)。えらい (大変な) めえ (目) ん (に) 逢うのなあ。散散 ん 言われてとかな 散散に 怒られたとかな サンナ もんやなあ (ものだ) 言うて、憐れな もん (もの) やなあ (だ) 言う様な意味をなあ、サンナ もんやなあ 言うて。

さんなこと 1) 残酷な事 2) 哀れな事

さんなたっかい 難産 [会話] サンナタツカイ言うのは 難産の事。幾日も陣痛 な (が) 来て、一人で (自然に) 出て来る迄 腹痛めて しとんのおを (しているのを)。

さんなもん 衰れなもの。情けないもの。よい所が無い。さんな参照 (志 (布施田))

さんなやすい 安産

さんに 無惨である、さんな参照

さんにかからん 問題にならない。とるに足りない箸にも棒にもかからない。[会話] あや (彼は) まあ サン (棧) ニモボウニモ カカラセンワレ (ない) 言うて、わり (悪い) 事やな (です)。サンニモ ボウニモカカラン 言うて。

ざんね (残念) 【名詞】 【形容詞】 1) 残念 思いのあとに残ること。すんでしまった事や状態に対し、満足出来なくて物足りない感じがする事 末尾んの省略 2) くやしく思う事 (志) [会話] 残念 無念。ザンネやなあ (だ) 言うの (のを)、ひまのかあやなあ (だ) 言うの (のです)

さんねん 【名詞】 魚 はぜ

さんねんうずき 【名詞】 三年も痛いと言う拳骨 [会話] サンネンウズキ やったんどお (やってやるぞ) 言うて、一つ こつくと (叩くと) 三年も うずいとんのおで (痛いので)

さんのじ 1) 三番目 次の次 2) 海魚、にぎだいさんじるし (志、鳥、度、南、熊) [会話] ₁₎ サンノジ、三番目や (だ) 言うねわい (言うのです)、さあ 言うて 手っ取り早い 鰻飯と てこねと 五目はちよいと (少し) サンノジやなあ (です)。

さんばあ (産婆) 【名詞】 助産婦 婦人の出産の助けをする人。老婦人が行なったため婆と言う。

さんばい (三杯) 【名詞】 三杯酢 酢に砂糖 醤油を加えたもの [会話] サンバイ。二杯酢 すだまりの事。サンバイ、すだまりやったら (だったら) 二杯酢やけど (だが) そんでも (それでも) サンバイズ言うやんかい (言います)。さと (砂糖) も入れてなあ サンバイズ。なます サンバイズん (に) して言うのなあ (です)。なますや (だ) 言うて、ちっそお (小さく) うっし (切るし) サンバイズや (だ) 言うて ひらくとお (平に) うってなあ (切って) すんの (するのです)。なますな (が) 粗らくたいと (粗らいた) こやな (これは) サンバイズやんか (でないか) 言うてな。うっすう (薄く) 切ってサンバイズや (だ) 言うの (のです)。ニミリぐらいかなあ そいな (そんなのを) サンバイズ 言うて うっすうて (薄くて)、なますは 同じ味付けやけどなあ (だが)、すだまり すんねけどな あ (するのだが) なますは なますで、サンバイズ

言うな (のは) うちかた (切り方) で ちよいと (少し) 違うのなあ (です) ひらくとお うっもんでなあ。

さんばいず 【名詞】 大根を薄く切って酢、醤油で和えた物。さんばい参照

さんばいづけ (三杯漬) 【名詞】 1) 酢、醤油、砂糖の合せ酢に漬けた大根、人参等の薄切り 2) 魚の塩漬 [会話] ₁₎ サンバイツケ言うな (のは) 酢 (すう) と 醤油 と さと (砂糖) と するの 三杯酢言うやんない (言うでしょう)。だいこ (大根) を なます (膾) より ちよいと (少し) あらくとお (荒く、粗く、大きく) するのを、サンバイツケ 言いおった (言って居た)。人参や だいこ (大根) を 刻むんやけど (のですが) なますより ひらくとお (平らくたく) して うっ (刻む) のをサンバイツケや (だ) 言うて (言って) しいおった (して居ました)。それも言うし ₂₎ 魚を塩漬にしたのを サンバイツケして言うな (言います)。

さんばいづみ 【名詞】 四隻の舟 (まあみ、さかあみ、おきてぶね、たかてぶね) で網漁をした時 三隻の舟に獲った魚を積み込むこと。[会話] サンバイツミや (だ) しはいづみや 言うて、しはいづみ 言うて 四杯え (四隻へ) 積んで 来てと 四杯積み、まあみ さかあみ おきてぶね たかてぶね 言うて 四杯 (四隻) あんねやんかい (有るのです)。そやよ って (だから) 一番 大漁した時や (は) 四杯積み する、たかてぶねい 迄 積むねけど (ののだが) サンバイツミ言うて おきてぶねまでや (です) ちよいと (少し) いっぼ (一本) 獲っても まあみい 積むのなし (です)、まあみ 一杯ん (に) になると さかあみ 言うて、まあみと もやいと とつんのえ (連らなっているのへ) 積んで、それい (へ) 積んで 余ると サンバイツミ 言うの ん (に) になると あ おきてぶね 言うの い (へ) 積むんやんかな (のです)。おきてぶねい (に) 一杯ん (に) になると しはいづみ で たかてぶねい (へ)。てぶね言うのは なあ 石 打って 追うの (のです) 網い (へ) まあみ と さかあみ と 網 積んどて (でいて) 網やるやんない (張るでしょう)。そすと おきてぶね と たかてぶね と なあ 石 ほって (投げて) さいら (秋刀魚) おおてな (追って) 網い (へ) すんの (追うのです) てぶねは。

さんばつ 【名詞】 散髪 (熊) [会話] さんばつ 頭刈る ザンバツ

さんばつや (散髪屋) 【名詞】 髪を刈り整える事を業とする者 理髪店 (一、松、多、伊) [会話] 床屋さん、散髪して来る言うな、刈って、もろて (貰らつて) 来たのをなあ、床屋い (へ) いて (行つて) 来る、頭すりん (に) いく言よおったの (言いました)、散髪言わんと (言わずに) 頭 すりん (に) いかななあ (行かなければ) 言うて、頭 すつて来たか言うて 言よおったな (言っていました) 昔や (は) 散髪言うよおな言葉 つかおかな (使いません)。サンパツヤ 言うのも 床屋 言よおったもんなあ (言ったものです)。

さんばつや (斬髪屋) 【名詞】 床屋 理髪店 (伊)

さんばらい。さんばらい (棧掃) 【名詞】 はたき サンハライ (棧掃) の意 (方言俗語源辞典) (志 (国府、御座、甲賀、浜島、的矢、鶴方、神明、立神、安乗)、鳥、(相差 国崎 桃取 坂手 加茂 神島)、度、松、鈴市、安、張、名) [会話] サンハライ 言うのを 此処ら サンバライ 言うなあ (言います)。サンバライや (と) 言うて。

さんばらがみ 【名詞】 乱髪 (南)

さんばんぐさ 【名詞】 田の除草の3回目 (安、多)

さんばんたれ 【名詞】 三番目に生まれた子供、にばんたれの次、よばんたれ 以下同じ (志 (鶴方、神明、立神、国府))

さんぶくいつつ (三福一對) 【名詞】 三つ揃つて対をなすもの。宴席の祝歌を三つ歌う事 三幅対。三幅一對。掛け物の三幅より変化した語か。[会話] 御膳へ (席に) 着く迄に サンブクイツツイを し いおった (しました)。

さんば 【名詞】 三本 (志、度、伊) [会話] 竹でも杭でも サンボ ゆわえ (結んで) いて (結んで) いて み つがらわ (三本脚) ん (に) すんの (するのを) さぎつちよ。

さんばんじろ (三盆白) 【名詞】 上等の白砂糖 白砂糖を更に精製して、純白の結晶にしたもの。支那人の官のサンボン (三品) より (大言海) 品は親王の位を表す。[会話] サンボンジロ言うのは しいろ いさとを (白砂糖) 真っ白を。ちゅうじろは ち よいと (少し) 赤味の ついとん (ついているのを) げじろは あっかい (赤い) 色しとる。

さんばんびし 【名詞】 先が三つに分かれた鉋 ひし参照 (志) [会話] サンボンビシ言うて さんば (三本)。しほびし言うてな 爪な (が) しほ (四本) 有つてすんのなあ (するのです)。そやけど (しか

し) 海女さんな (が) 普通持つな (のは) サンボン ビシなあ (です)。今しや (今は) にほんびしやけ どなあ (だが) 二本爪な (が) 有つて、てっぼびし、ゴム 引つ張つ (て) いて (て) おいて (て) びゅつと はなすの てっぼびし

さんまい (三昧) 【名詞】 火葬場 三昧場の略 さんまい場 墓地 又は火葬場サウマイ (葬埋) の訛つた語。(方言俗語源辞典) (志、鳥、一、松、多、阿、伊) [会話] サンマイ 墓をサンマイ言 うな (言います)。サンマイ ほりにいた (捨に行つた) 言うて (言つて)、墓へいけに (埋めに) いた (行つた) 言うのを、サンマイへ ほりに行つた 言うて。

さんまい (三枚) 【名詞】 魚を背骨と左右の身の部分に分けること

さんまた (三股) (三又) 【名詞】 先端がY字形になつた棒 物を高い所にかける時などに用いる [会話] 三つになつとる (ている) のおを (のを) サンマタ、おたべ (女陰) の けえ (毛) サンマタン (に) し ておつて (していながら) わるべし (子供のような) 事する。

さんも 【名詞】 1) 三文 一文銭三つ 転じて 価値の低いこと 2) 幼女の女陰 3) 馬鹿 [会話] 1) サンモ、も なららつた (ならなかつた) 言うて、漁な (が) 無い (と) なあ。2) 昔や (は) おたべ (女陰) の事をなあ、サンモ干してそやあれ (それ) 言うて。サンモや (だ) 言よおつたんよお (言いました)。ちちやい (小さい) 時の のおを (のを) サンモ、も 隠さんと (隠さずに) そやれ (それ) 言よおつたの (言つて居たのです)。1) サンモ 言うてなあ ぜん (銭) に なんもなあ (少しも) ならへんのを (ならないのを) 今日は サンモもなららつたよお 言うて。そして ちよいと (少しの) おや (時は) すう (酢) 買う程ん (に) なつて来たよお 言うて 。ほしたや (そおしたら) そげん (そんなに) よけ (沢山) すう 飲むん かい (のですか) 言うて、よお (よく) 言よおつた ね (言つて居たのです)。サンモも なららつた (のは) 物凄 (い) 不漁の時やなあ (です)。3) いげ (人間) の こお (子) でも あんごし (馬鹿) の、あや (彼は) サンモやどお (だ) 言よおつたなあ (言っていました)、三分や (だ) 言うたりな サンモやれ (だ) あやまあ (彼は) あんごして (馬鹿で) 言うて、まだ七分や八分あ (は) ええけど (よ

いのだが) あやまあ (彼は) サンモやれ (だ) 言う
と どいらい (大変) あんごし のを。

さんものつくもならん 全く利益が無い (志 (布施
田))

さんもやす 【名詞】 馬鹿

さんり (三里) 【名詞】 下腿の前面 向う脛、灸を焼
く。[会話] かみそりぼね (骨) 言うんかい (言う
のですか) サンリは。 かみそりぼね 言うけど (言
います)。

さんりんぼ (さんりんぼう) (三隣亡) 【名詞】 民間歴
の厄日 正月、四月、七月、十月は亥の日 二月、
五月、八月は寅の日 三月、六月、九月、十二月は
午の日を言う。此の日に建築を行なうと火災が走り
近隣三軒を焼き亡すとされる。[会話] サンリン
ボは 建てもん (物) すると、かいつてく (倒れて
行きます)。ほんとや (本当です)。わしら (私達)
朝鮮でなあ 小屋組み 言うてなあ 小屋建てんね
(建てるのです)。そしたやなあ (そうしたら) 柱
だけ建てたや (たら) 朝ん (に) 皆 ひっくり返つ
とたね (ていました)。サンリンボ知らんと (ず
に) 建ててなあ そやよつて (だから) たてもん
(建物) すんな (するな) 言うて、サンリンボは。
日柄な (が) わり (悪るい) ひい (日)。サンリン
ボ 言うな (のは) 暦ん (に) 書いて有るやんかな
(有ります)。十日ん (に) 一遍とか、一週間に一
遍とか 有るわい (有ります)、杭 打つても サ
ンリンボやどお (だぞ) 言うて。そして かかな
(妻が) 怒つとると (ていと) 今日はサンリンボ
で かかな 怒つとて (ていて) 言うて。